

安曇野市の埋蔵文化財第 29 集



令和 4 年度
安曇野市埋蔵文化財調査報告書

2024. 3
安曇野市教育委員会

安曇野市の埋蔵文化財第 29 集

Annual Report of
Buried Cultural Property
in Azumino City
April, 2022 - March, 2023

令和 4 年度
安曇野市埋蔵文化財調査報告書

2024. 4

安曇野市教育委員会

表紙写真 中在地遺跡出土 小型甕

裏表紙写真 中在地遺跡調査完了時（東から）

例言

- 1 本書は、^{ながのけんあづみのし}長野県安曇野市で令和4年度（2022年4月1日～2023年3月31日）に実施した埋蔵文化財保護事業の報告書である。
- 2 本書に掲載した調査は、安曇野市教育委員会が実施した。
- 3 本書の編集は、安曇野市教育委員会教育部文化課文化財保護係が行った。執筆は齊藤雄太が担当し、堀久士が統括した。
- 4 本書で使用した主な引用・参考文献は、巻末に一括して掲載した。
- 5 本書掲載の調査に関する出土遺物及び事務書類、記録類は安曇野市教育委員会が保管している。

凡例

- 1 土器の記載では、器形について「形土器」の表記を省略した。
例 甕形土器：甕 高坏形土器：高坏
- 2 土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 3 本書では、平成17年(2005)10月1日の町村合併より前の旧郡名・旧町村名について「旧」を省略し、「南安曇郡」、「豊科町」のように表記した。
- 4 本書掲載の地形図は個別の記載のない場合、安曇野市都市計画基本図（1/2,500）を基図とし、調製したものである。
- 5 文献引用等に際し、各機関の名称を以下のように省略した。
埋蔵文化財センター：埋文センター 教育委員会：教委 編纂委員会：編纂委
- 6 本書で使用する古代の時期区分は、次の文献を参考にし、次ページの表に拠った。
小平和夫 1990 「古代の土器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4—松本市内その1—総論編』
長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書4 長野県埋文センター pp.97-158
松本市教育委員会 2017 『長野県松本市 三間沢川左岸遺跡—発掘調査報告書—』松本市文化財調査報告
No.226 松本市教委

歴暦年代		中央道総論編 (小平 1990)	吉田川西遺跡 (原 1989)	三間沢川左岸遺跡 (松本市教委 2017)
AD700	7 世紀	1 期 幾内系暗文土器 飛鳥Ⅲ・Ⅳ		
	8 世紀	2 期 「美濃国」刻印須恵器	SB227 段階	
3 期		SB1 段階		
4 期				
800		5 期 万年通寶・神功開寶	SB258 段階	
9 世紀	6 期	SB184 段階	I 期 227 住段階 51 住段階	
	7 期 灰釉陶器 黒笹 14 号窯式・光ヶ丘 1 号窯式	SB144 段階	II 期 288 住段階 103 住段階	
	8 期 灰釉陶器 光ヶ丘 1 号窯式	SB111 段階	III 期 174 住段階 223 住段階	
	900	9 期 灰釉陶器 光ヶ丘 1 号窯式・大原 2 号窯式	SB114 段階	IV 期 55 住段階 197 住段階
10 世紀	10 期 灰釉陶器 大原 2 号窯式・虎溪山 1 号窯式	SB94 段階	V 期 138 段階 99 住段階	
	11 期 灰釉陶器 虎溪山 1 号窯式・丸石 2 号窯式	SB52 段階	VI 期 277 住段階	
	1000	12 期 灰釉陶器 虎溪山 1 号窯式・丸石 2 号窯式	SB84 段階	
11 世紀	13 期 灰釉陶器 虎溪山 1 号窯式・丸石 2 号窯式	SB32 段階		
	14 期 灰釉陶器 丸石 2 号窯式・大原 10 号窯式	SB74 段階		
	1100	12 世紀	15 期 灰釉・山茶碗 大原 10 号窯式・西坂 1 号窯式	SB31 段階

小平 1990、松本市教委 2017 をもとに作成

目次

例言・凡例

目次・挿図目次・挿表目次

第1章 令和4年度埋蔵文化財保護事業	1
1 埋蔵文化財保護事業の概要	1
第2章 試掘調査	13
1 穂高高校北遺跡	13
2 藤塚遺跡	16
3 追堀遺跡	19
4 八ツ口遺跡	22
5 明科遺跡群明科廃寺	27
6 上手木戸遺跡	34
7 明科遺跡群明科廃寺	36
8 上手木戸遺跡	41
9 中在地遺跡	44
10 潮遺跡群塩田若宮遺跡	48
11 弥之助畑遺跡	52
12 堀金小学校付近遺跡	55
13 矢原宮地遺跡	61
14 八ツ口遺跡	66
15 藤塚遺跡	69
16 中在地遺跡	74
17 日光寺跡	86
18 追堀遺跡	89
19 明科遺跡群本町遺跡	93
第3章 工事立会	96
1 小瀬幅遺跡	96
引用・参考文献	98
調査報告書抄録	

挿図目次

第 1 図	発掘調査等位置図（北部）……………	2	第 37 図	塩田若宮遺跡試掘土層概念図……	49
第 2 図	発掘調査等位置図（南部）……………	4	第 38 図	弥之助畑遺跡試掘位置図……………	52
第 3 図	発掘調査等位置図（穂高駅周辺）…	6	第 39 図	弥之助畑遺跡試掘トレンチ配置図	53
第 4 図	発掘調査等位置図（明科駅周辺）…	7	第 40 図	弥之助畑遺跡試掘土層概念図……	53
第 5 図	穂高高校北遺跡試掘位置図……………	13	第 41 図	堀金小学校付近遺跡試掘位置図…	55
第 6 図	穂高高校北遺跡試掘トレンチ配置図 ……………	14	第 42 図	堀金小学校付近遺跡試掘トレンチ配置 図……………	56
第 7 図	穂高高校北遺跡試掘土層概念図…	14	第 43 図	堀金小学校付近遺跡試掘調査概要図 ……………	56
第 8 図	藤塚遺跡試掘位置図……………	16	第 44 図	堀金小学校付近遺跡試掘土層概念図 ……………	57
第 9 図	藤塚遺跡試掘トレンチ配置図……	17	第 45 図	矢原宮地遺跡試掘位置図……………	61
第 10 図	藤塚遺跡試掘土層概念図……………	17	第 46 図	矢原宮地遺跡試掘トレンチ配置図	62
第 11 図	追掘遺跡試掘位置図……………	19	第 47 図	矢原宮地遺跡試掘トレンチセク ション図……………	62
第 12 図	追掘遺跡試掘トレンチ配置図……	20	第 48 図	矢原宮地遺跡試掘調査概要図……	63
第 13 図	追掘遺跡試掘土層概念図……………	20	第 49 図	八ツ口遺跡試掘位置図……………	66
第 14 図	八ツ口遺跡試掘位置図……………	22	第 50 図	八ツ口遺跡試掘トレンチ配置図…	67
第 15 図	八ツ口遺跡試掘トレンチ配置図…	23	第 51 図	八ツ口遺跡試掘土層概念図……	67
第 16 図	八ツ口遺跡試掘土層概念図……	23	第 52 図	藤塚遺跡試掘位置図……………	69
第 17 図	八ツ口遺跡試掘土層注記……………	24	第 53 図	藤塚遺跡試掘トレンチ配置図……	70
第 18 図	明科廃寺試掘位置図……………	27	第 54 図	藤塚遺跡試掘 B・C トレンチセクシ ョン図……………	70
第 19 図	明科廃寺試掘トレンチ配置図……	28	第 55 図	藤塚遺跡試掘土層概念図……………	71
第 20 図	明科廃寺試掘 A・B・C トレンチ平面図 ……………	28	第 56 図	中在地遺跡試掘位置図……………	74
第 21 図	明科廃寺試掘 A・B・C トレンチセクシ ョン図……………	29	第 57 図	中在地遺跡試掘トレンチ配置図…	75
第 22 図	上手木戸遺跡試掘位置図……………	34	第 58 図	中在地遺跡試掘 A・B・C トレンチセ クション図……………	75
第 23 図	上手木戸遺跡試掘トレンチ配置図	35	第 59 図	中在地遺跡試掘 A・B・C トレンチ土 層注記……………	76
第 24 図	上手木戸遺跡試掘土層概念図……	35	第 60 図	中在地遺跡試掘 D トレンチ調査概要図 ……………	77
第 25 図	明科廃寺試掘位置図……………	36	第 61 図	中在地遺跡試掘 SI01 出土遺物…	78
第 26 図	明科廃寺試掘トレンチ配置図……	37	第 62 図	中在地遺跡試掘 SI02・SI03 出土遺物 ……………	79
第 27 図	明科廃寺試掘 B トレンチセクション図 ……………	37	第 63 図	中在地遺跡試掘 D トレンチ出土遺物 ……………	80
第 28 図	明科廃寺試掘土層概念図……………	38	第 64 図	日光寺跡試掘位置図……………	86
第 29 図	上手木戸遺跡試掘位置図……………	41	第 65 図	日光寺跡試掘トレンチ配置図……	87
第 30 図	上手木戸遺跡試掘トレンチ配置図	42	第 66 図	日光寺跡試掘土層概念図……………	87
第 31 図	上手木戸遺跡試掘土層概念図……	42			
第 32 図	中在地遺跡試掘位置図……………	44			
第 33 図	中在地遺跡試掘トレンチ配置図…	45			
第 34 図	中在地遺跡試掘調査概要図……	45			
第 35 図	塩田若宮遺跡試掘位置図……………	48			
第 36 図	塩田若宮遺跡試掘トレンチ配置図	49			

第 67 図	追堀遺跡試掘位置図……………	89	第 71 図	本町遺跡試掘トレンチ配置図……	94
第 68 図	追堀遺跡試掘トレンチ配置図……	90	第 72 図	本町遺跡試掘土層概念図……………	94
第 69 図	追堀遺跡試掘土層概念図……………	90	第 73 図	小瀬幅遺跡工事立会位置図…………	96
第 70 図	本町遺跡試掘位置図……………	93	第 74 図	小瀬幅遺跡工事立会土層概念図…	97

挿表目次

第 1 表	発掘調査等一覧……………	8	第 2 表	中在地遺跡試掘出土遺物観察表……	81
-------	--------------	---	-------	------------------	----

第1章 令和4年度埋蔵文化財保護事業

1 埋蔵文化財保護事業の概要

(1) 事務局の体制

令和4年度の安曇野市における埋蔵文化財保護事業は、安曇野市教育委員会教育部文化課文化財保護係が担当した。体制は次のとおりである。

事務局 安曇野市教育委員会教育部 文化課 文化財保護係

文化課長 山下泰永 文化財保護係長 堀久士

文化財保護係 土屋和章、斉藤雄太、佐藤真弓、白居直之、田多井智恵、望月裕子、蓮井民子、
増田真紀

(2) 地理的環境と遺跡の立地

安曇野市は平成17年(2005)10月1日に豊科町^{とよしなまち}、穂高町^{ほたかまち}、三郷村^{みさとむら}、堀金村^{ほりがねむら}、明科町^{あかしなまち}の5町村が合併して誕生した市で、長野県のほぼ中央部に位置し、北は大町市^{おおまち}、松川村^{まつかわむら}、池田町^{いけだまち}、生坂村^{いさかむら}、筑北村^{ちくほくむら}、南は松本市^{まつもと}に隣接する。地形的には松本盆地の中程にあり、西は飛騨山脈^{ひださんみやく}、東は筑摩山地^{ちくまさんち}に囲まれる。

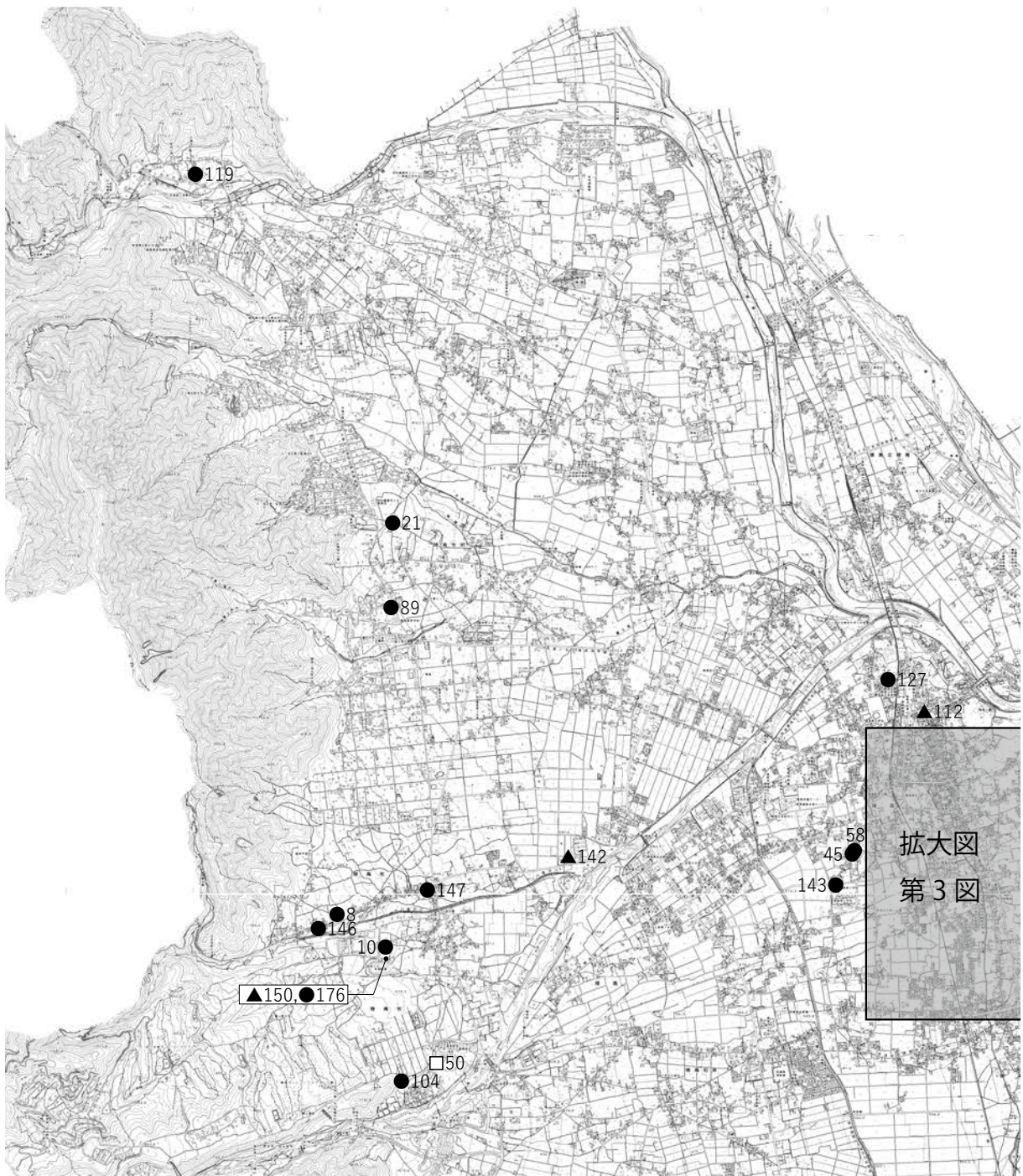
安曇野市内に所在する遺跡は、現在398か所が周知の埋蔵文化財包蔵地となっており、縄文時代早期から近代にわたる。縄文時代の遺跡は、飛騨山脈山麓及び犀川以東の河岸段丘上に多く立地しており、中期後半の遺跡数が多い。弥生時代になると遺跡数は減少し、集落の立地も扇状地扇央及び扇端へ移る。生業形態の変化によって集落の立地が変化した可能性があり、この集落立地は基本的に現代まで踏襲されている。安曇野市では、前・中期の古墳は現在までに確認されておらず、後期の群集墳が飛騨山脈山麓と明科地域に分布する。奈良時代以降は、前時代までの立地を踏襲するように犀川以西の扇端と犀川以東の河岸段丘上に集落が営まれるなか、明科地域では明科遺跡群^{あかしな}明科廃寺^{あかしなはいじ}と呼ばれる古代寺院の存在が確認されている。また、豊科田沢^{とよしなたざわ}の山間部一帯から隣接する松本市域にかけては須恵器窯群が築かれた。

(3) 令和4年度の概要

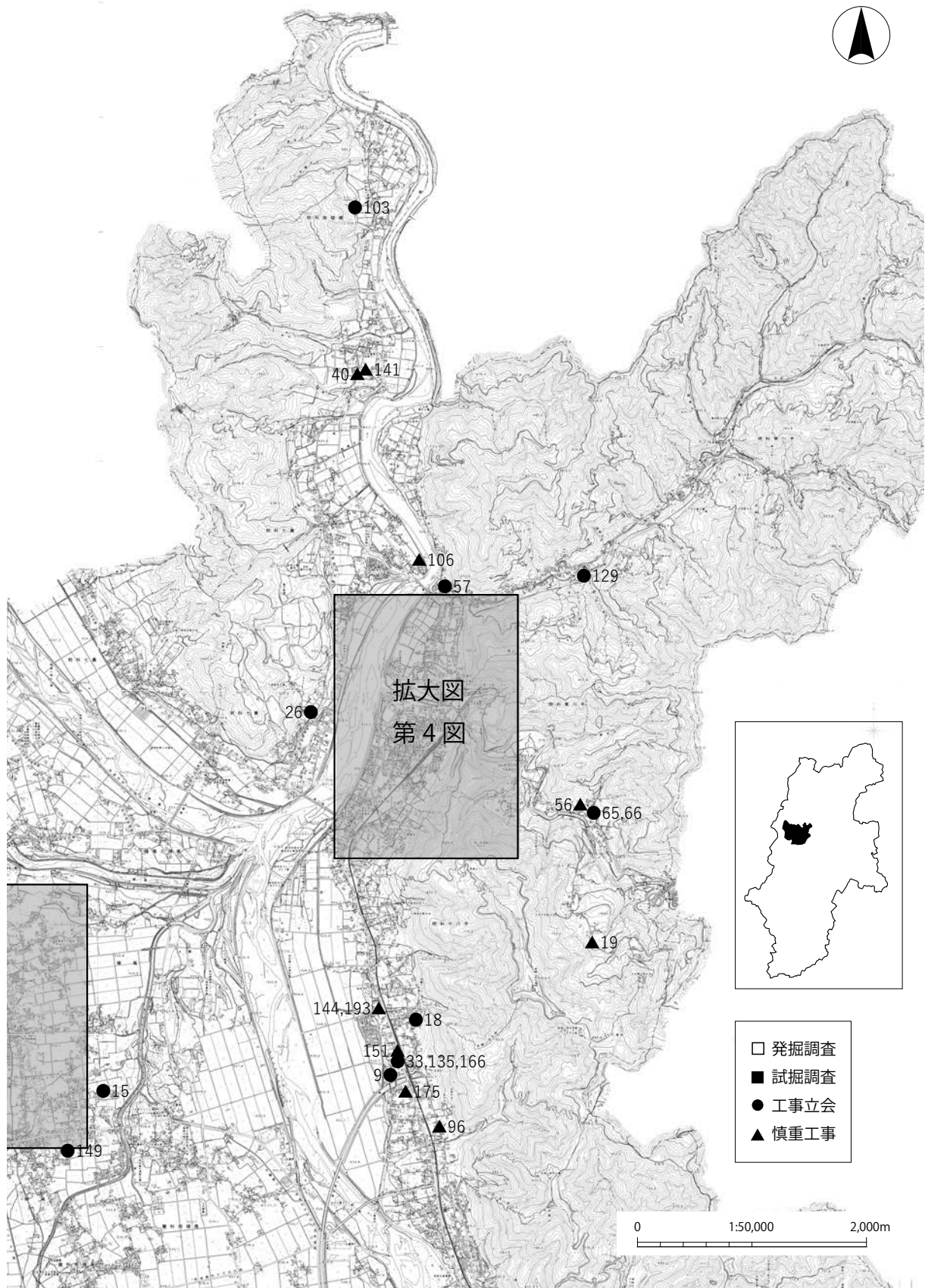
令和4年度の安曇野市内における発掘調査等の総数は全195件¹であった(第1表)。このうち安曇野市教育委員会が主体となって実施した発掘調査等は合計194件で、内訳は発掘調査0件、試掘19件、工事立会106件、慎重工事69件である。それぞれの位置を第1～4図に示す。試掘調査の詳細を第2章に、工事立会のうち特筆すべきものを第3章に記載した。

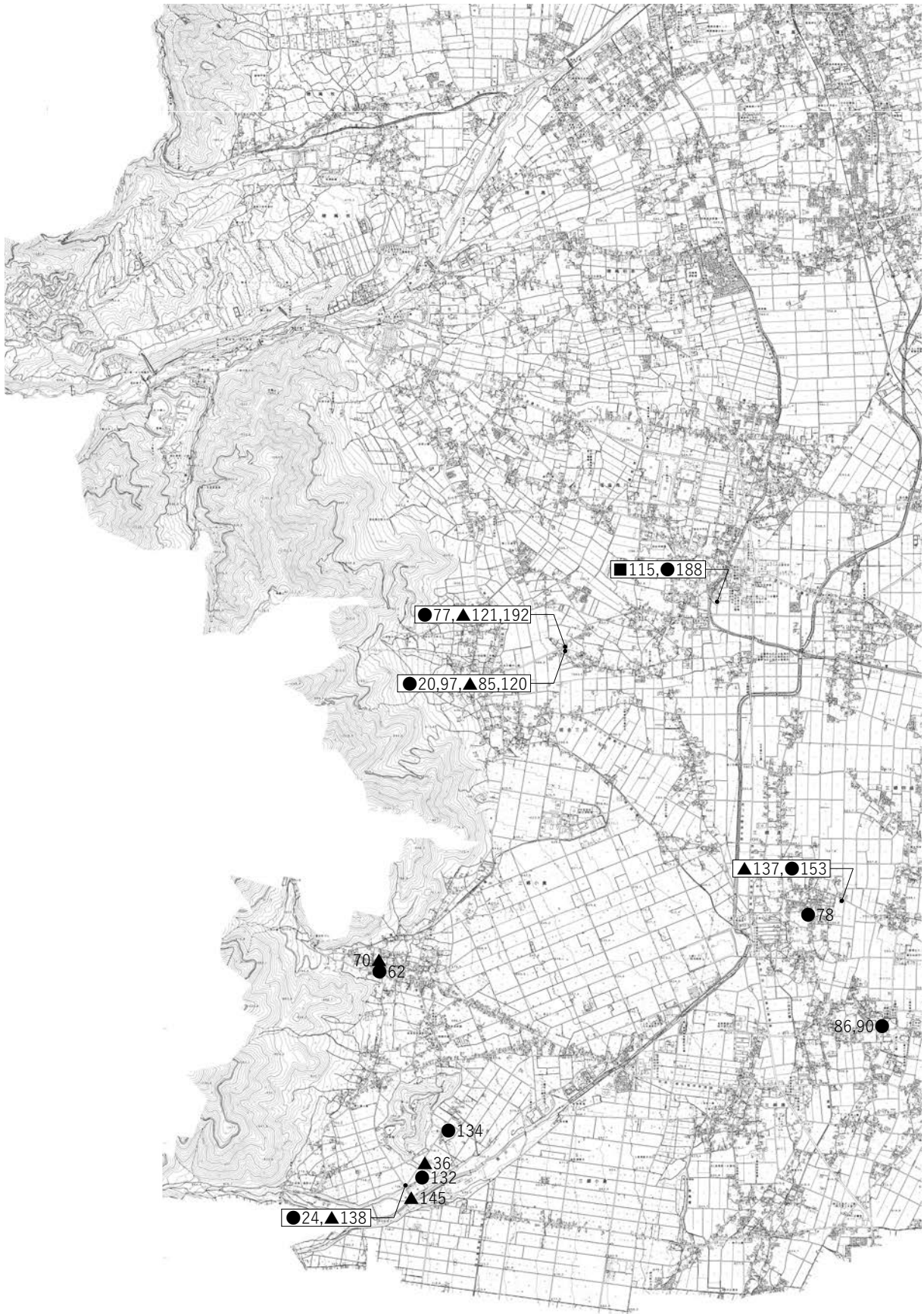
また、安曇野市教育委員会が調査主体となった埋蔵文化財保護事業のほかに、國學院大學文学部考古学研究室^{ほたかこふんぐん}が穂高古墳群^{ごうふん}E6号墳の学術発掘調査を実施している(第1表□50)。

1 調査件数は、文化財保護法第92・93条の規定に基づく届出、同第94条の規定に基づく通知、同第99条の規定に基づく試掘等をそれぞれ1件とした。このため、調査1件につき複数回の工事立会を実施したものもある。

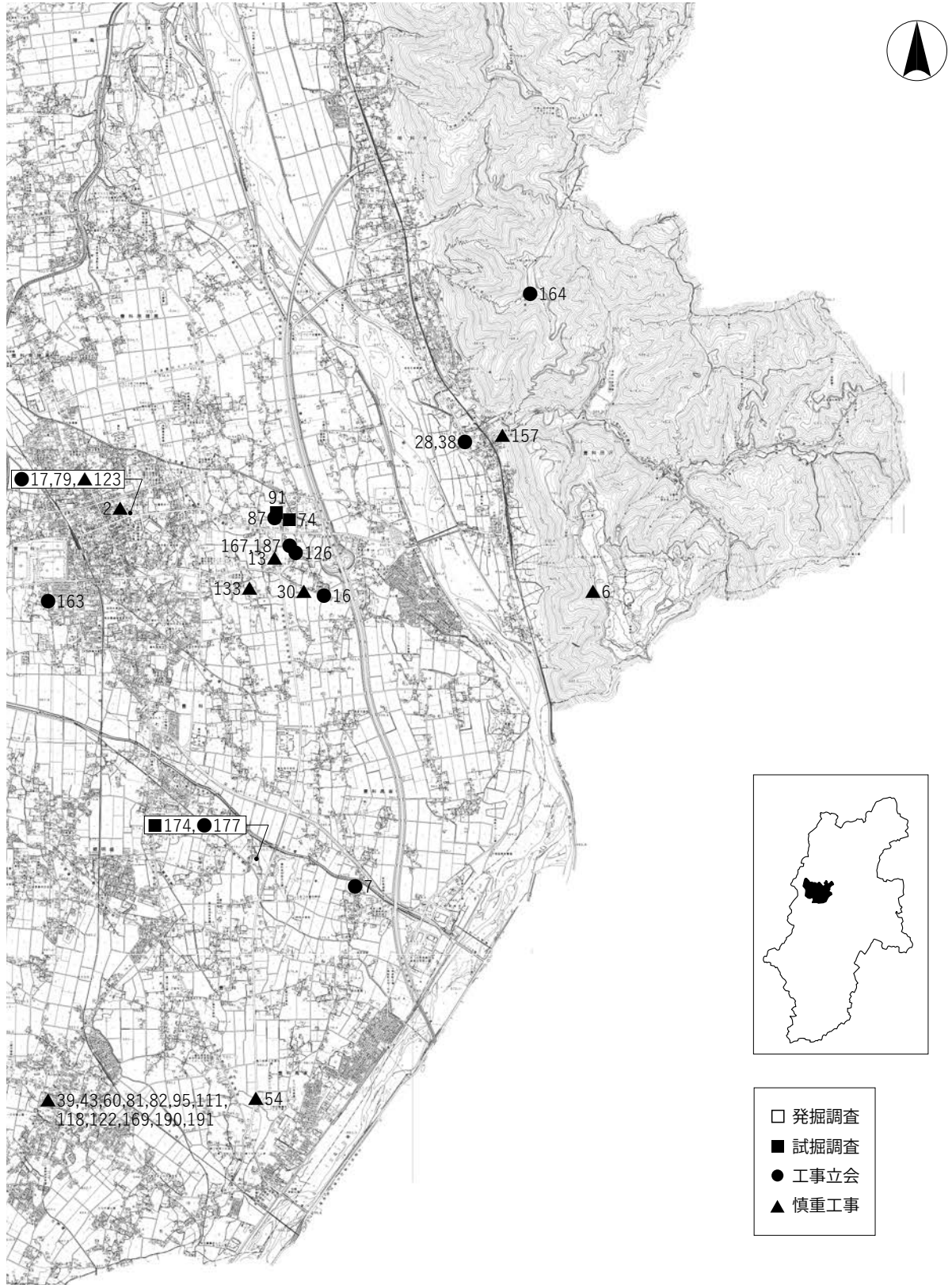


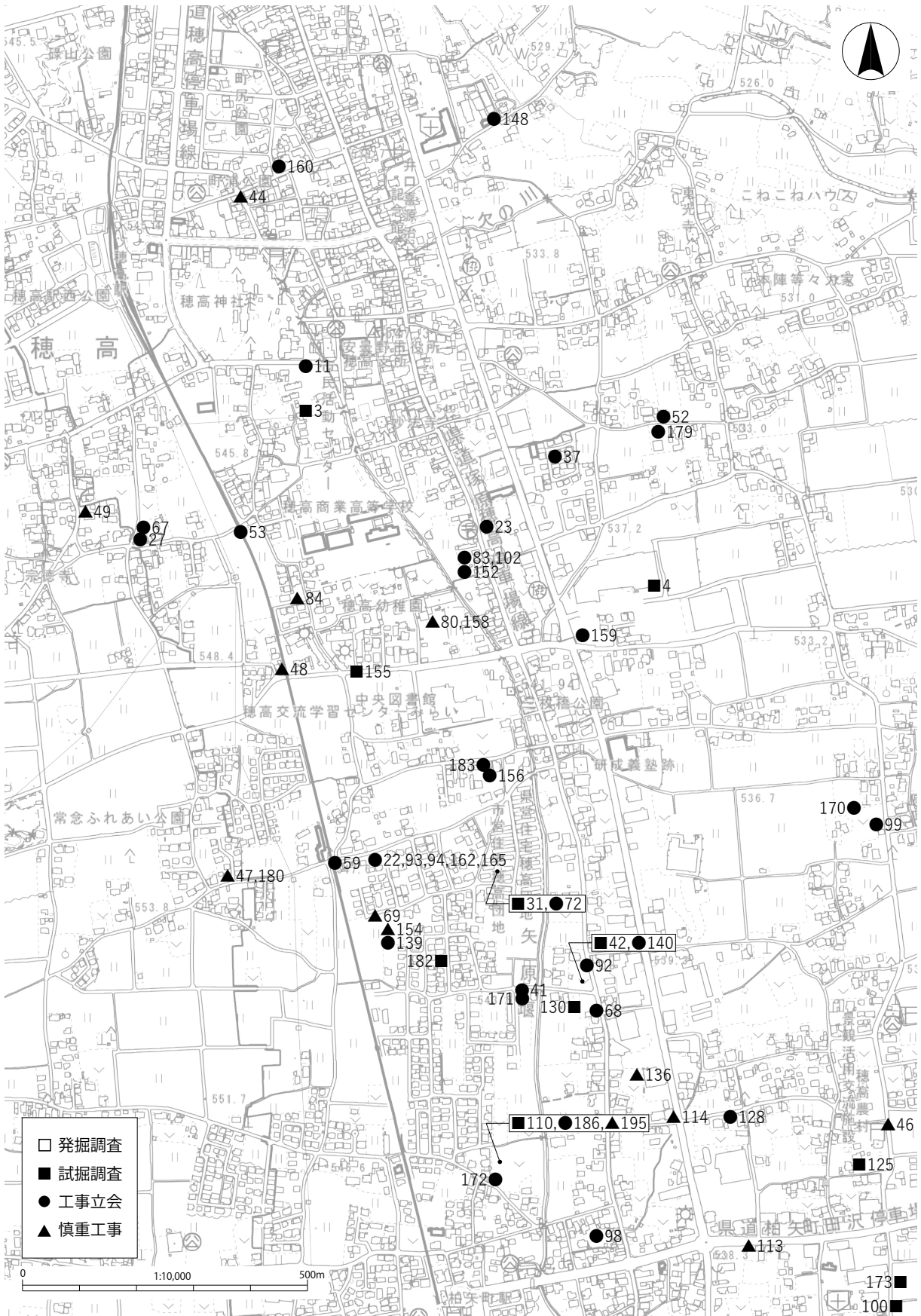
第1図 発掘調査等位置図（北部）



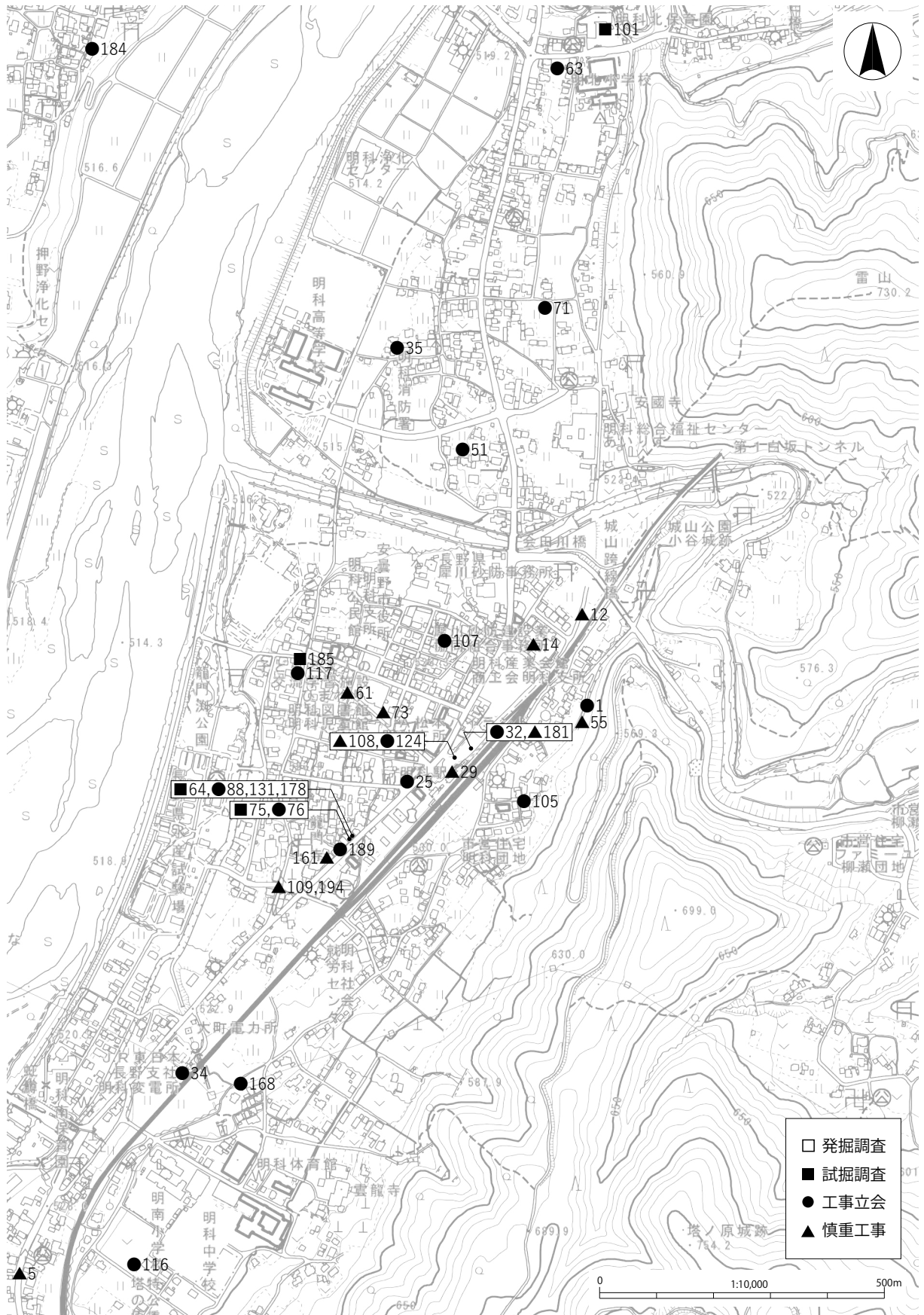


第2図 発掘調査等位置図（南部）





第3図 発掘調査等位置図（穂高駅周辺）



第4図 発掘調査等位置図 (明科駅周辺)

第1章 令和4年度埋蔵文化財保護事業

第1表 発掘調査等一覧（「調査日_至」の順）

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
●1	工事立会	明科遺跡群上郷遺跡	明科中川手 4064 番 1 外 21 筆	その他開発	20220406	20220406	市教委
▲2	慎重工事	法蔵寺館跡	豊科 5719 番	その他開発	20220406	20220406	市教委
■3	試掘	穂高高校北遺跡	穂高 6863 番 3	その他開発	20220412	20220412	市教委
■4	試掘	藤塚遺跡	穂高 2433 番 1 外 24 筆	店舗	20220414	20220414	市教委
▲5	慎重工事	町屋敷遺跡	明科中川手 2253 番 1 先	道路	20220414	20220414	市教委
▲6	慎重工事	上ノ山窯跡群ほか	豊科田沢 8141 番 472 外	その他開発	20220414	20220414	市教委
●7	工事立会	宮前遺跡	豊科高家 766 番 2	その他の建物	20220414	20220414	市教委
●8	工事立会	山崎遺跡	穂高牧 1850 番 7 先	道路	20220415	20220415	市教委
●9	工事立会	光遺跡群北村遺跡	明科光 375 番	個人住宅	20220419	20220419	市教委
●10	工事立会	新林遺跡	穂高牧 1903 番 1	その他開発	20220421	20220421	市教委
●11	工事立会	穂高高校北遺跡	穂高 6646 番 1	ガス・水道・電気等	20220422	20220422	市教委
▲12	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 4111 番 1	ガス・水道・電気等	20220425	20220425	市教委
▲13	慎重工事	上手木戸遺跡	豊科南穂高 271 番 15 外 2 筆	店舗	20220426	20220426	市教委
▲14	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 4161 番 6	個人住宅	20220506	20220506	市教委
●15	工事立会	正島遺跡	穂高 1114 番 3 外 1 筆	個人住宅	20220509	20220509	市教委
●16	工事立会	上手木戸遺跡	豊科南穂高 266 番 1 外	ガス・水道・電気等	20220428	20220512	市教委
●17	工事立会	法蔵寺館跡	豊科 5708 番 2 付近	ガス・水道・電気等	20220514	20220514	市教委
●18	工事立会	光遺跡群北村遺跡	明科光 1 番 5	ガス・水道・電気等	20220520	20220520	市教委
▲19	慎重工事	清水古屋敷	明科中川手 5929 番 1 先	道路	20220523	20220523	市教委
●20	工事立会	なかじま遺跡	堀金三田 1272 番 3	宅地造成	20220524	20220524	市教委
●21	工事立会	小岩嶽下木戸遺跡	穂高有明 3067 番 1 付近	ガス・水道・電気等	20220524	20220524	市教委
●22	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原 1685 番 2 外 1 筆	宅地造成	20220525	20220525	市教委
●23	工事立会	北才の神遺跡	穂高 2507 番 3	個人住宅	20220531	20220531	市教委
●24	工事立会	南松原遺跡	三郷小倉 6011 番 8 先	ガス・水道・電気等	20220607	20220607	市教委
●25	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 3749 番 1	個人住宅	20220516	20220607	市教委
●26	工事立会	上野遺跡	明科七貴 6267 番 5	個人住宅	20220607	20220607	市教委
●27	工事立会	宮脇遺跡	穂高柏原 6609 番 2 外 1 筆	個人住宅	20220609	20220609	市教委
●28	工事立会	小瀬幅遺跡	豊科田沢 4821 番 6	個人住宅	20220613	20220613	市教委
▲29	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡ほか	明科中川手 3704 番 3 のうち	その他の建物	20220615	20220615	市教委
▲30	慎重工事	上手木戸遺跡	豊科南穂高 294 番 24	個人住宅	20220615	20220615	市教委
■31	試掘	追堀遺跡	穂高柏原 1689 番 1 外 2 筆	集合住宅	20220616	20220616	市教委
●32	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 3704 番 2 付近	道路	20211202	20220623	市教委
●33	工事立会	光遺跡群北村遺跡	明科光 185 番 7	個人住宅	20220623	20220623	市教委
●34	工事立会	町屋敷遺跡	明科中川手 3021 番 10	鉄道	20220628	20220628	市教委
●35	工事立会	潮遺跡群古屋敷遺跡	明科東川手 313 番 1	個人住宅	20220630	20220630	市教委
▲36	慎重工事	南松原遺跡	三郷小倉 6412 番 1 外 3 筆	その他開発	20220706	20220706	市教委
●37	工事立会	北才の神遺跡	穂高 2518 番 6	その他の建物	20220708	20220708	市教委
●38	工事立会	小瀬幅遺跡	豊科田沢 4821 番 1	個人住宅	20220721	20220721	市教委
▲39	慎重工事	一日市場郵便局南遺跡	三郷明盛 1671 番 11	個人住宅	20220721	20220721	市教委

第1章 令和4年度埋蔵文化財保護事業

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
▲40	慎重工事	中村経塚	明科南陸郷 1031 番先	道路	20220721	20220721	市教委
●41	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原 1583 番 17	個人住宅	20220726	20220726	市教委
■42	試掘	八ツ口遺跡	穂高柏原 960 番 4 外 4 筆	宅地造成	20220726	20220726	市教委
▲43	慎重工事	一日市場郵便局南遺跡	三郷明盛 1674 番	個人住宅	20220728	20220728	市教委
▲44	慎重工事	穂高神社境内遺跡	穂高 6015 番 10	道路	20220728	20220728	市教委
●45	工事立会	宗徳寺遺跡	穂高 7149 番 1	個人住宅	20220729	20220729	市教委
▲46	慎重工事	矢原宮地遺跡	穂高 769 番 2 先	道路	20220729	20220729	市教委
▲47	慎重工事	大坪沢遺跡	穂高柏原 1711 番 1	その他開発	20220812	20220812	市教委
▲48	慎重工事	南原遺跡	穂高 6893 番 6	その他開発	20220812	20220812	市教委
▲49	慎重工事	宮脇遺跡	穂高 6524 番 1 の一部	その他の建物	20220816	20220816	市教委
□50	発掘調査	穂高古墳群 E6 号墳	穂高牧 29 番 1	学術研究	20220813	20220822	國學院
●51	工事立会	潮遺跡群潮神明宮前遺跡	明科東川手 519 番 1 外 2 筆	ガス・水道・電気等	20220822	20220822	市教委
●52	工事立会	北才の神遺跡	穂高 2768 番	個人住宅	20220822	20220822	市教委
●53	工事立会	南原遺跡	穂高 6876 番付近	鉄道	20220822	20220822	市教委
▲54	慎重工事	真々部巾下遺跡	豊科高家 5107 番 1 先	道路	20220822	20220822	市教委
▲55	慎重工事	明科遺跡群上郷遺跡	明科中川手 4064 番 1 外 21 筆	その他開発	20220822	20220822	市教委
▲56	慎重工事	中沢古屋敷	明科中川手 6678 番 1 先	道路	20220822	20220822	市教委
●57	工事立会	木戸橋ノ爪遺跡	明科東川手 13355 番 5	その他の建物	20220823	20220823	市教委
●58	工事立会	宗徳寺遺跡	穂高 7148 番 1	個人住宅	20220825	20220825	市教委
●59	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原 1684 番 8 付近	鉄道	20220829	20220829	市教委
▲60	慎重工事	一日市場郵便局南遺跡	三郷明盛 1671 番 10	個人住宅	20220830	20220830	市教委
▲61	慎重工事	明科遺跡群県町遺跡	明科中川手 3942 番 1 先	道路	20220830	20220830	市教委
●62	工事立会	才の神遺跡	三郷小倉 455 番 1	その他開発	20220831	20220831	市教委
●63	工事立会	潮遺跡群塩田若宮遺跡	明科東川手 836 番 1 の一部	その他の建物	20220902	20220902	市教委
■64	試掘	明科遺跡群明科廃寺	明科中川手 3774 番 7 外 1 筆	保存目的	20220907	20220907	市教委
●65	工事立会	中沢古屋敷	明科中川手 6482 番 1	道路	20220907	20220907	市教委
●66	工事立会	中沢古屋敷	明科中川手 6465 番 1 先	ガス・水道・電気等	20220907	20220907	市教委
●67	工事立会	宮脇遺跡	穂高 6609 番 3 外 1 筆	個人住宅	20220912	20220912	市教委
●68	工事立会	八ツ口遺跡	穂高柏原 954 番 2	ガス・水道・電気等	20220912	20220912	市教委
▲69	慎重工事	追堀遺跡	穂高柏原 1645 番 11	個人住宅	20220912	20220912	市教委
▲70	慎重工事	才の神遺跡	三郷小倉 407 番 4	その他の建物	20220912	20220912	市教委
●71	工事立会	潮遺跡群新屋遺跡	明科東川手 658 番 2 外 1 筆	集合住宅	20220913	20220913	市教委
●72	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原 1689 番 1 外 2 筆	集合住宅	20220914	20220914	市教委
▲73	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 6814 番 20	その他の建物	20220915	20220915	市教委
■74	試掘	上手木戸遺跡	豊科南穂高 138 番 1	その他開発	20220916	20220916	市教委
■75	試掘	明科遺跡群明科廃寺	明科中川手 3774 番 3 外 1 筆	保存目的	20220916	20220916	市教委
●76	工事立会	明科遺跡群明科廃寺	明科中川手 3774 番	その他開発	20220916	20220916	市教委
●77	工事立会	なかじま遺跡	堀金三田 1277 番 6	宅地造成	20220920	20220920	市教委
●78	工事立会	楡中村遺跡	三郷温 4944 番 1 の一部	個人住宅	20220922	20220922	市教委

第1章 令和4年度埋蔵文化財保護事業

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
●79	工事立会	法蔵寺館跡	豊科5703番3外2筆	店舗	20220927	20220927	市教委
▲80	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6802番	その他の建物	20220928	20220928	市教委
▲81	慎重工事	一日市場郵便局南遺跡	三郷明盛1671番9	個人住宅	20220928	20220928	市教委
▲82	慎重工事	一日市場郵便局南遺跡	三郷明盛1671番13	個人住宅	20220928	20220928	市教委
●83	工事立会	北才の神遺跡	穂高6714番20	個人住宅	20221003	20221003	市教委
▲84	慎重工事	南原遺跡	穂高6886番5	個人住宅	20221003	20221003	市教委
▲85	慎重工事	なかじま遺跡	堀金三田1272番16	個人住宅	20221003	20221003	市教委
●86	工事立会	三柱神社東遺跡	三郷明盛4876番3先外	ガス・水道・電気等	20221006	20221006	市教委
●87	工事立会	上手木戸遺跡	豊科南穂高95番1	ガス・水道・電気等	20221006	20221006	市教委
●88	工事立会	明科遺跡群明科廃寺	明科中川手3774番7外1筆	個人住宅	20221004	20221007	市教委
●89	工事立会	小岩嶽下木戸遺跡	穂高有明3618番3	その他開発	20221011	20221011	市教委
●90	工事立会	三柱神社東遺跡	三郷明盛4875番3先外	ガス・水道・電気等	20221011	20221011	市教委
■91	試掘	上手木戸遺跡	豊科南穂高96番6外2筆	個人住宅	20221007	20221011	市教委
●92	工事立会	ハツ口遺跡	穂高柏原960番4	ガス・水道・電気等	20221014	20221014	市教委
●93	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1685番17	個人住宅	20221014	20221014	市教委
●94	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1675番23	個人住宅	20221014	20221014	市教委
▲95	慎重工事	一日市場郵便局南遺跡	三郷明盛1671番15	個人住宅	20221014	20221014	市教委
▲96	慎重工事	光遺跡群中条遺跡	明科光763番1先	道路	20221014	20221014	市教委
●97	工事立会	なかじま遺跡	堀金三田1272番3外1筆	個人住宅	20221018	20221018	市教委
●98	工事立会	馬場街道遺跡	穂高柏原907番22	個人住宅	20221019	20221019	市教委
●99	工事立会	三枚橋遺跡	穂高1559番1外7筆	宅地造成	20221019	20221019	市教委
■100	試掘	中在地遺跡	穂高528番	個人住宅	20221020	20221020	市教委
■101	試掘	潮遺跡群塩田若宮遺跡	明科東川手872番1	その他の建物	20221024	20221024	市教委
●102	工事立会	北才の神遺跡	穂高6714番19	個人住宅	20221026	20221026	市教委
●103	工事立会	上ノ段遺跡	明科南陸郷2628番10	ガス・水道・電気等	20221028	20221028	市教委
●104	工事立会	堰下遺跡	穂高牧2315番4	ガス・水道・電気等	20221028	20221028	市教委
●105	工事立会	明科遺跡群上郷遺跡	明科中川手3655番7	個人住宅	20221101	20221101	市教委
▲106	慎重工事	伊勢宮遺跡	明科七貴8953番4	道路	20221101	20221101	市教委
●107	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手6824番84	ガス・水道・電気等	20221104	20221104	市教委
▲108	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手3704番4	ガス・水道・電気等	20221108	20221108	市教委
▲109	慎重工事	明科遺跡群県町遺跡	明科中川手3359番2先	道路	20221108	20221108	市教委
■110	試掘	弥之助畑遺跡	穂高柏原1562番1外1筆	宅地造成	20221109	20221109	市教委
▲111	慎重工事	一日市場郵便局南遺跡	三郷明盛1674番14	その他の建物	20221109	20221109	市教委
▲112	慎重工事	等々力町巾上巾下遺跡	穂高4509番8	その他開発	20221109	20221109	市教委
▲113	慎重工事	馬場街道遺跡	穂高775番6	その他開発	20221109	20221109	市教委
▲114	慎重工事	矢原権現池遺跡	穂高996番5	その他開発	20221109	20221109	市教委
■115	試掘	堀金小学校付近遺跡	堀金烏川2842番1の内外3筆	宅地造成	20221114	20221114	市教委
●116	工事立会	上手屋敷遺跡	明科中川手2548番5	個人住宅	20221003	20221114	市教委
●117	工事立会	明科遺跡群本町遺跡	明科中川手3930番1	個人住宅	20221115	20221115	市教委

第1章 令和4年度埋蔵文化財保護事業

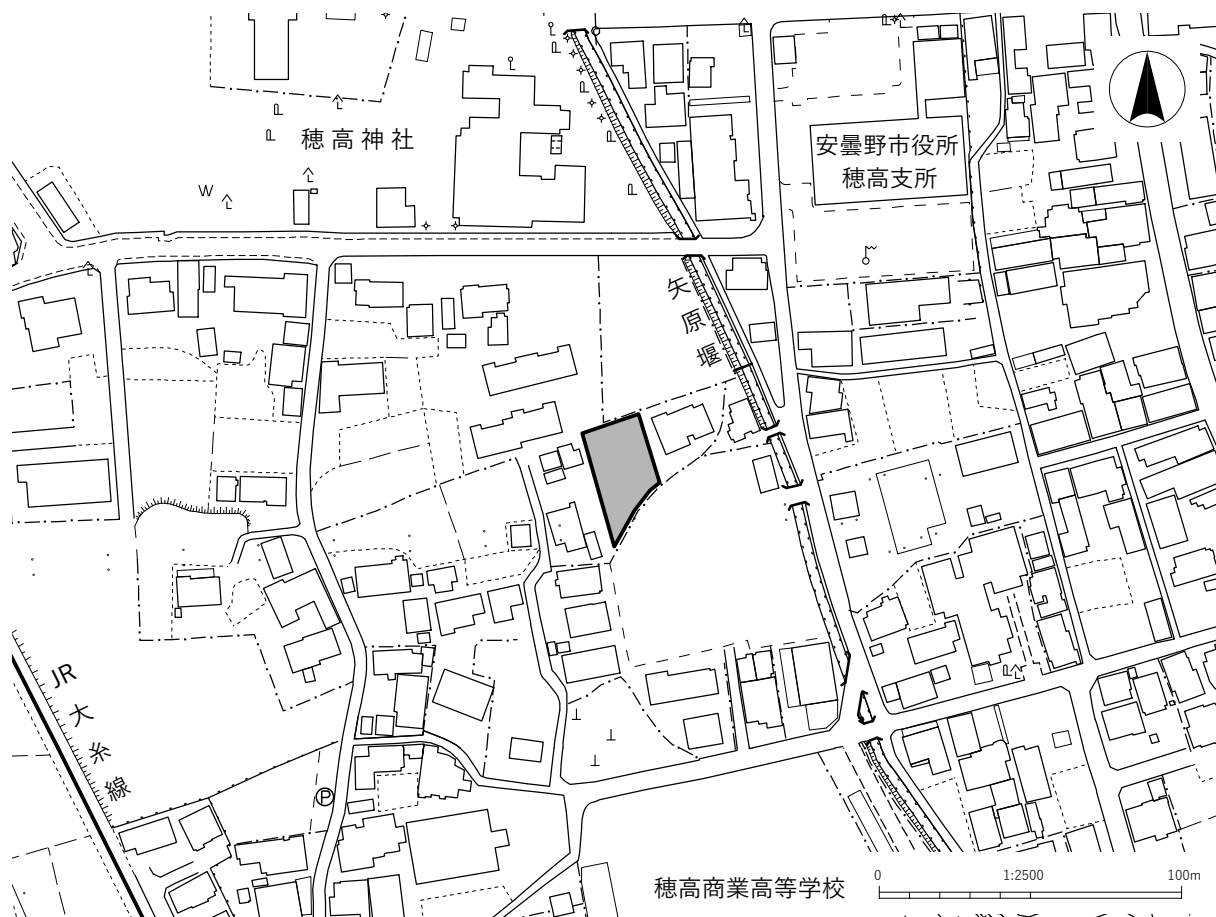
No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
▲118	慎重工事	一日市場郵便局南遺跡	三郷明盛 1666 番 4	個人住宅	20221116	20221116	市教委
●119	工事立会	宮城遺跡	有明 6991 番 2	その他開発	20221118	20221118	市教委
▲120	慎重工事	なかじま遺跡	堀金三田 1272 番 15 外 1 筆	個人住宅	20221121	20221121	市教委
▲121	慎重工事	なかじま遺跡	堀金三田 1277 番 6	ガス・水道・電気等	20221121	20221121	市教委
▲122	慎重工事	一日市場郵便局南遺跡	三郷明盛 1671 番 12	個人住宅	20221121	20221121	市教委
▲123	慎重工事	法蔵寺館跡	豊科 5703 番 3 の一部	店舗	20221121	20221121	市教委
●124	工事立会	明科遺跡群県町遺跡ほか	明科中川手 3704 番 2 付近	道路	20221122	20221122	市教委
■125	試掘	矢原宮地遺跡	穂高 823 番 4 外 1 筆	個人住宅	20221122	20221122	市教委
●126	工事立会	上手木戸遺跡	豊科南穂高 153 番 4	個人住宅	20220707	20221124	市教委
●127	工事立会	貝梅道上遺跡	穂高 5032 番 1 先	ガス・水道・電気等	20221124	20221124	市教委
●128	工事立会	矢原五輪畑遺跡	穂高 977 番 1	個人住宅	20221124	20221124	市教委
●129	工事立会	山中中屋敷遺跡	明科東川手 1753 番 1	その他開発	20221128	20221128	市教委
■130	試掘	ハッ口遺跡	穂高柏原 955 番 1 外 1 筆	宅地造成	20221129	20221129	市教委
●131	工事立会	明科遺跡群明科廃寺	明科中川手 3774 番	ガス・水道・電気等	20221129	20221129	市教委
●132	工事立会	南松原遺跡	三郷小倉 1928 番 1	その他農業関連事業	20221129	20221129	市教委
▲133	慎重工事	梶海渡遺跡	豊科 3796 番 3	個人住宅	20221202	20221202	市教委
●134	工事立会	南松原遺跡	三郷小倉 2109 番 3 外 5 筆	個人住宅	20221205	20221205	市教委
●135	工事立会	光遺跡群北村遺跡	明科光 185 番 6	個人住宅	20221206	20221206	市教委
▲136	慎重工事	矢原権現池遺跡	穂高 1006 番 付近	河川	20221206	20221206	市教委
▲137	慎重工事	楡小路遺跡	三郷温 5535 番 2	その他の建物	20221207	20221207	市教委
▲138	慎重工事	南松原遺跡	三郷小倉 1917 番 2	ガス・水道・電気等	20221209	20221209	市教委
●139	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原 1645 番 10	個人住宅	20221212	20221212	市教委
●140	工事立会	ハッ口遺跡	穂高柏原 960 番 18 外 1 筆	個人住宅	20221214	20221214	市教委
▲141	慎重工事	中村経塚	明科南陸郷 990 番 1 付近	ガス・水道・電気等	20221214	20221214	市教委
▲142	慎重工事	空保木城跡	穂高牧 1086 番 外 2 筆	その他の建物	20221214	20221214	市教委
●143	工事立会	芝宮南遺跡	穂高 7177 番 1 先	ガス・水道・電気等	20221216	20221216	市教委
▲144	慎重工事	絵然寺古屋敷遺跡	明科中川手 181 番 16	個人住宅	20221219	20221219	市教委
▲145	慎重工事	南松原遺跡	三郷小倉 6011 番 5 先外	ガス・水道・電気等	20221219	20221219	市教委
●146	工事立会	山崎遺跡	穂高牧 1846 番 16	その他開発	20221220	20221220	市教委
●147	工事立会	神谷遺跡	穂高牧 912 番 1 の一部	個人住宅	20221226	20221226	市教委
●148	工事立会	等々力町巾上巾下遺跡	穂高 4619 番 3	個人住宅	20221226	20221226	市教委
●149	工事立会	馬場街道遺跡	穂高 771 番 1 先	ガス・水道・電気等	20221227	20221227	市教委
▲150	慎重工事	新林遺跡	穂高牧 1928 番 1	ガス・水道・電気等	20221227	20221227	市教委
▲151	慎重工事	光遺跡群北村遺跡	明科光 191 番 3 先	道路	20230104	20230104	市教委
●152	工事立会	北才の神遺跡	穂高 6714 番 18	個人住宅	20230110	20230110	市教委
●153	工事立会	楡小路遺跡	三郷温 5535 番 2 の一部	個人住宅	20230110	20230110	市教委
▲154	慎重工事	追堀遺跡	穂高柏原 1645 番 8	個人住宅	20230110	20230110	市教委
■155	試掘	藤塚遺跡	穂高 6780 番 8 付近	道路	20221214	20230111	市教委
●156	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原 1692 番 付近	ガス・水道・電気等	20230118	20230118	市教委

第1章 令和4年度埋蔵文化財保護事業

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
▲157	慎重工事	円満寺跡	豊科田沢4917番1外3筆	その他開発	20230118	20230118	市教委
▲158	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6802番	その他の建物	20230118	20230118	市教委
●159	工事立会	藤塚遺跡	穂高2451番の一部外	店舗	20230120	20230120	市教委
●160	工事立会	穂高神社境内遺跡	穂高5996番1	個人住宅	20230123	20230123	市教委
▲161	慎重工事	明科遺跡群馬町遺跡	明科中川手3520番1	個人住宅	20230131	20230131	市教委
●162	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1685番2	個人住宅	20230202	20230202	市教委
●163	工事立会	柳原遺跡	豊科2135番付近	ガス・水道・電気等	20230204	20230204	市教委
●164	工事立会	光城跡	豊科田沢7294番イ-1-3外	その他開発	20230206	20230206	市教委
●165	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1685番16	個人住宅	20230208	20230208	市教委
●166	工事立会	光遺跡群馬村遺跡	明科光185番3外1筆	個人住宅	20230209	20230209	市教委
●167	工事立会	上手木戸遺跡	豊科南穂高274番3	ガス・水道・電気等	20230209	20230209	市教委
●168	工事立会	上手屋敷遺跡	明科中川手2645番1	個人住宅	20230209	20230209	市教委
▲169	慎重工事	一日市場郵便局南遺跡	三郷明盛1674番11	個人住宅	20230213	20230213	市教委
●170	工事立会	三枚橋遺跡	穂高1559番13	個人住宅	20230214	20230214	市教委
●171	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1583番14	個人住宅	20230215	20230215	市教委
●172	工事立会	弥之助畑遺跡	穂高柏原1562番2付近	ガス・水道・電気等	20230216	20230216	市教委
■173	試掘	中在地遺跡	穂高753番1外2筆	宅地造成	20230215	20230217	市教委
■174	試掘	日光寺跡	豊科1357番1外2筆	宅地造成	20230220	20230220	市教委
▲175	慎重工事	光遺跡群馬村遺跡	明科光528番4外1筆	その他の建物	20230220	20230220	市教委
●176	工事立会	新林遺跡	穂高牧1928番1	その他開発	20230222	20230222	市教委
●177	工事立会	日光寺跡	豊科1356番4先外	ガス・水道・電気等	20230227	20230227	市教委
●178	工事立会	明科遺跡群馬科廃寺ほか	明科中川手3336番1先外	その他の建物	20230228	20230228	市教委
●179	工事立会	北才の神遺跡	穂高2815番1外1筆	その他の建物	20230228	20230228	市教委
▲180	慎重工事	大坪沢遺跡	穂高柏原1711番1	個人住宅	20230228	20230228	市教委
▲181	慎重工事	明科遺跡群馬町遺跡	明科中川手3704番6付近	道路	20230228	20230228	市教委
■182	試掘	追堀遺跡	穂高柏原1649番7	個人住宅	20230301	20230301	市教委
●183	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1692番10外1筆	個人住宅	20230303	20230303	市教委
●184	工事立会	塩川原遺跡	明科七貴7266番1外1筆	その他開発	20230308	20230308	市教委
■185	試掘	明科遺跡群馬町遺跡ほか	明科中川手3929番5先	道路	20230309	20230309	市教委
●186	工事立会	弥之助畑遺跡	穂高柏原1562番9	個人住宅	20230309	20230309	市教委
●187	工事立会	上手木戸遺跡	豊科南穂高274番3	個人住宅	20230314	20230314	市教委
●188	工事立会	堀金小学校付近遺跡	堀金烏川2842番1外1筆	ガス・水道・電気等	20230202	20230315	市教委
●189	工事立会	明科遺跡群馬科廃寺ほか	明科中川手3336番1先外	その他の建物	20230316	20230316	市教委
▲190	慎重工事	一日市場郵便局南遺跡	三郷明盛1671番8	個人住宅	20230317	20230317	市教委
▲191	慎重工事	一日市場郵便局南遺跡	三郷明盛1674番13	個人住宅	20230317	20230317	市教委
▲192	慎重工事	なかじま遺跡	堀金三田1277番8	個人住宅	20230317	20230317	市教委
▲193	慎重工事	給然寺古屋敷遺跡	明科中川手117番外2筆	ガス・水道・電気等	20230317	20230317	市教委
▲194	慎重工事	明科遺跡群馬町遺跡	明科中川手3347番4先外	ガス・水道・電気等	20230320	20230320	市教委
▲195	慎重工事	弥之助畑遺跡	穂高柏原1562番16	個人住宅	20230329	20230329	市教委

第2章 試掘調査

1 穂高高校北遺跡（第1表■3）



第5図 穂高高校北遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市穂高 6863 番 3	調査面積	3㎡
調査期間	令和4年（2022）4月12日	調査契機	その他開発
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、白居直之、田多井智恵		

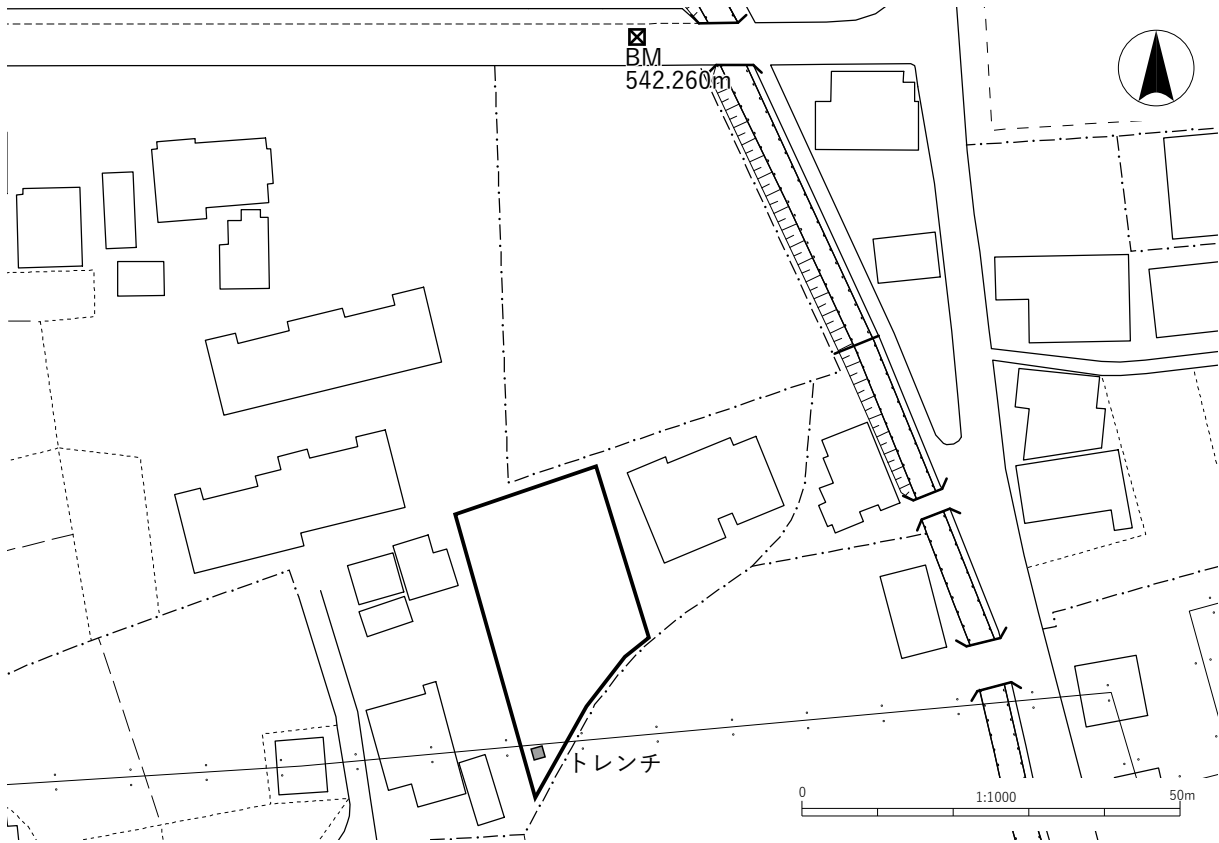
(1) 概要

穂高高校北遺跡は、烏川扇状地扇央に所在する平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに発掘調査を実施した記録はない。

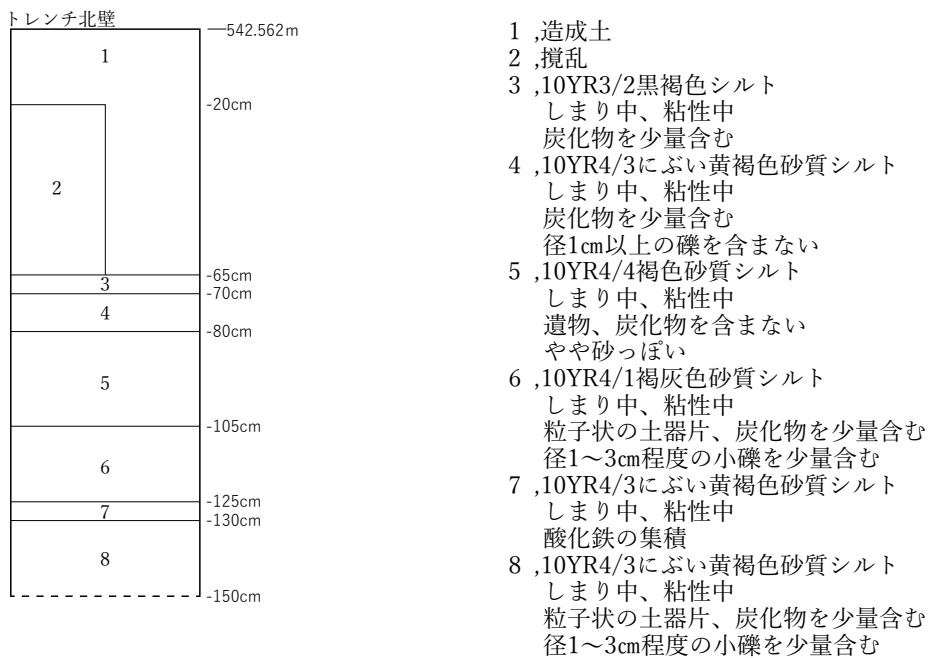
今回は浸透柵計画地に調査区を設定し、試掘調査を実施した。その結果、攪乱層の下位にシルト層（第3～8層）が存在し、第6層、第8層では粒子状の土器片を検出したが、遺構は存在しなかった。

上記の結果から、今回の工事での本発掘調査は不要と判断した。

第2章 試掘調査



第6図 穂高高校北遺跡試掘トレンチ配置図



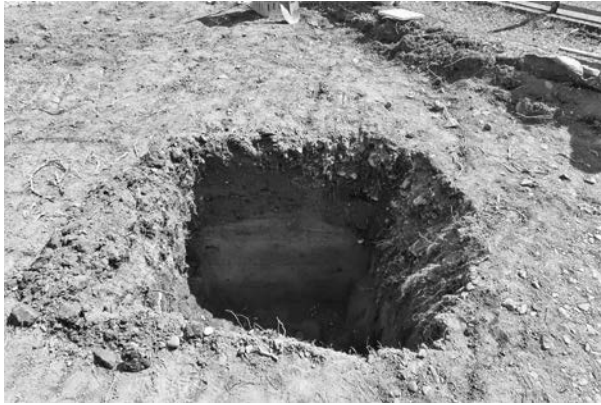
第7図 穂高高校北遺跡試掘土層概念図



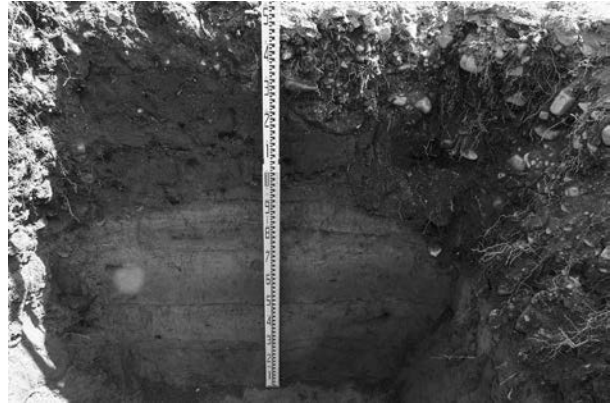
1 調査地全景（南から）



2 調査地全景（北から）



3 トレンチ完掘（西から）



4 トレンチ東壁



5 トレンチ東壁（深掘り）

2 藤塚遺跡（第1表■4）



第8図 藤塚遺跡試掘位置図

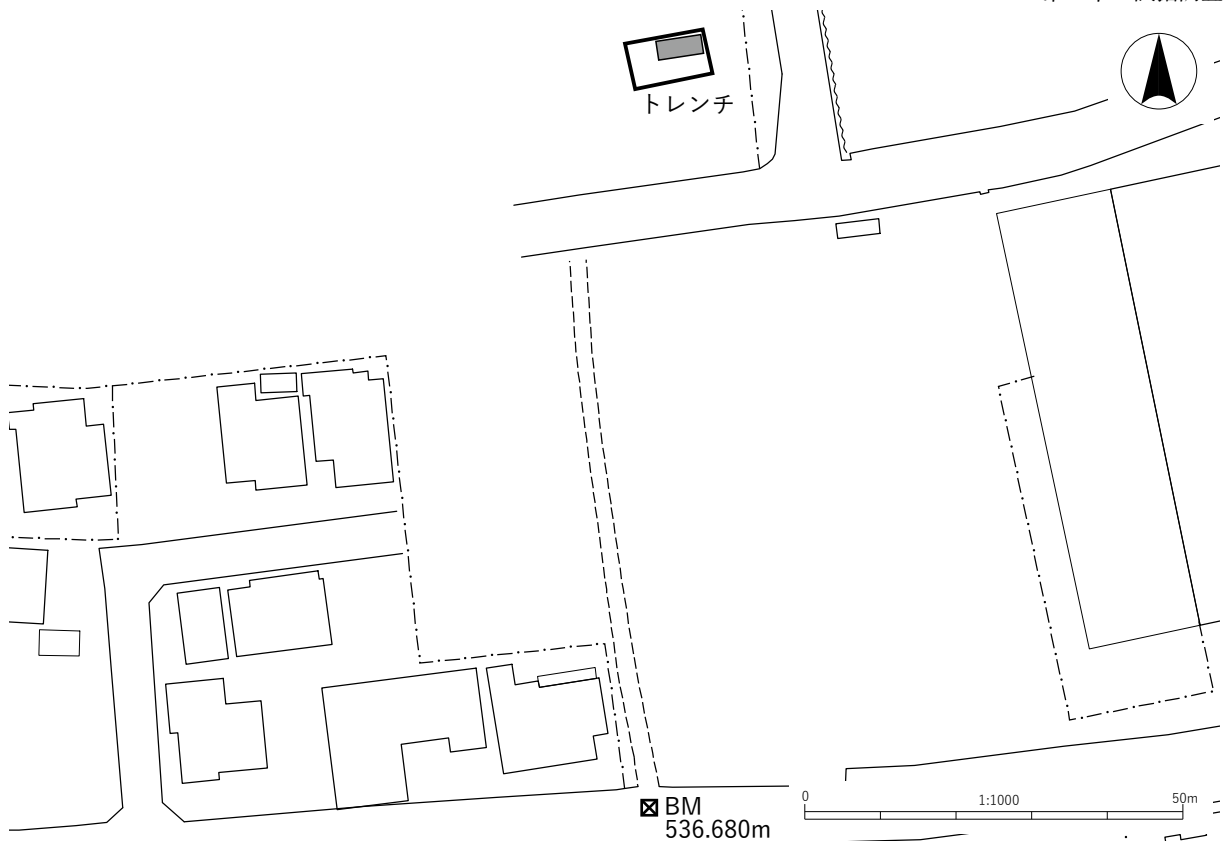
所在地	安曇野市穂高 2433 番 1 外 24 筆	調査面積	15㎡
調査期間	令和4年（2024）4月14日	調査契機	店舗
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、白居直之、田多井智恵、望月裕子		

(1) 概要

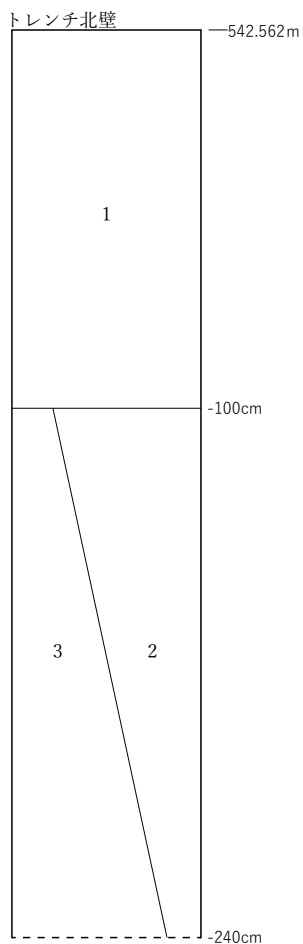
藤塚遺跡は、烏川扇状地扇央に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに2次の発掘調査を実施しており、古墳時代及び奈良、平安時代の集落跡を確認している（安曇野市教委 2009）。

今回は雨水貯留施設に調査区を設定し、試掘調査を実施した。その結果、造成土の下位は粘土または砂礫で、遺構、遺物は存在しなかった。

上記の結果から、今回の工事での本発掘調査は不要と判断した。



第9図 藤塚遺跡試掘トレンチ配置図



- 1 ,盛土(造成土)攪乱
- 2 ,10YR4/1褐灰色礫混じりの粘土
しまり中、粘性強
径20cm程度の円礫主体
廃棄物を少量含む
- 3 ,10YR4/3にぶい黄褐色砂礫
しまり弱、粘性弱
第1層との境界に鉄、マンガンの集積

第10図 藤塚遺跡試掘土層概念図

第2章 試掘調査



1 調査地全景（南から）



2 調査地全景（北から）



3 トレンチ完掘（北から）



4 トレンチ北壁

3 追堀遺跡（第1表■31）



第11図 追堀遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市穂高柏原 1689 番 1 外 2 筆	調査面積	7㎡
調査期間	令和4年(2022)6月16日	調査契機	集合住宅
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、山下泰永、臼居直之、田多井智恵、望月裕子		

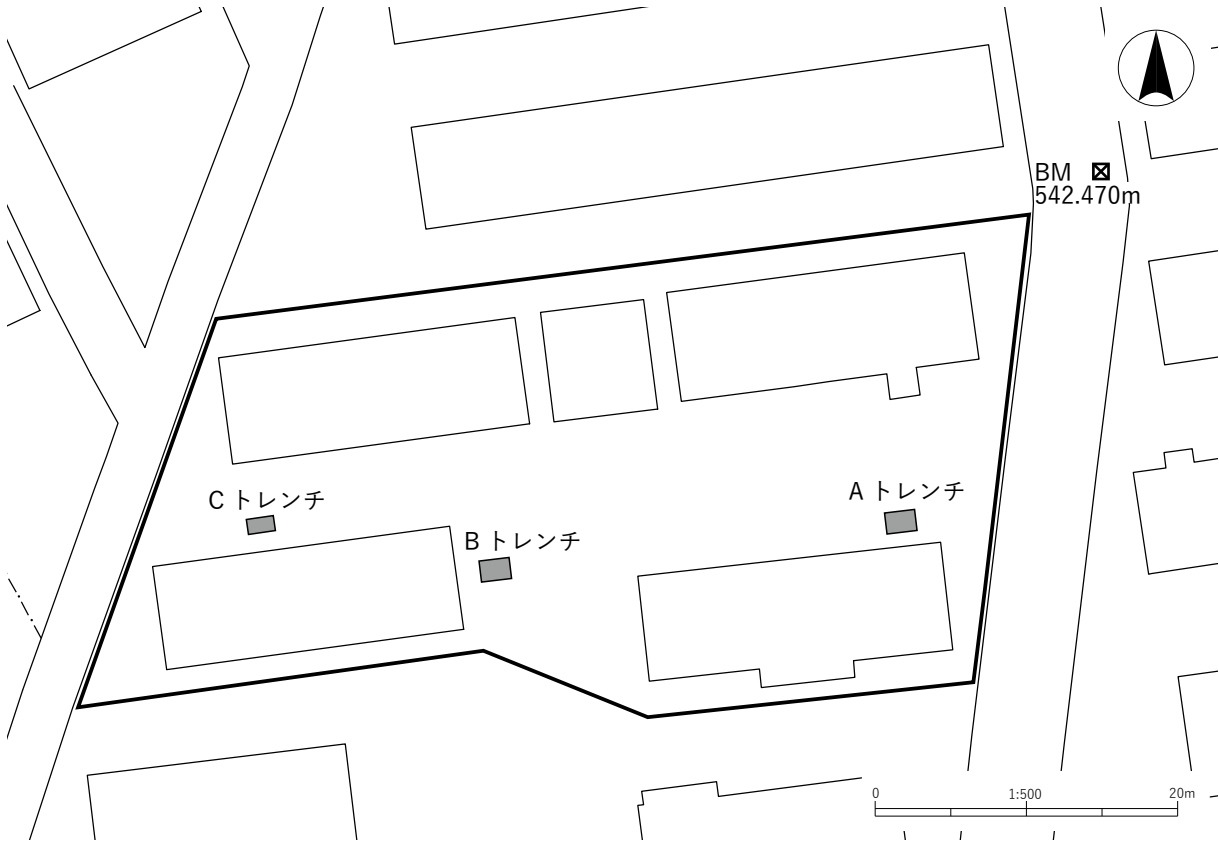
(1) 概要

おっぼり
追堀遺跡は、烏川扇状地の扇央に所在する平安時代の集落跡である。この遺跡では、平成29年(2017)度に小規模な発掘調査を実施したほか、試掘及び工事立会を継続しており、平安時代の遺構分布が明らかになりつつある(安曇野市教委2019)。

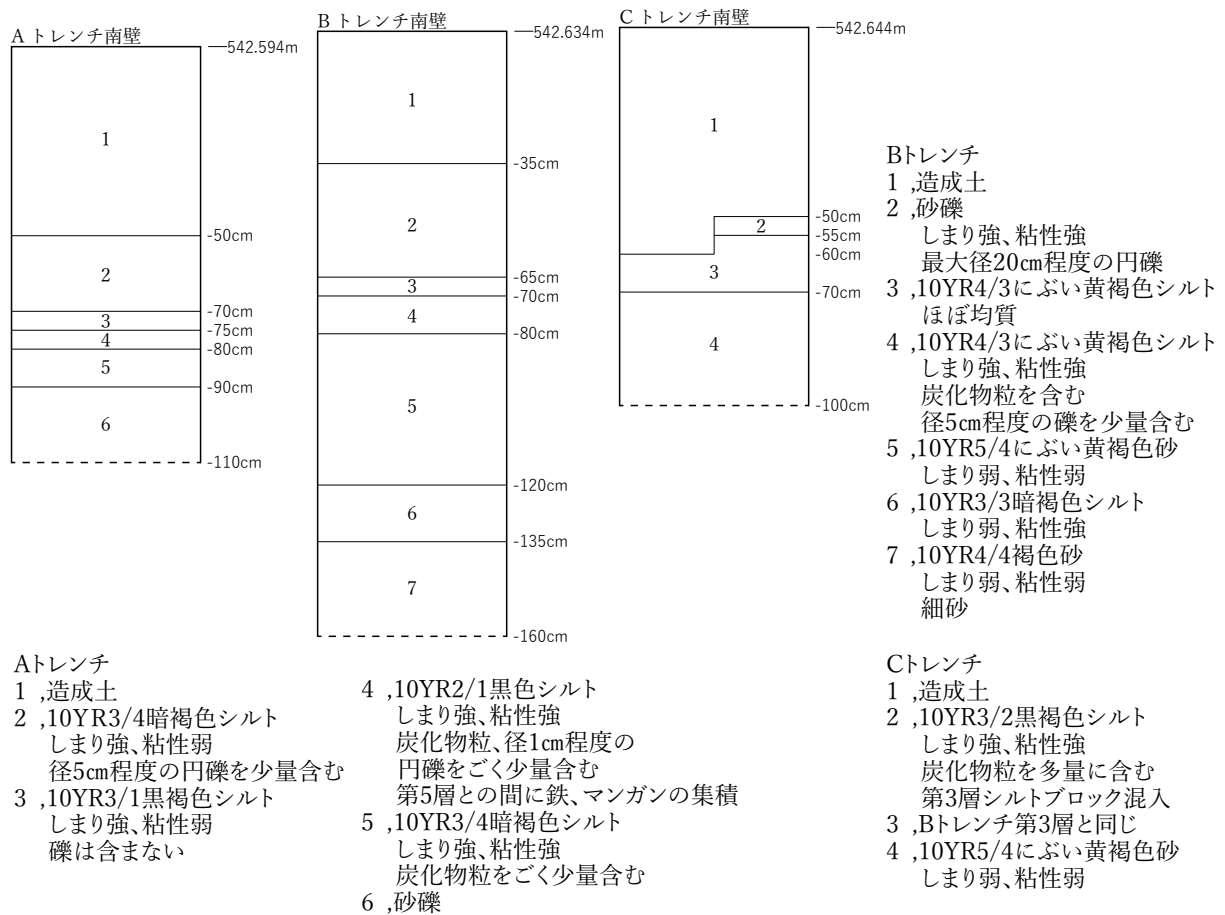
今回は下水道管路に調査区を計3か所設定し、試掘調査を実施した。Aトレンチ第4層、第5層、Bトレンチ第4層及びCトレンチ第2層において炭化物粒を検出したが、全地点において遺構、遺物は存在しなかった。

上記の結果から、今回の工事での本発掘調査は不要と判断した。

第2章 試掘調査



第12図 追堀遺跡試掘トレンチ配置図



第13図 追堀遺跡試掘土層概念図



1 調査地全景（上が北）



2 調査地近景（東から）



3 A トレンチ完掘（北から）



4 A トレンチ南壁



5 B トレンチ完掘（西から）



6 B トレンチ南壁



7 C トレンチ完掘（北から）



8 C トレンチ南壁

4 ハツ口遺跡（第1表■42）



第14図 ハツ口遺跡試掘位置図

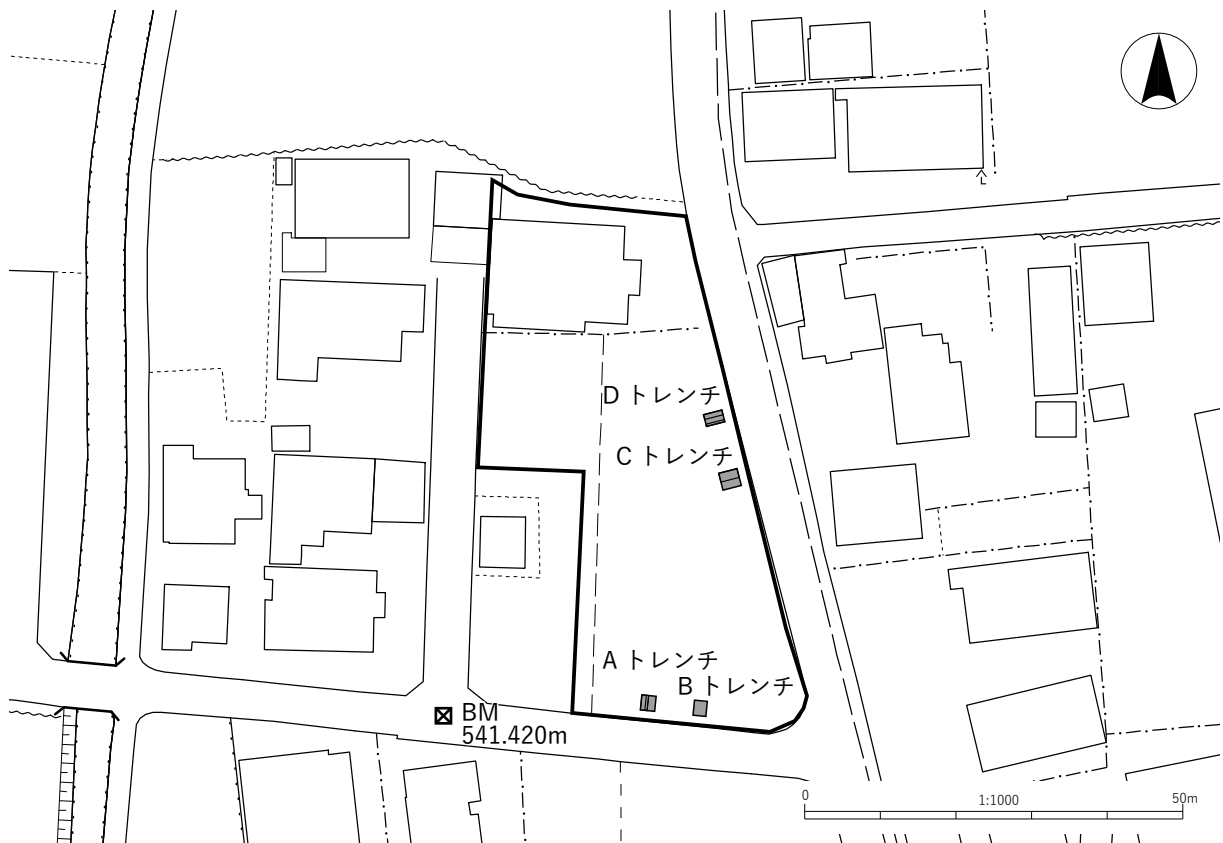
所在地	安曇野市穂高柏原 960 番 4 外 4 筆	調査面積	17㎡
調査期間	令和4年（2022）7月26日	調査契機	宅地造成
調査参加者	山下泰永、斉藤雄太、土屋和章、白居直之、望月裕子		

(1) 概要

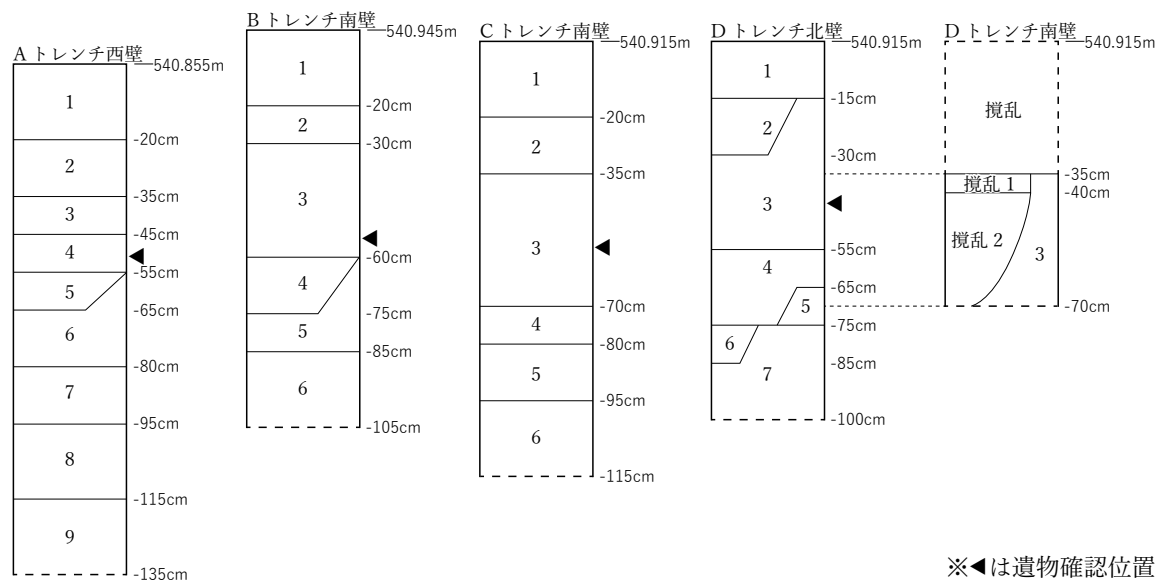
八ツ口遺跡は、^{やつくち}烏川扇状地扇央に所在する奈良時代～中世の集落跡である。この遺跡では、これまでに2次の発掘調査を実施し、当該期の遺構、遺物を確認している（安曇野市教委 2010）。

今回は雨水浸透柵計画地点に調査区を計4か所設定し、試掘調査を実施した。その結果、Aトレンチ第4層、Bトレンチ第3層、Cトレンチ第3層及びDトレンチ第3層から奈良、平安時代の土師器片及び須恵器が出土した。また、Dトレンチにおいて近代以降の遺構を検出し、現代瓦が出土したが、全地点において近世以前の遺構は存在しなかった。

上記の結果から、今回の工事での本発掘調査は不要と判断した。



第15図 ハツ口遺跡試掘トレンチ配置図



第16図 ハツ口遺跡試掘土層概念図

第2章 試掘調査

- | | | | |
|---|---|--|---|
| <p>Aトレンチ
1 ,耕作土
2 ,10YR5/2灰黄褐色シルト
しまり中、粘性中
径3cm以下の円礫、
粒子状の土器片、
酸化鉄を含む
3 ,10YR5/2灰黄褐色シルト
しまり中、粘性中
径3mm以下の円礫、
粒子状の土器片を含む
酸化鉄を多量を含む
4 ,10YR4/4褐色シルト
しまり中、粘性中
酸化鉄を含む
第5層との境から土師器片、
須恵器片出土
5 ,10YR4/3にぶい黄褐色砂礫
しまり中、粘性弱
径2cm程度の円礫主体
炭化物粒をごく少量含む
流路跡
6 ,10YR4/4褐色シルト
しまり中、粘性中
礫を含まず均質
7 ,10YR4/2灰黄褐色シルト
しまり中、粘性中
礫を含まず均質
第6層より粘性強い
8 ,10YR4/3にぶい黄褐色シルト
しまり中、粘性強
礫を含まず均質
9 ,礫層
径2cm程度の亜角礫主体</p> | <p>Bトレンチ
1 ,耕作土
2 ,10YR5/2灰黄褐色シルト
しまり強、粘性中
径3cm以下の円礫、
粒子状の土器片、
酸化鉄を含む
黄褐色シルトが混ざる
3 ,10YR5/2灰黄褐色シルト
しまり中、粘性強
粒子状の土器片、
酸化鉄を含む
径5cm以下の円礫を
ごく少量含む
下層から土器片、
須恵器片出土
4 ,10YR4/4褐色砂礫
しまり弱、粘性弱
径1cm程度の円礫主体
炭化物粒をごく少量含む
流路跡
5 ,10YR4/3にぶい黄褐色シルト
しまり中、粘性強
第3層との境に鉄、
マンガンの集積
粒子状の土器片をごく少量含む
6 ,10YR3/3暗褐色シルト
しまり中、粘性強
礫を含まず均質
第5層より粘性強い</p> | <p>Cトレンチ
1 ,耕作土
2 ,Bトレンチ第2層と同じ
しまり中、粘性中
旧畔か
3 ,10YR5/2灰黄褐色シルト
しまり中、粘性中
径10cm程度の円礫を
少量含む
粒子状の土器片、
酸化鉄を含む
酸化鉄は第2層より多い
土師器片、須恵器片出土
4 ,10YR3/4暗褐色砂礫
しまり弱、粘性弱
径2cm程度の円礫主体
5 ,10YR4/3にぶい黄褐色砂礫
しまり弱、粘性弱
径2cm程度の円礫主体
6 ,10YR4/4褐色細砂
しまり弱、粘性弱
径1cm程度の円礫を
ごく少量含む</p> | <p>Dトレンチ
1 ,耕作土
2 ,Cトレンチ第2層と同じ
3 ,10YR4/4褐色シルト
しまり中、粘性中
酸化鉄を含む
土師器片、
詳細不明遺物片出土
4 ,10YR3/2黒褐色シルト
しまり中、粘性中
径3cm程度の円礫、
炭化物粒を含む
5 ,10YR3/3暗褐色砂礫
しまり弱、粘性弱
6 ,10YR3/3暗褐色砂礫
シルトブロックを含む
7 ,10YR4/4褐色細砂
しまり弱、粘性弱
攪乱1 ,覆土か
攪乱2 ,近代以降の遺構
現代瓦出土</p> |
|---|---|--|---|

第17図 ハツ口遺跡試掘土層注記



1 調査地全景（南から）



2 調査地全景（上が北）



3 調査地近景（南から）



4 調査地近景（北から）



5 A トレンチ完掘（東から）



6 A トレンチ西壁



7 B トレンチ完掘（東から）



8 B トレンチ西壁



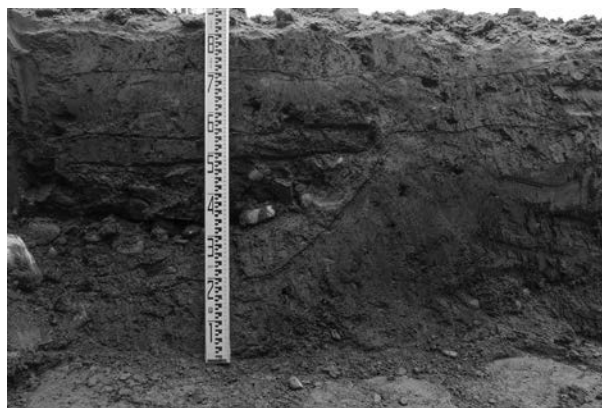
9 C トレンチ完掘（南から）



10 C トレンチ北壁



11 D トレンチ完掘（南から）



12 D トレンチ北壁

第2章 試掘調査



13 D トレンチ南壁



14 A トレンチ第4層出土遺物



15 B トレンチ第3層出土遺物

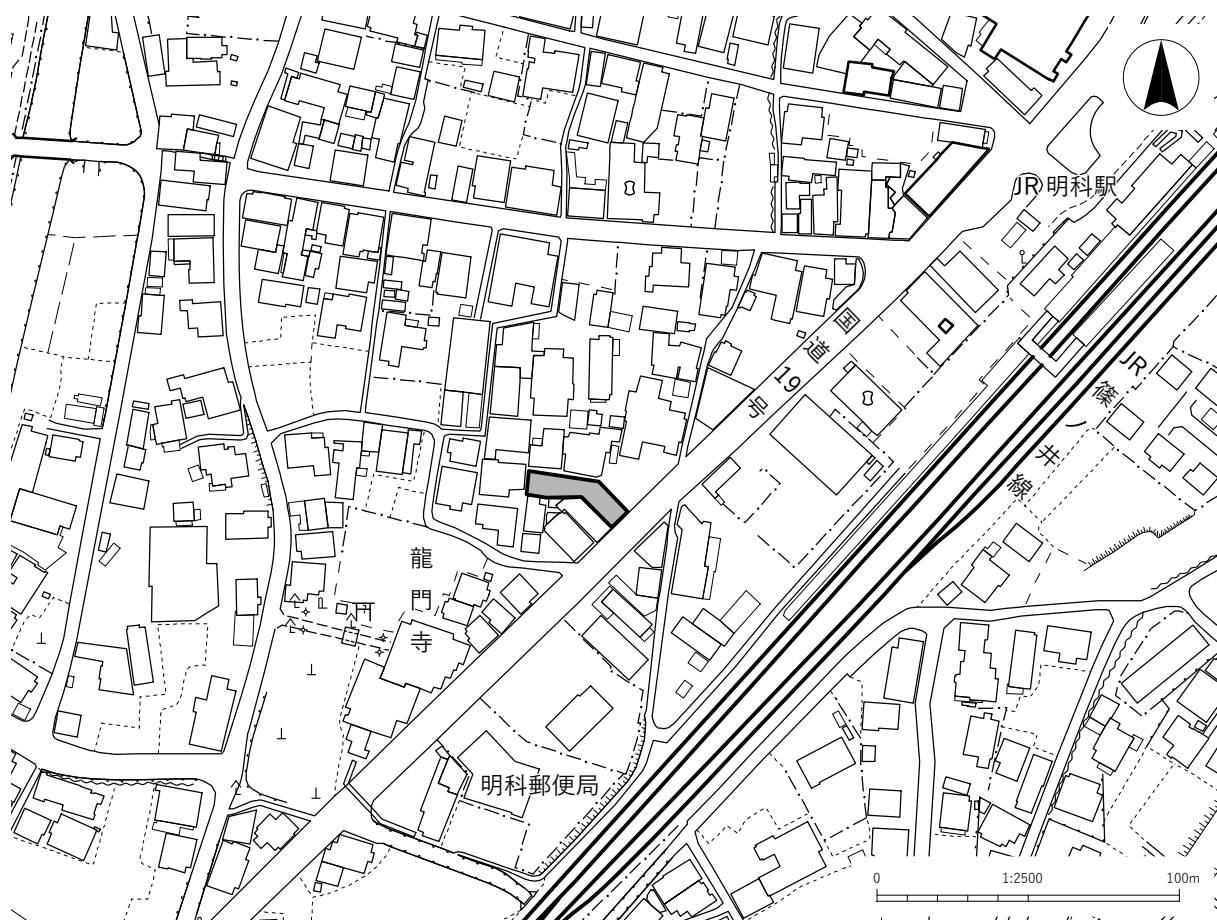


16 C トレンチ第3層出土遺物



17 D トレンチ第3層出土遺物

5 明科遺跡群明科廃寺（第1表■64）



第18図 明科廃寺試掘位置図

所在地	安曇野市明科中川手 3774 番 7 外 1 筆	調査面積	9m ²
調査期間	令和4年(2022)9月7日	調査契機	保存目的
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、白居直之、田多井智恵、望月裕子		

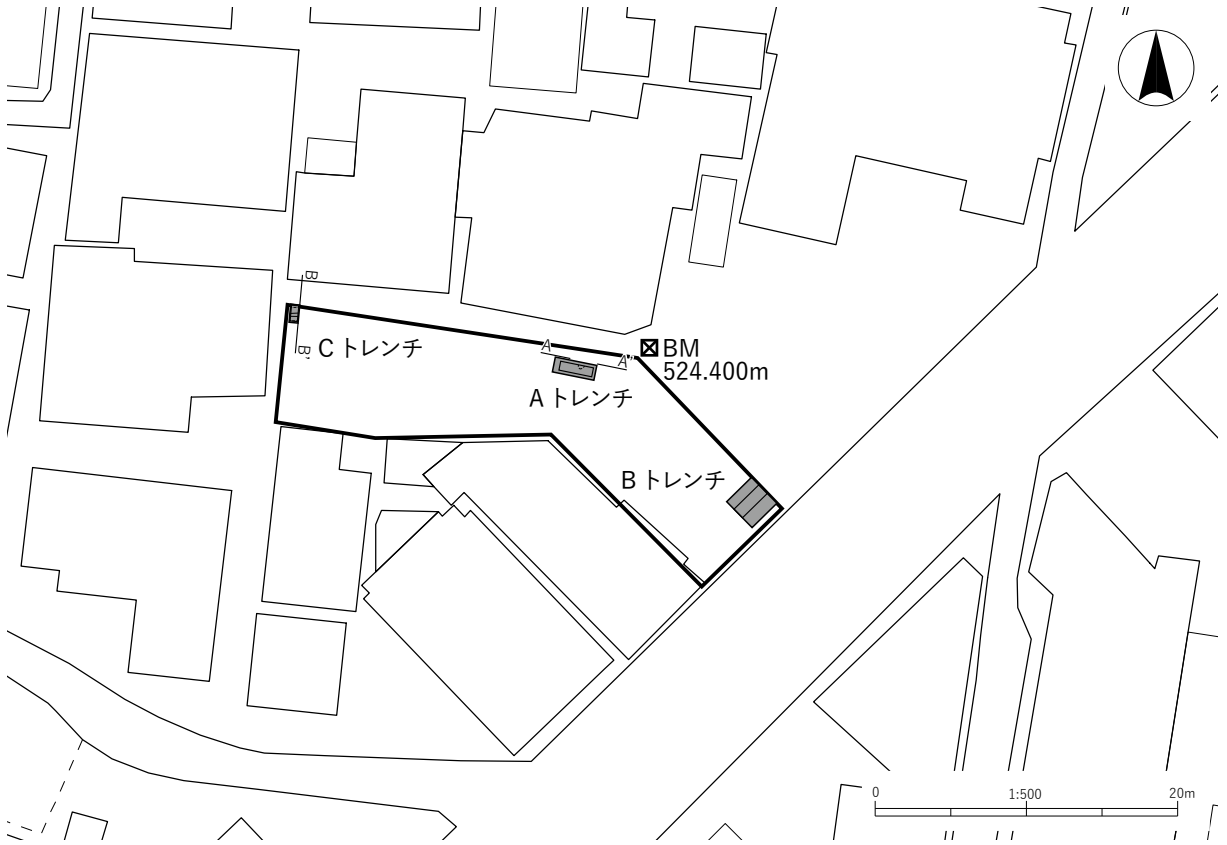
(1) 概要

明科遺跡群^{あかしな}明科廃寺^{あかしなはいじ}（以下、「明科廃寺」とする。）は、犀川右岸の段丘上に所在する古代の寺院跡である。この遺跡ではこれまでに5次にわたる発掘調査が実施され、掘立柱建物跡や区画施設と考えられる掘立柱柵列が見つかったが、主要建物は未確認であり伽藍配置も不明である（安曇野市教委 2017・2021）。

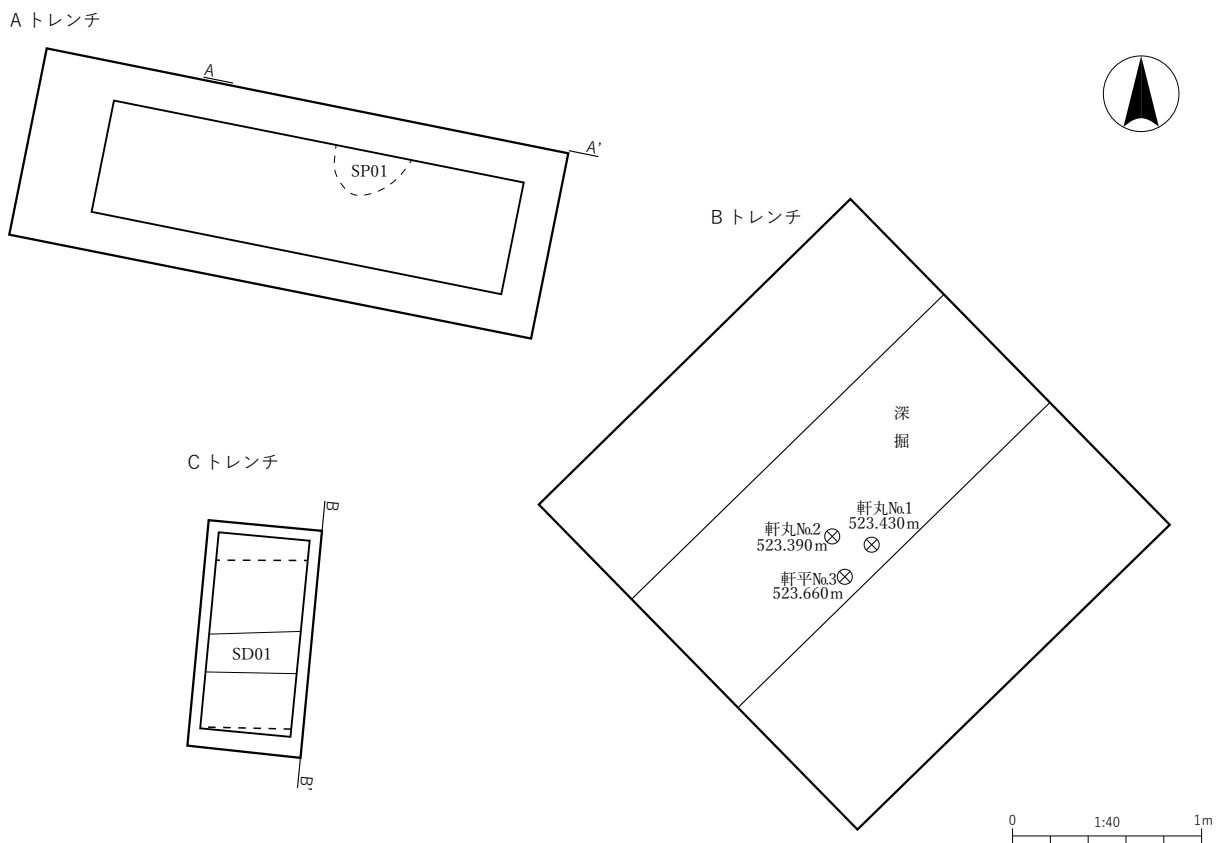
今回は個人住宅兼店舗建築予定地付近及び歩道用地に調査区を設定し、試掘調査を実施した。その結果、Aトレンチにおいてピット、Cトレンチにおいて溝を検出した。いずれも奈良、平安時代の遺構と考えられる。また、A～Cトレンチ第Ⅲa層及びAトレンチ第Ⅲb層において古代瓦、奈良、平安時代の土師器、須恵器が出土したほか、Aトレンチのピット(SP01)第3層及びCトレンチの溝(SD01)第3層から古代瓦が出土した。

上記の結果から、最大掘削深度は当地における包含層には至らず、埋蔵文化財に影響を及ぼすことはない判断できるため本発掘調査は不要と判断した。

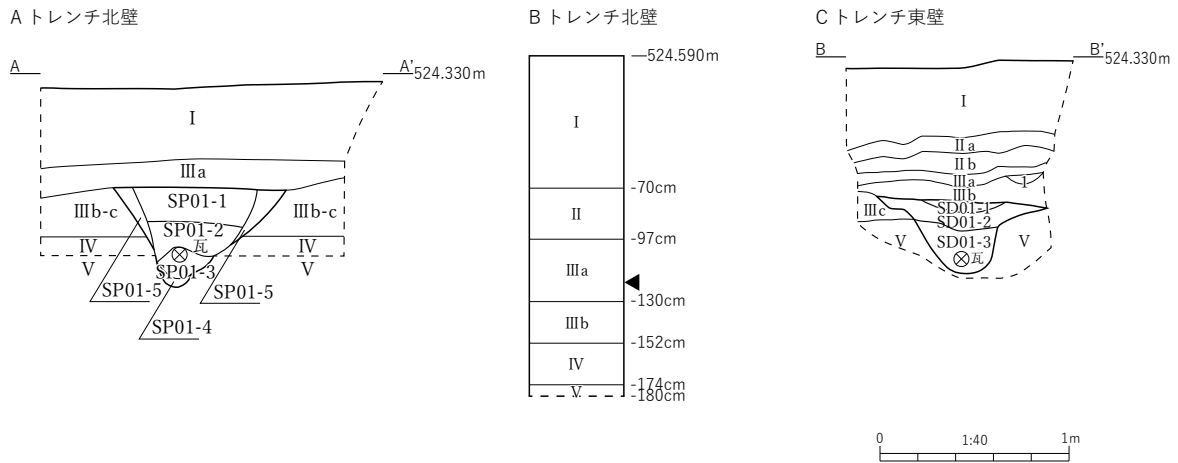
第2章 試掘調査



第19図 明科廃寺試掘トレンチ配置図



第20図 明科廃寺試掘A・B・Cトレンチ平面図



A トレンチ・B トレンチ
基本層序

- I , 現代の宅地造成土
- II ,10YR4/1 褐色砂質シルト
しまり中、粘性中
旧耕作土
10YR4/4 褐色土を粒状に含む
径1～3cm程度の小礫を含む
- IIIa,10YR3/1 黒褐色砂質シルト
しまり中、粘性中
炭化物、遺物を含む
径1～3cm程度の小礫を含む
やや粘土質
- IIIb,10YR3/2 黒褐色砂質シルト
しまり中、粘性中
径5cm程度の礫を少量含む
10YR3/4 暗褐色土を粒状に含む
炭化物、遺物を含む
- IIIc,10YR3/2 黒褐色砂質シルト
しまり中、粘性中
第IIIb層に似るが10YR3/4
暗褐色土粒が少ない
- IV ,10YR4/4 褐色砂質シルト
しまり中、粘性中
やや砂っぽい
径1cm未満の小礫を含む
炭化物を含む
- V , やや砂質の黄灰色

※◀は瓦片確認位置

A トレンチ
SP01

- 1 ,10YR3/3 暗褐色粘土
しまり強、粘性強
炭化物、径0.5～1cmの
黄褐色土粒を若干含む
- 2 ,10YR3/3 暗褐色粘土
しまり強、粘性強
SP01 第1層より黄褐色土粒が多い
径0.5～1cmの円礫を若干含む
- 3 ,10YR3/2 礫混砂
しまり中、粘性中
径0.5～1cmの円礫を多く含む
SP01 第3層の上面に平瓦出土
- 4 ,10YR3/1 黒褐色礫混粘土
しまり中、粘性中
径1cm未満の円礫を少量含む
SP01 第5層と同じ土質
SP01 底部の埋め土
- 5 ,10YR3/1 黒褐色礫混粘土
しまり中、粘性中
径1cm未満の円礫を少量含む
基本層序第IIIb-c層起源の
建柱時の埋め土

C トレンチ
基本層序

- I , 現代の宅地造成土
- II a,10YR6/1 褐色シルト
しまり強、粘性強
炭化物粒混入
旧耕作土
- II b,10YR6/3 にぶい黄橙色シルト
しまり強、粘性強
第IIIa層黒褐色シルトブロック混入
(耕作土床上)
径1～3cm小礫混入
- IIIa,10YR3/2 黒褐色シルト
しまり強、粘性強
瓦片出土
- IIIb,10YR3/1 黒褐色シルト
しまり弱、粘性強
径2～4cmの小礫少量混入
- IIIc,10YR3/2 黒褐色シルト
しまり弱、粘性中
径5～10cmの礫混入
IIIb層に比べ比較的多い
- V ,10YR6/1 褐色砂層
1 ,10YR4/6 褐色シルト
しまり強、粘性強
レンズ状に堆積
基本層序に含まない局所的な堆積

C トレンチ SD01

- 1 , 堆積溝址の埋土
10YR4/6 褐色シルト
しまり強、粘性強
レンズ状に堆積
- 2 , 堆積溝址の埋土
10YR3/4 暗褐色シルト
しまり中、粘性強
径1～3cmの礫混入
- 3 , 堆積溝址の埋土
10YR3/2 黒褐色シルト
しまり弱、粘性強
炭化物粒混入
SD01 第3層内から平瓦出土

第21図 明科廃寺試掘A・B・Cトレンチセクション図



1 調査地全景（上が北東）



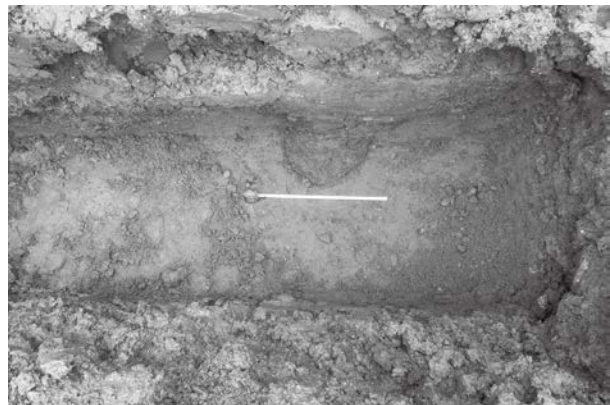
2 調査地近景（東から）



3 A トレンチ完掘（南から）



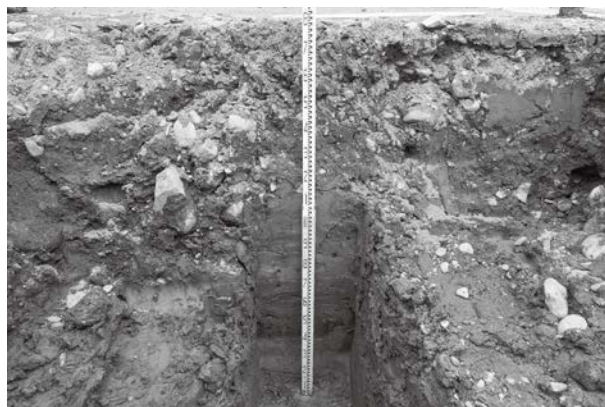
4 A トレンチ北壁



5 A トレンチ平面（上が北）



6 B トレンチ完掘 (南西から)



7 B トレンチ北東壁



8 B トレンチ遺物出土状況



9 B トレンチ遺物出土状況



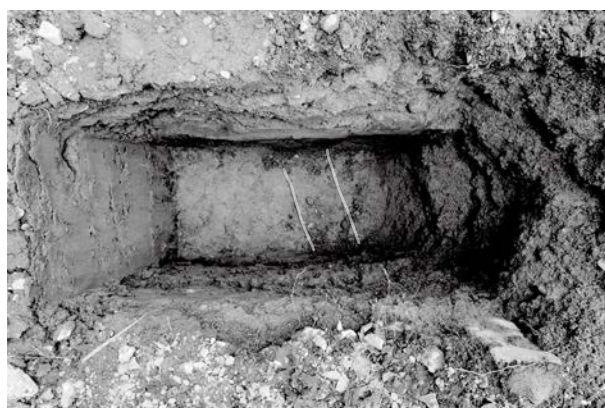
10 B トレンチ遺物出土状況



11 C トレンチ完掘 (南東から)



12 C トレンチ東壁



13 C トレンチ平面 (上が北東)



14 A トレンチ SP01 出土遺物



15 B トレンチ出土遺物



16 B トレンチ出土遺物



17 B トレンチ出土土器

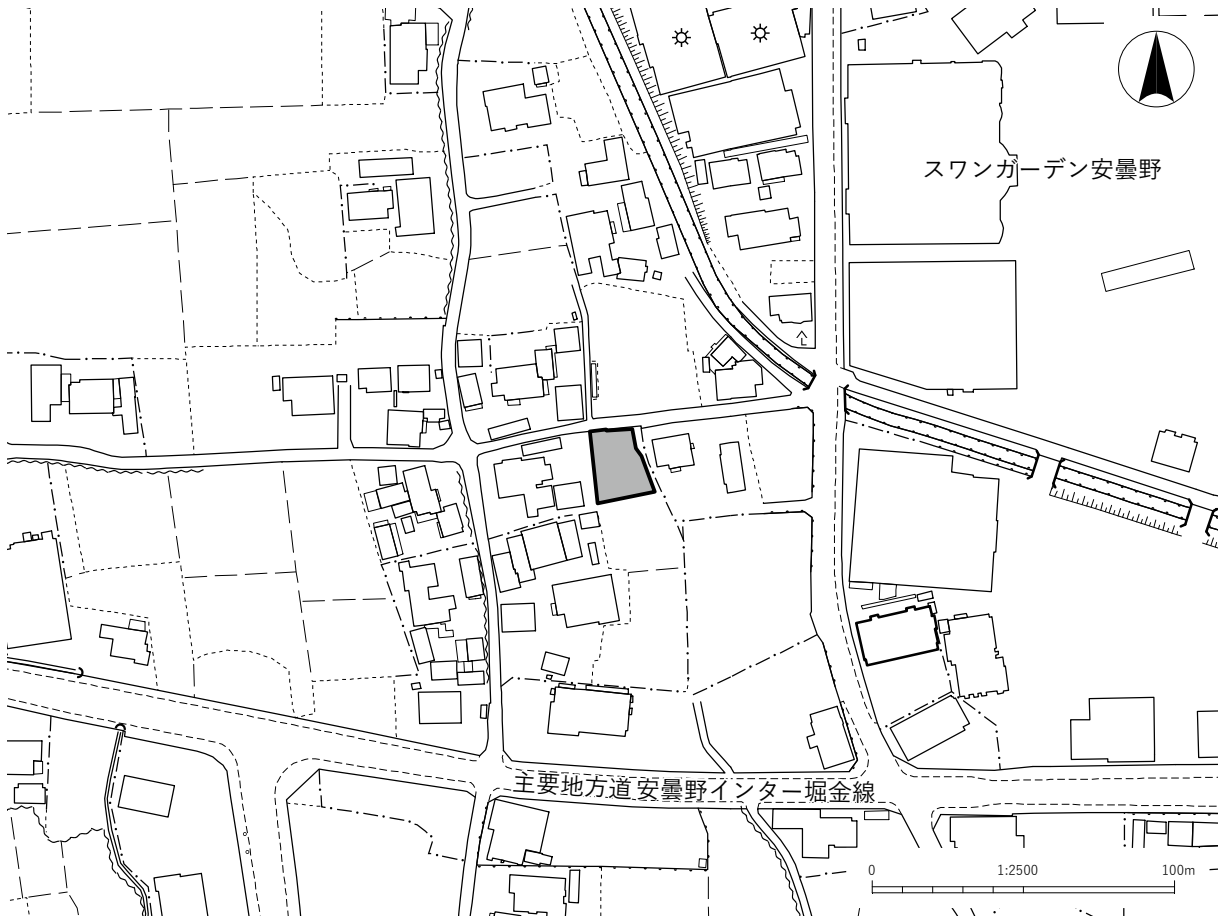


18 C トレンチ SD01 出土遺物



19 C トレンチ出土遺物

6 上手木戸遺跡（第1表■74）



第22図 上手木戸遺跡試掘位置図

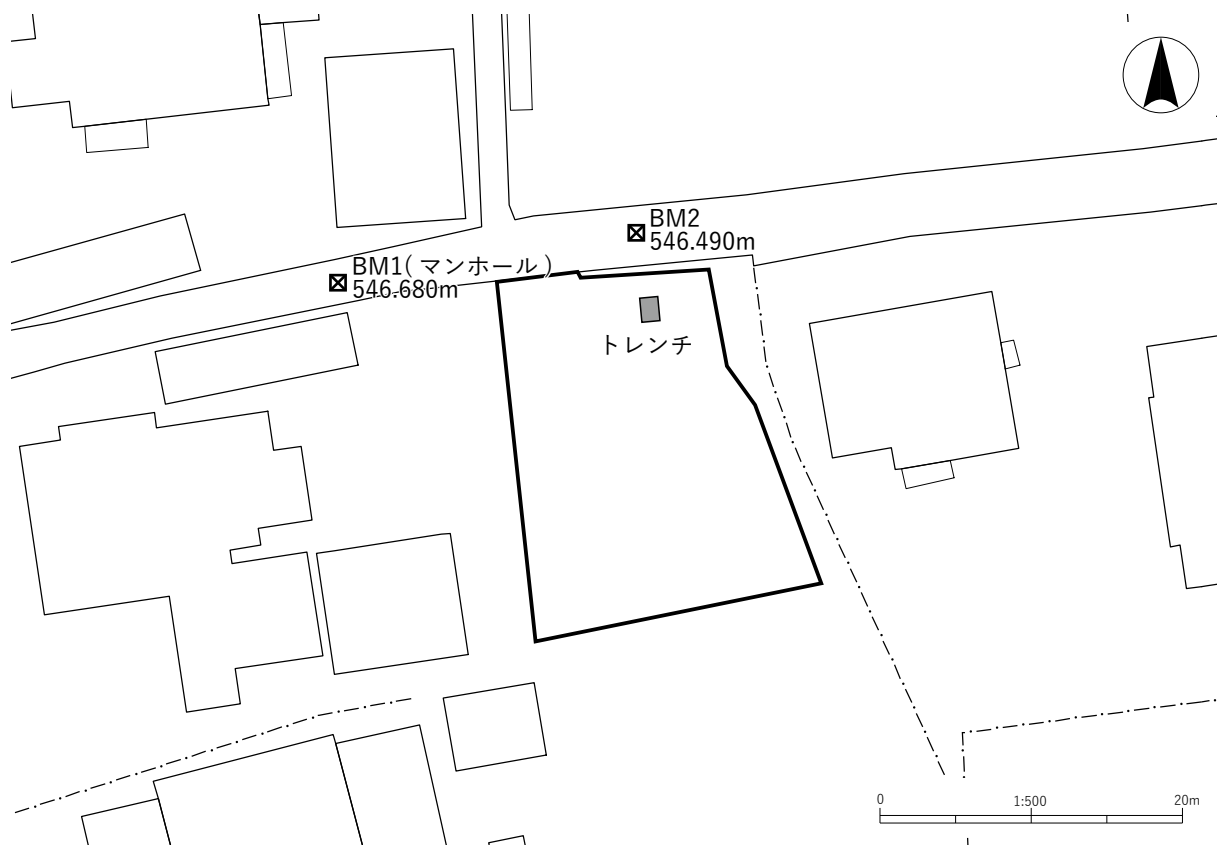
所在地	安曇野市豊科南穂高 138 番 1	調査面積	2㎡
調査期間	令和4年（2022）9月16日	調査契機	その他開発
調査参加者	土屋和章、望月裕子、田多井智恵		

(1) 概要

上手木戸^{わできと}遺跡は、犀川左岸の氾濫原微高地に所在する中世の集落跡である。この遺跡では中央自動車道長野線建設に先立ち長野県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施し、中世の集落跡を確認した（長野県埋文センター 1989）。遺跡内は商業地及び住宅地、農地が介在しており、近年は、小規模な土木工事に際し、工事立会を複数回実施しているが、埋蔵文化財が確認された例はない。

今回は駐車場造成にかかる浸透柵設置箇所にトレンチを設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、造成土の下位に良好なシルト層（第2～3層）が残存しており、深度80cm程度で基盤の砂礫を確認した。この第2～3層で遺構、遺物の検出をおこなったが、いずれも存在しなかった。

上記の結果から、今回の工事での本発掘調査は不要と判断した。



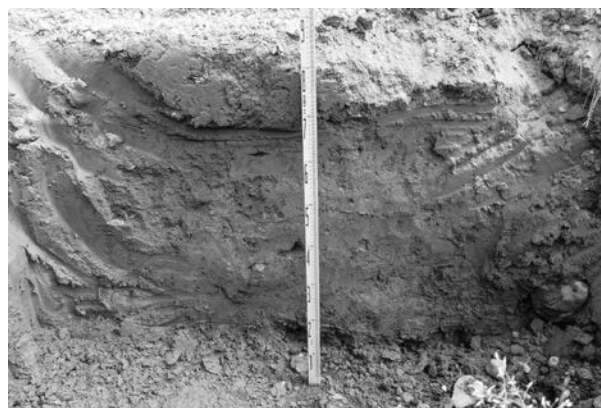
第23図 上手木戸遺跡試掘トレンチ配置図



第24図 上手木戸遺跡試掘土層概念図

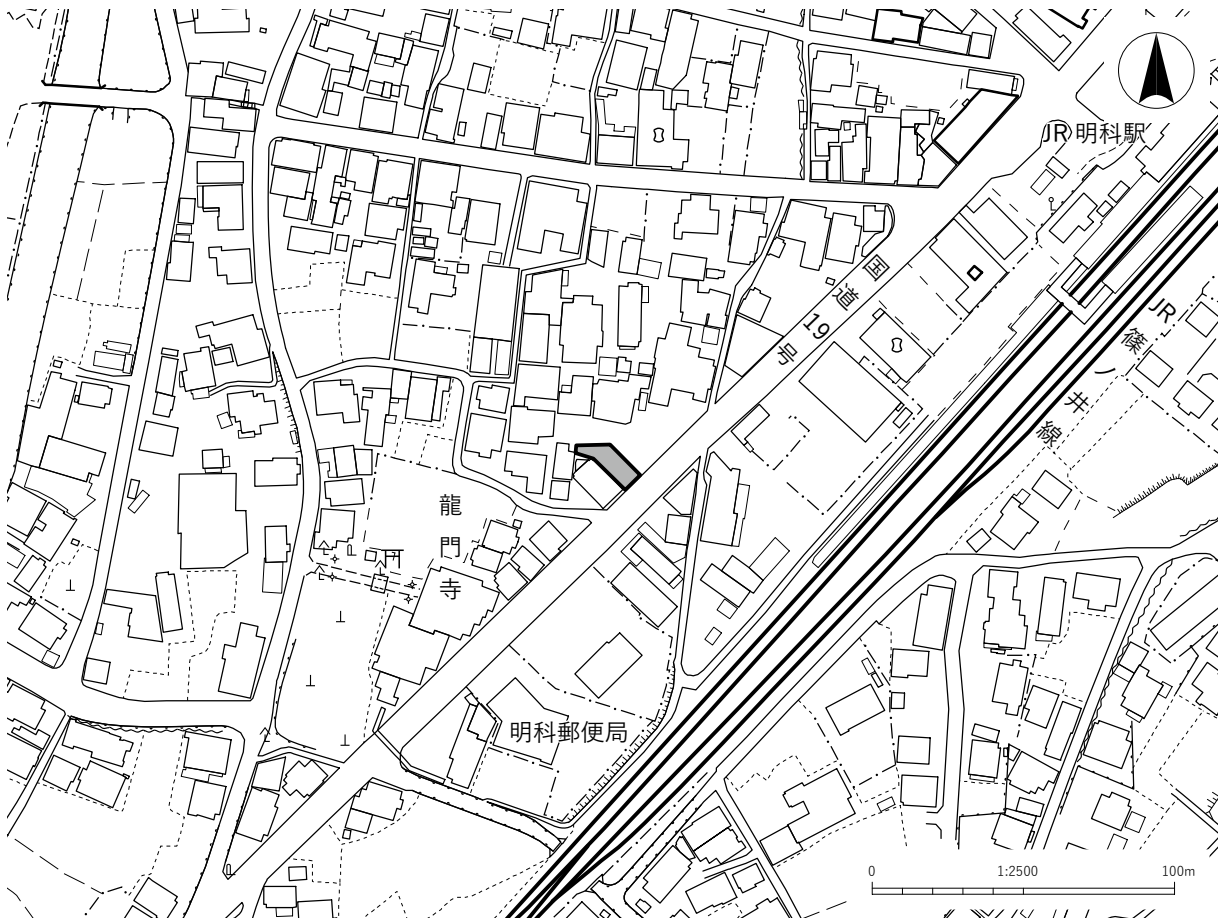


1 調査地遠景 (南東から)



2 トレンチ東壁

7 明科遺跡群明科廃寺（第1表■75）



第25図 明科廃寺試掘位置図

所在地	安曇野市明科中川手 3774 番 3 外 1 筆	調査面積	16㎡
調査期間	令和4年（2022）9月16日	調査契機	保存目的
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、白居直之、田多井智恵、望月裕子		

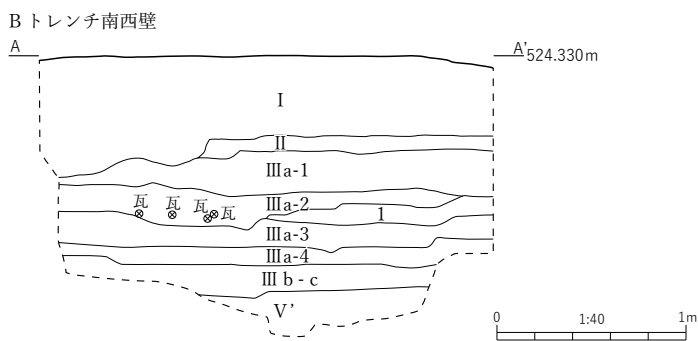
(1) 概要

明科遺跡群^{あかしな}明科廃寺^{あかしなはいじ}（以下、「明科廃寺」とする。）は、犀川右岸の段丘上に所在する古代の寺院跡である。この遺跡ではこれまでに5次にわたる発掘調査が実施され、掘立柱建物跡や区画施設と考えられる掘立柱柵列が見つかったが、主要建物は未確認であり伽藍配置も不明である（安曇野市教委 2017・2021）。

今回は個人住宅解体撤去跡地に調査区を設定し、遺跡範囲確認のための試掘調査を実施した。その結果、Bトレンチ第Ⅲ a-2層及びCトレンチ第Ⅲ a-2層において古代瓦のほか奈良、平安時代の土師器、須恵器、縄文土器(中期前半)が出土した。いずれのトレンチにおいても遺構は検出できなかったものの、遺構が存在すると想定される第Ⅲ層が敷地中央付近の深度 60cm 以深に良好に残存していることが確認できた。なお、敷地東端の国道沿いは歩道の設置が計画されているため、本発掘調査が必要である。



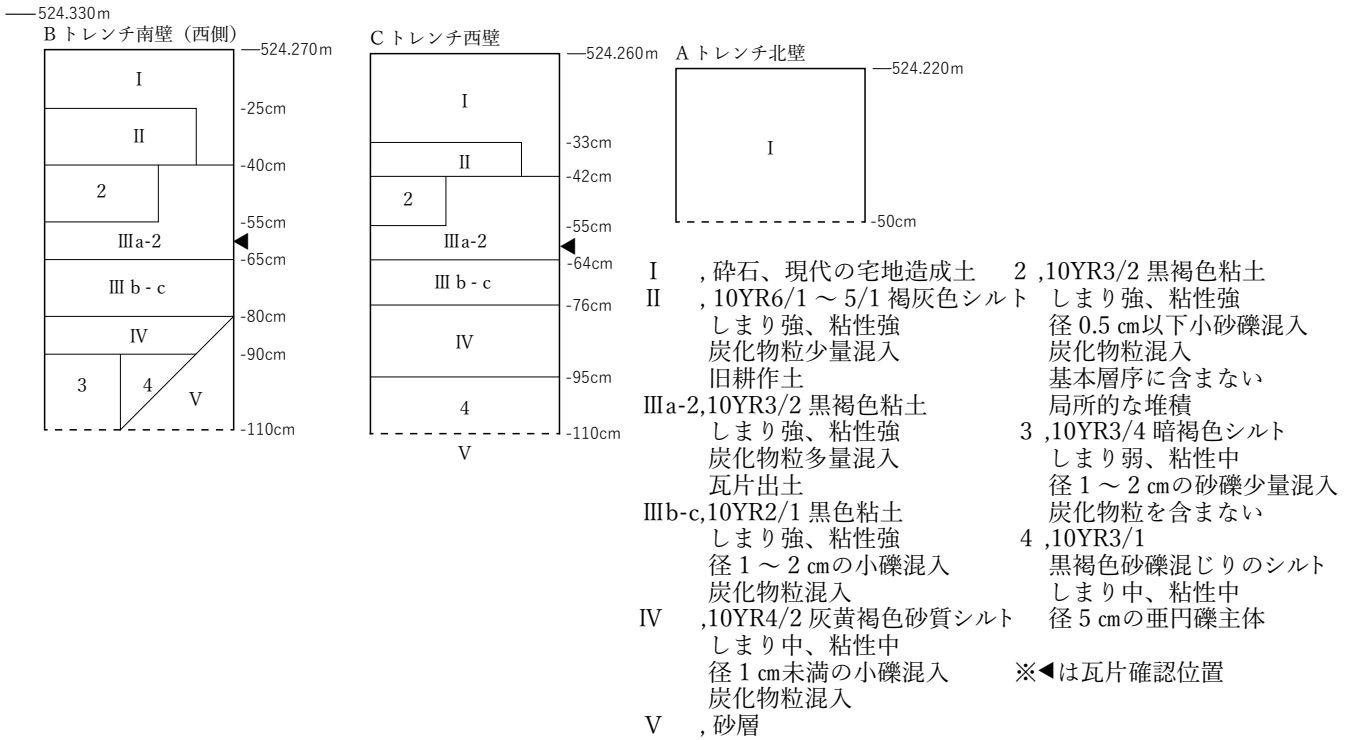
第26図 明科廃寺試掘トレンチ配置図



- | | | |
|---|---|---|
| <p>I , 碎石、現代の宅地造成土</p> <p>II , 10YR6/1 ~ 5/1 褐灰色シルト
しまり強、粘性強
炭化物粒少量混入
旧耕作土</p> <p>IIIa-1, 10YR3/4 暗褐色粘土
しまり強、粘性強
小砂礫径 0.5 cm以下
炭化物粒混入
第II層より砂質</p> <p>IIIa-2, 10YR3/2 黒褐色粘土
しまり強、粘性強
炭化物粒多量混入
瓦片出土</p> <p>IIIa-3, 10YR2/2 黒褐色粘土
しまり強、粘性強
径 1 ~ 2 cmの炭化物粒混入
B トレンチ東西に共通して
堆積する第IIIa層</p> | <p>IIIa-4, 10YR5/1 褐灰色粘土
しまり強、粘性強
炭化物粒混入
灰白色粘土が縞状に
黒褐色粘土と互層と
なって堆積</p> <p>IIIb-c, 10YR3/3 暗褐色シルト
しまり中、粘性強
径 1 ~ 2 cmの小砂礫混入
鉄分の斑紋あり</p> <p>V' , 10YR4/1 褐灰色シルト
しまり弱、粘性強
径 1 ~ 2 cmの小砂礫混入
下層にある砂層
(第V層)の漸移層</p> | <p>1 , 10YR5/2 灰黄褐色粘土
しまり弱、粘性中
炭化物粒混入
灰白色の
ソフトシルトブロックと
(灰のような灰色)
褐色シルトの
混在した粘土層</p> |
|---|---|---|

第27図 明科廃寺試掘Bトレンチセクション図

第2章 試掘調査



第28図 明科廃寺試掘土層概念図



1 調査地近景 (北西から)



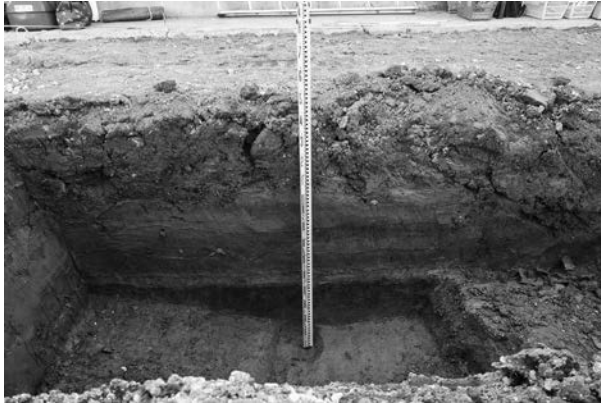
2 A トレンチ完掘 (北東から)



3 A トレンチ南西壁



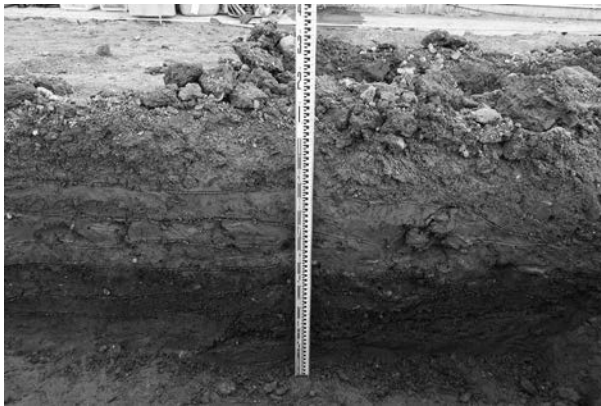
4 B トレンチ完掘 (北から)



5 B トレンチ南西壁（東側）



6 B トレンチ南西壁（中央）



7 B トレンチ南西壁（西壁）



8 B トレンチ遺物出土状況



9 C トレンチ完掘（南東から）



10 C トレンチ北西壁



11 トレンチ全景（東から）



12 B トレンチ出土遺物



13 Bトレンチ出土遺物

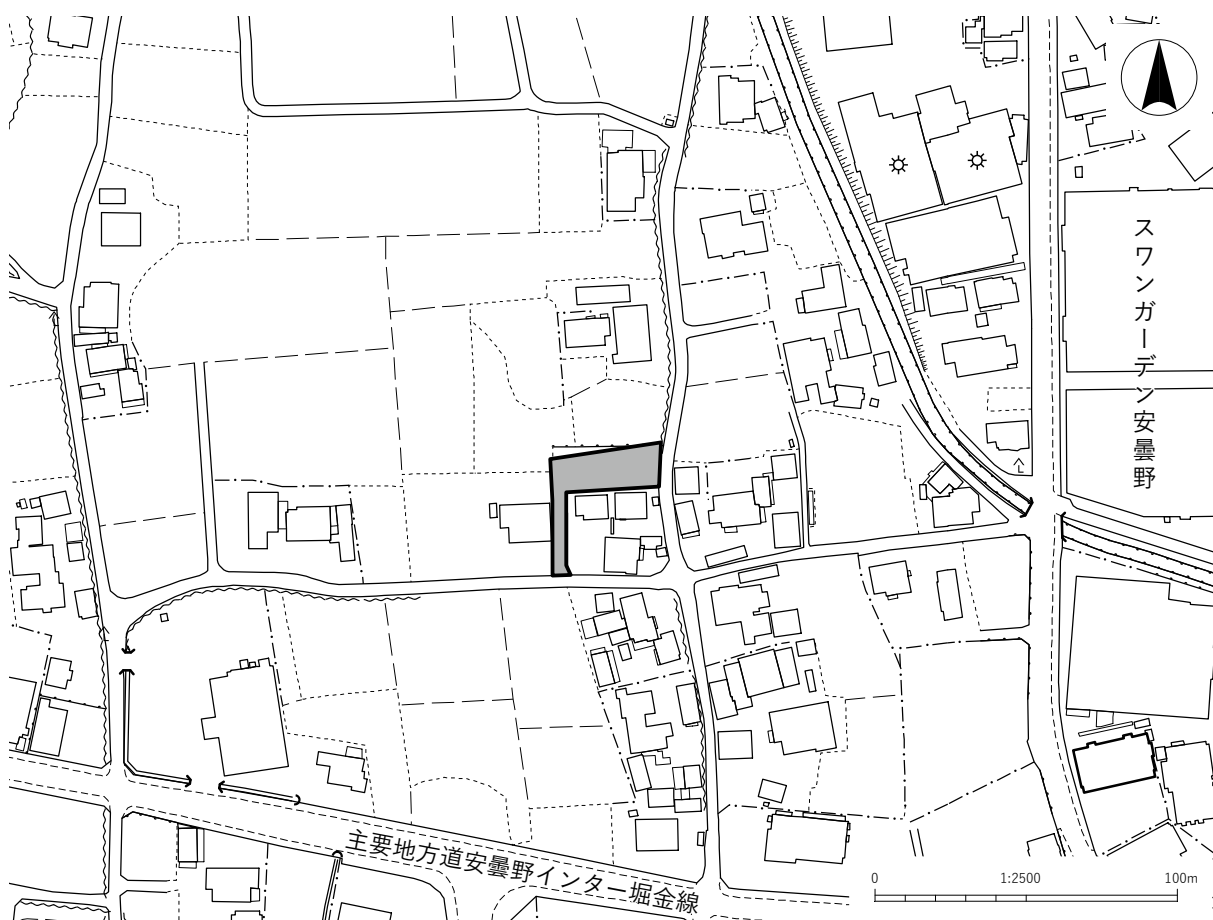


14 Cトレンチ出土遺物



15 Cトレンチ出土遺物

8 上手木戸遺跡（第1表■91）



第29図 上手木戸遺跡試掘位置図

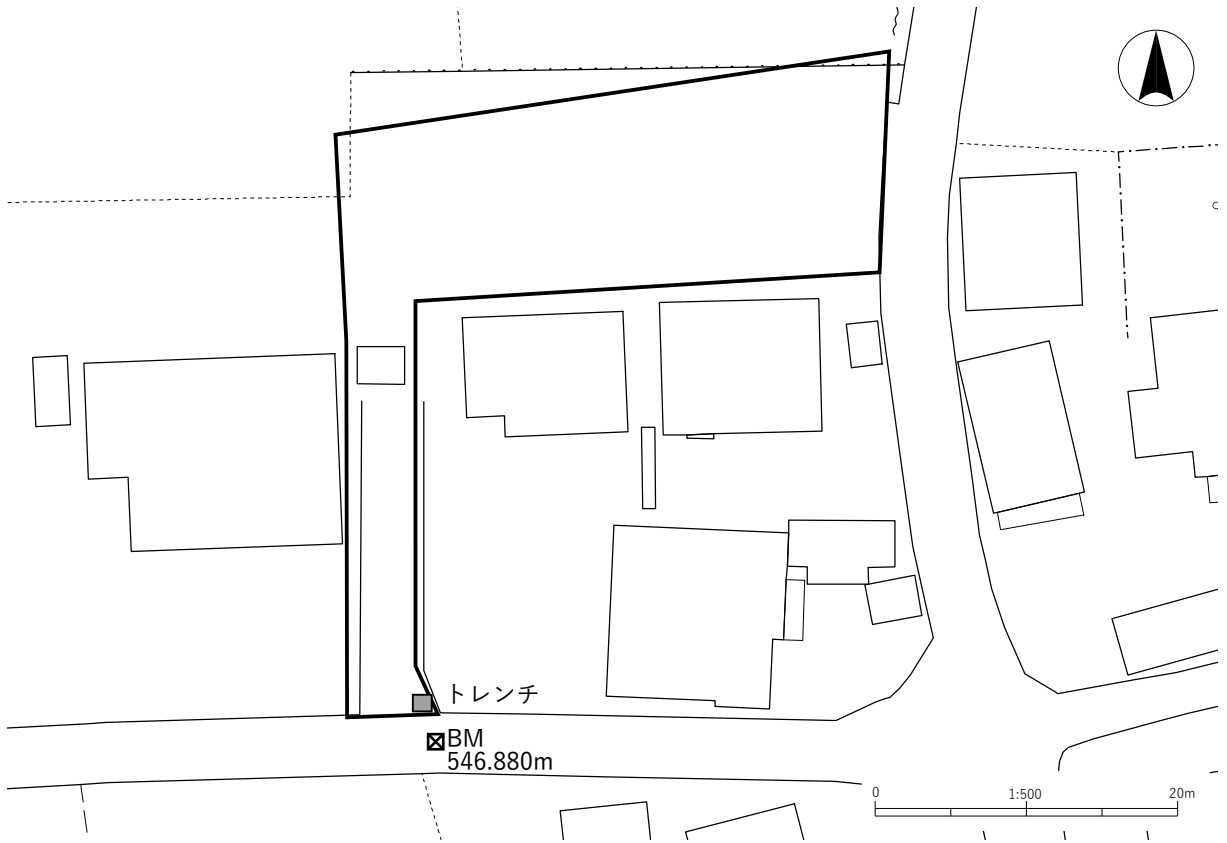
所在地	安曇野市豊科南穂高96番6外2筆	調査面積	1㎡
調査期間	令和4年(2022)10月7日～10月11日	調査契機	個人住宅
調査参加者	堀久士、土屋和章、田多井智恵		

(1) 概要

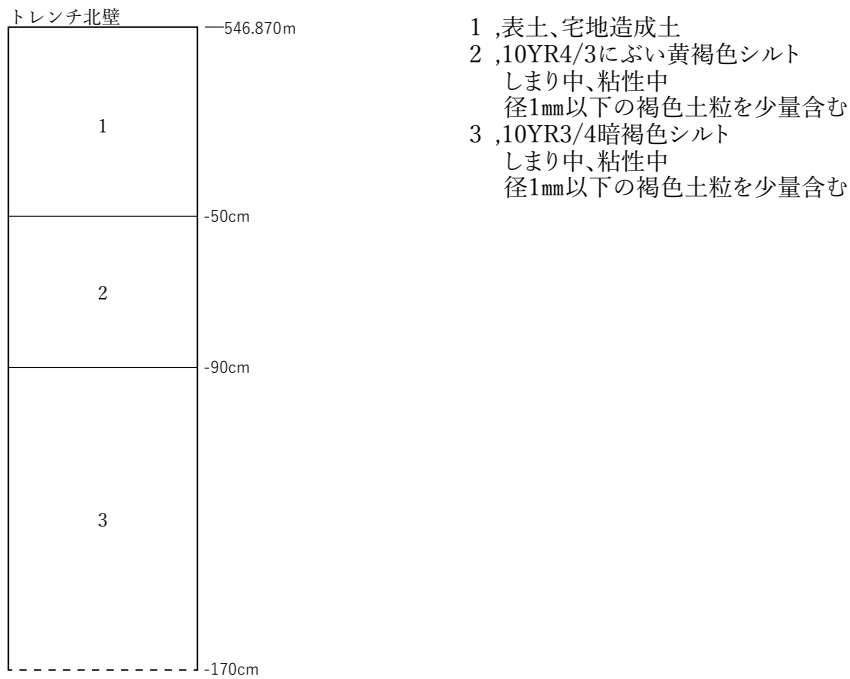
上手木戸遺跡は、犀川左岸の氾濫原微高地に所在する中世の集落跡である。この遺跡では中央自動車道長野線建設に先立ち長野県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施し、中世の集落跡を確認した（長野県埋文センター1989）。遺跡内は商業地及び住宅地、農地が介在しており、近年は、小規模な土木工事に際し、工事立会を複数回実施しているが、埋蔵文化財が確認された例はない。

今回は宅地造成にかかる浸透柵設置箇所にトレンチを設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、造成土の下位にシルト層（第2～3層）が残存していた。この第2～3層を精査したが、遺構、遺物とも存在せず、炭化物の包含層もなかった。

上記の結果から、今回の工事での本発掘調査は不要と判断した。



第30図 上手木戸遺跡試掘トレンチ配置図



第31図 上手木戸遺跡試掘土層概念図



1 調査地全景（南から）



2 トレンチ完掘（南東から）



3 調査地近景（南から）

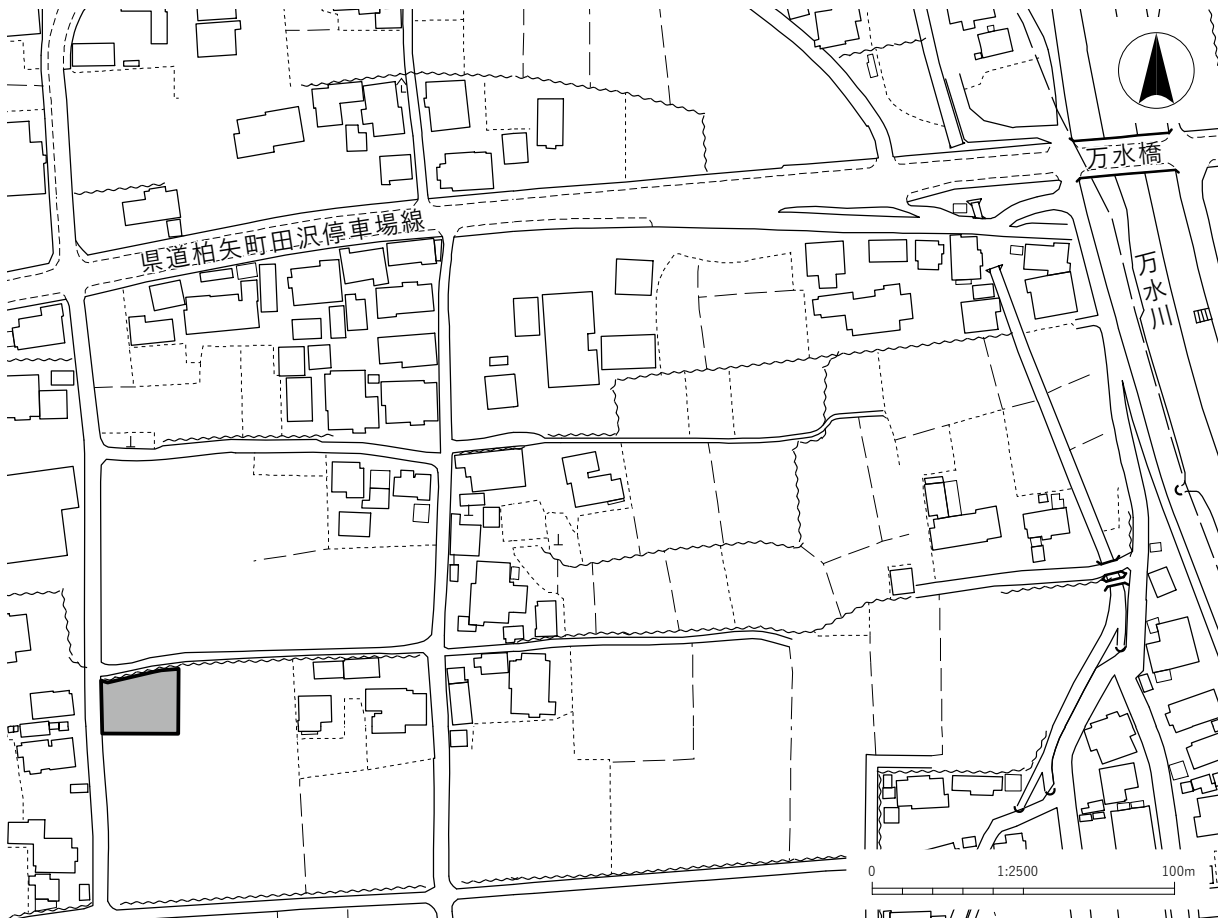


4 トレンチ完掘（南東から）



5 トレンチ北壁

9 中在地遺跡（第1表■100）



第32図 中在地遺跡試掘位置図

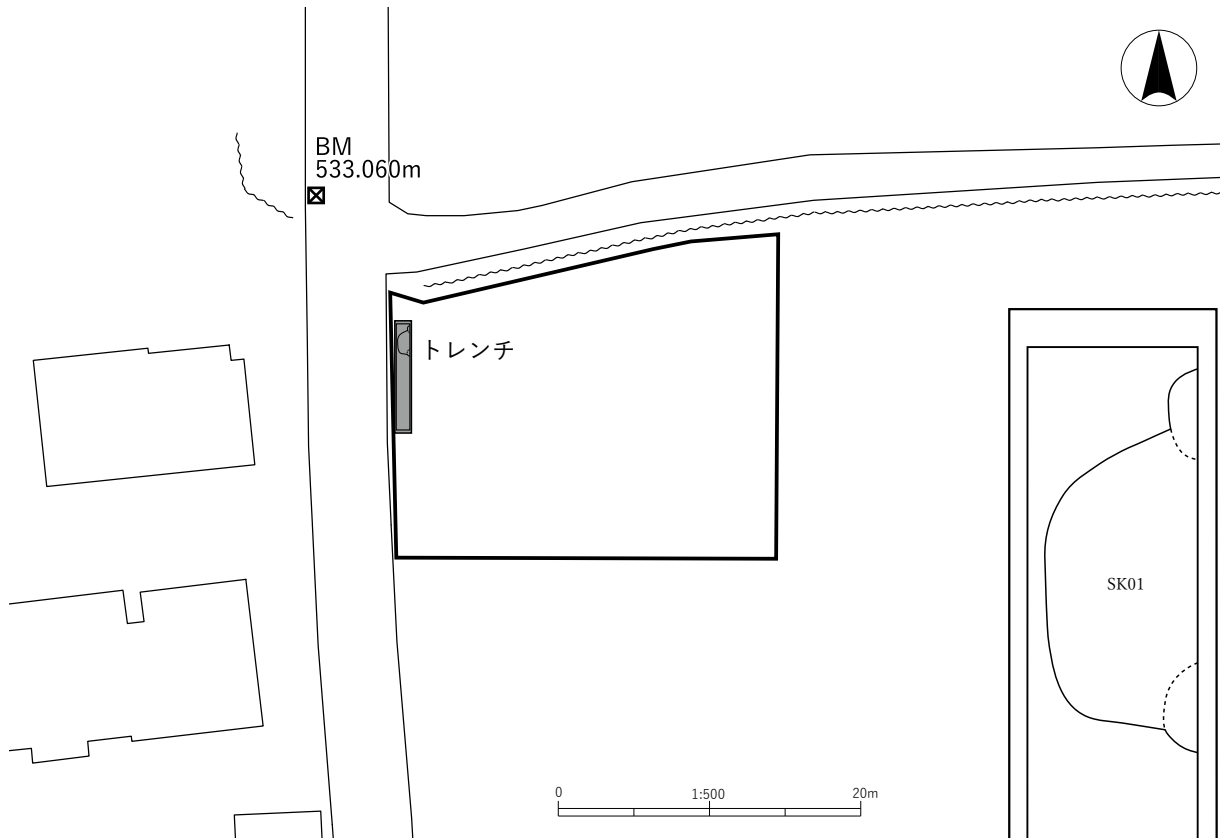
所在地	安曇野市穂高 528 番	調査面積	8㎡
調査期間	令和4年（2022）10月20日	調査契機	個人住宅
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、白居直之、田多井智恵		

(1) 概要

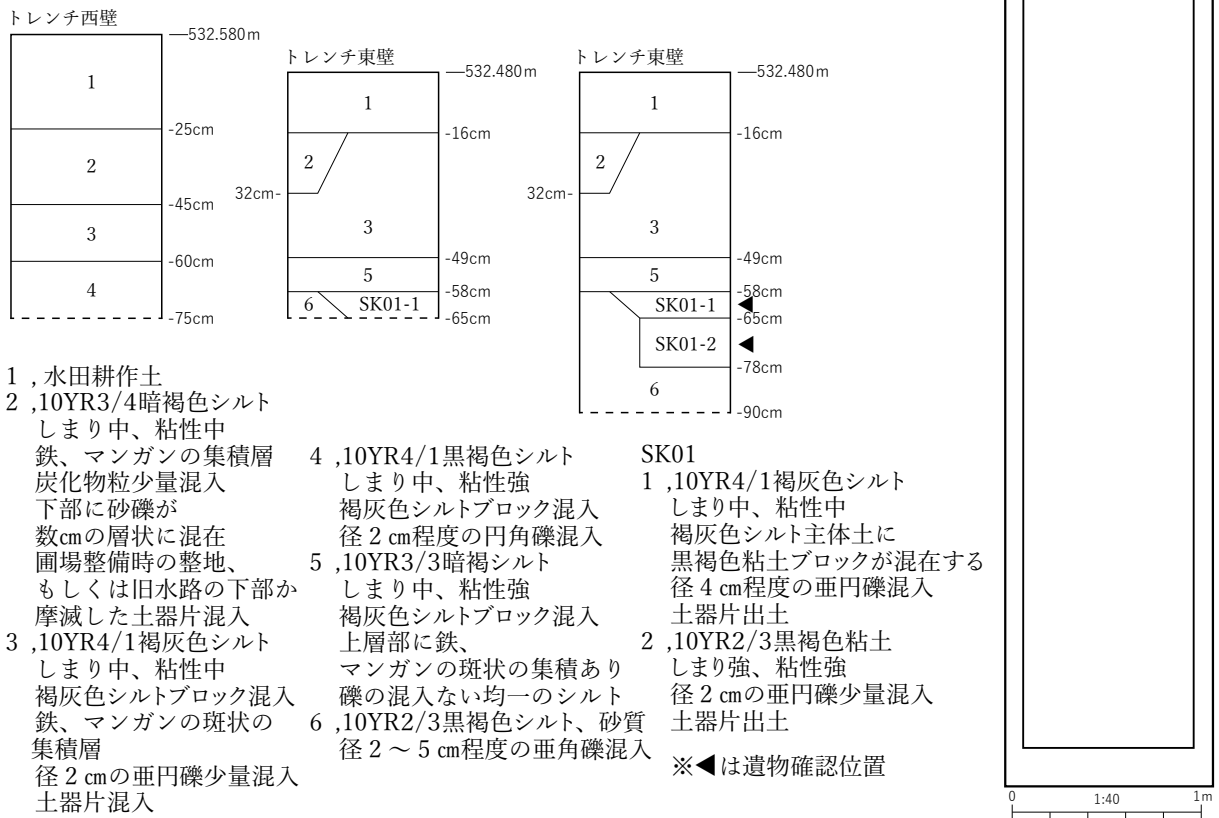
中在地遺跡は、なかざいち烏川扇状地扇央に所在する縄文～平安時代の集落跡である。この遺跡では、1991年～1993年に穂高町教育委員会が店舗建設に際し発掘調査を実施し、古墳～平安時代の遺構、遺物を確認している。

今回は浸透トレンチに調査区を設定し、試掘調査を実施した。その結果、時期不明の土坑 SK01 を検出した。SK01 の覆土から奈良、平安時代の土師器及び須恵器が出土したが、遺構の性格は不明である。

本調査により浸透樹計画地点の記録保存は終了した。当該敷地については、住宅基礎工事のため現況地盤から深度 18cm の掘削が計画されていたが、試掘調査の結果、遺構検出面は現況地盤から深度 40cm 前後であり、遺構に達しないという所見を得たため、住宅基礎工事に伴う本発掘調査は不要と判断した。



第33図 中在地遺跡試掘トレンチ配置図



第34図 中在地遺跡試掘調査概要図

第2章 試掘調査



1 調査地全景（南から）



2 調査地全景（西から）



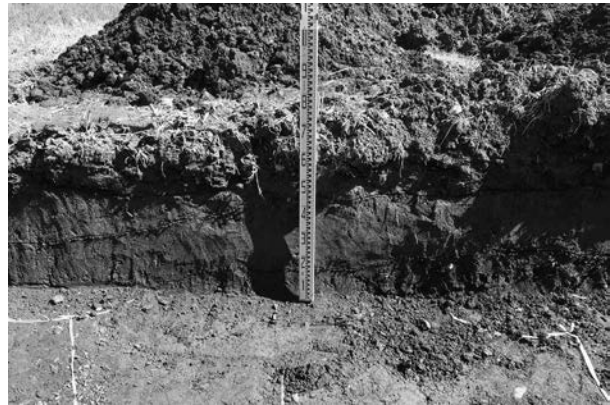
3 調査地全景（北から）



4 トレンチ完掘（南から）



5 トレンチ完掘（南から）



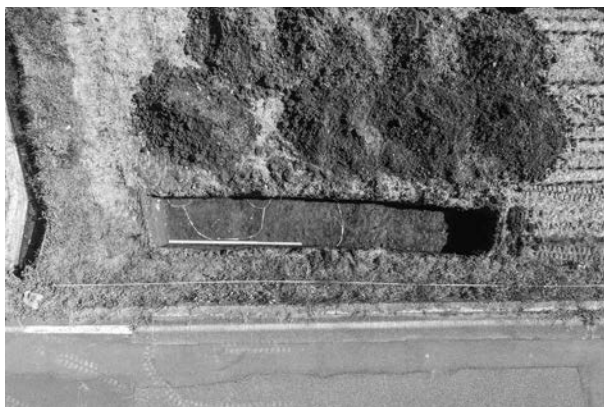
6 トレンチ東壁



7 トレンチ西壁



8 遺構平面（上が東）



9 トレンチ全景（上が東）



10 SK01 出土遺物



11 トレンチ第2層出土遺物



12 トレンチ第3層出土遺物



13 攪乱層出土遺物

10 潮遺跡群塩田若宮遺跡（第1表■101）



第35図 塩田若宮遺跡試掘位置図

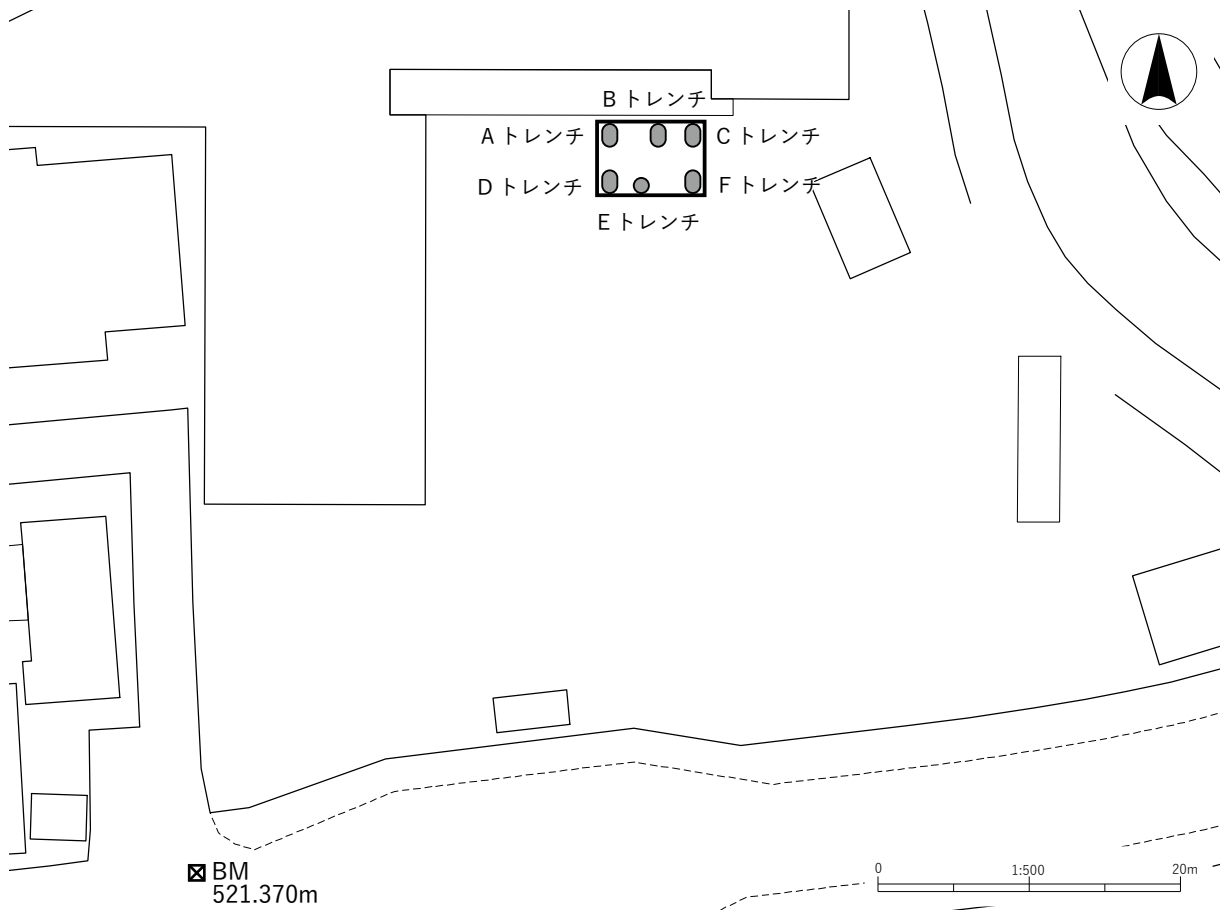
所在地	安曇野市明科東川手 872 番 1	調査面積	8㎡
調査期間	令和4年（2022）10月24日	調査契機	その他の建物
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、白居直之、田多井智恵、望月裕子		

(1) 概要

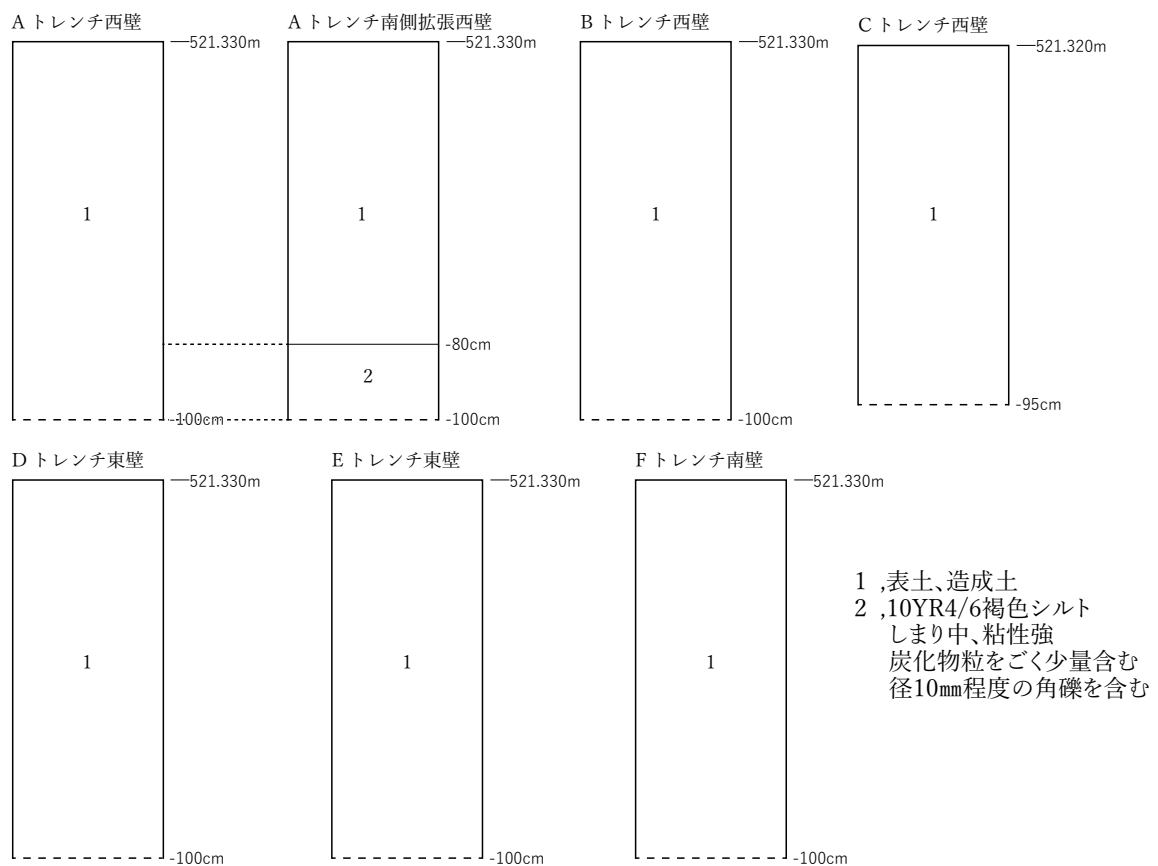
うしお しおだわかみや
 潮遺跡群塩田若宮遺跡（以下、「塩田若宮遺跡」とする。）は、犀川右岸の段丘上に所在する縄文～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに2次の発掘調査を実施しており、当該期の遺構、遺物を確認している（明科町教委 1997・安曇野市教委 2011）。

今回はパーゴラの支柱設置箇所にあわせてトレンチを6か所設定し、調査を行った。その結果、Aトレンチにおいて深さ1mの掘削で埋蔵文化財を包含する可能性のあるシルト層を確認したが、遺構、遺物は検出されなかった。他の5か所は、近代以降の造成土のみが堆積しており、埋蔵文化財は存在しなかった。

上記の結果から、今回の工事での本発掘調査は不要と判断した。



第36図 塩田若宮遺跡試掘トレンチ配置図



第37図 塩田若宮遺跡試掘土層概念図

第2章 試掘調査



1 調査地遠景（南から）



2 調査地遠景（南東から）



3 A トレンチ完掘（東から）



4 A トレンチ西壁



5 B トレンチ完掘（東から）



6 B トレンチ西壁



7 C トレンチ完掘（東から）



8 C トレンチ西壁



9 D トレンチ完掘 (西から)



10 D トレンチ東壁



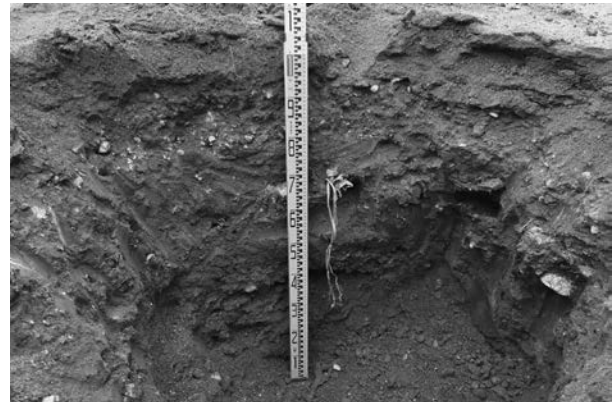
11 E トレンチ完掘 (西から)



12 E トレンチ西壁

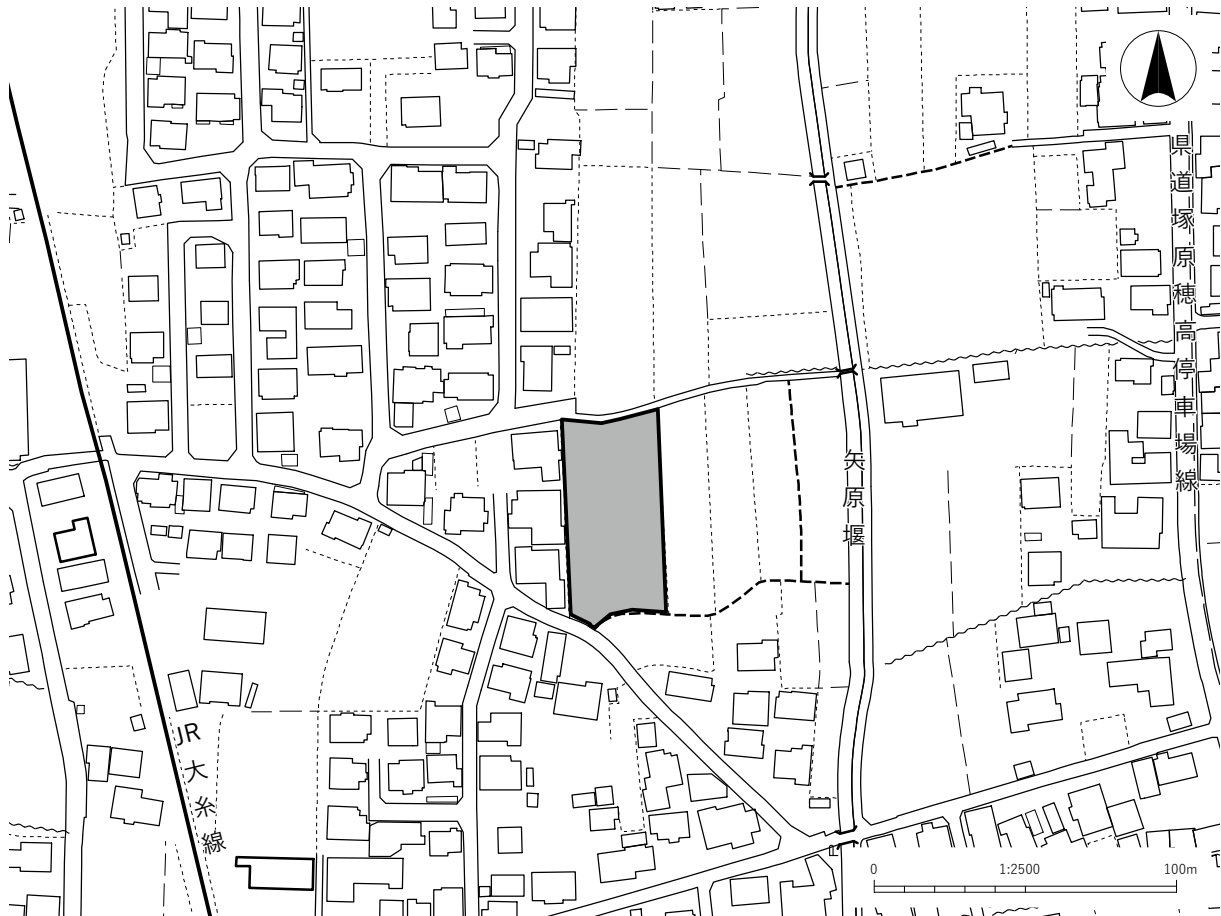


13 F トレンチ完掘 (西から)



14 F トレンチ南壁

11 弥之助畑遺跡（第1表■110）



第38図 弥之助畑遺跡試掘位置図

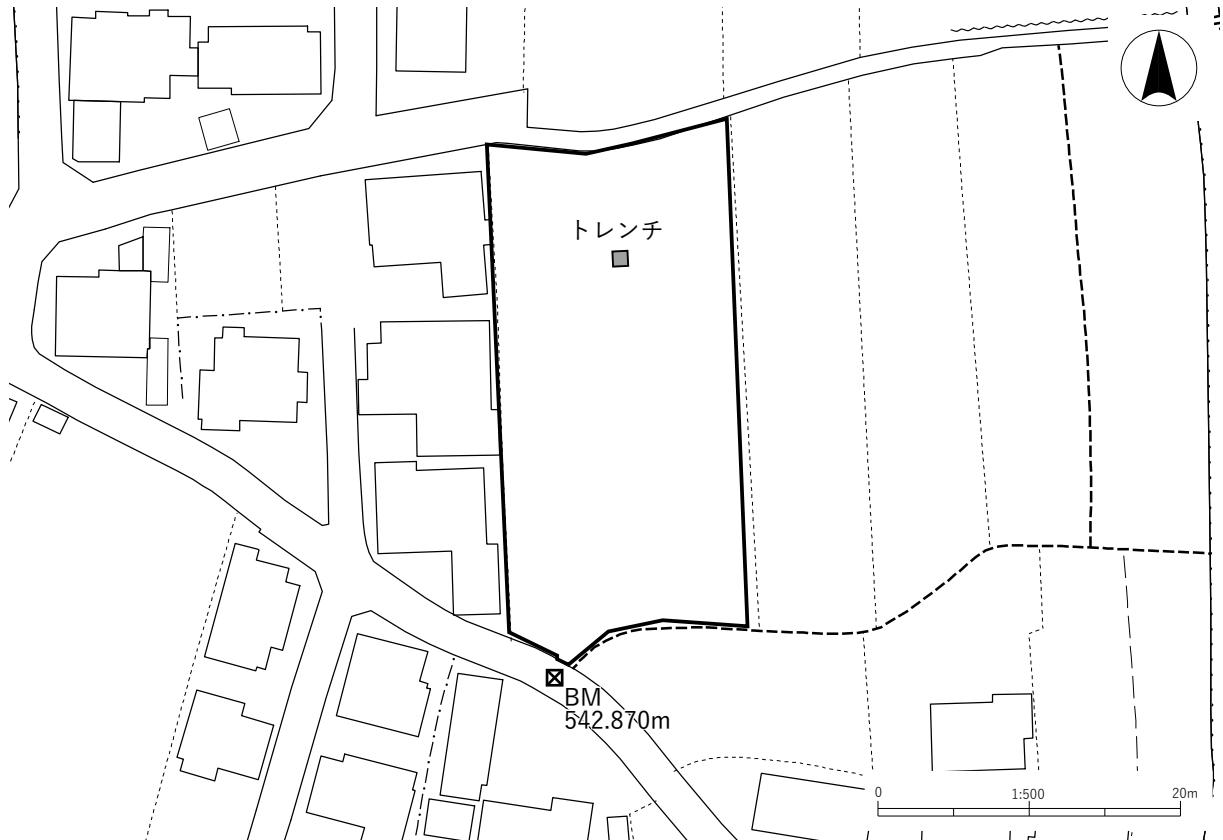
所在地	安曇野市穂高柏原 1562 番 1 外 1 筆	調査面積	4m ²
調査期間	令和4年（2022）11月9日	調査契機	宅地造成
調査参加者	斉藤雄太、白居直之、望月裕子		

(1) 概要

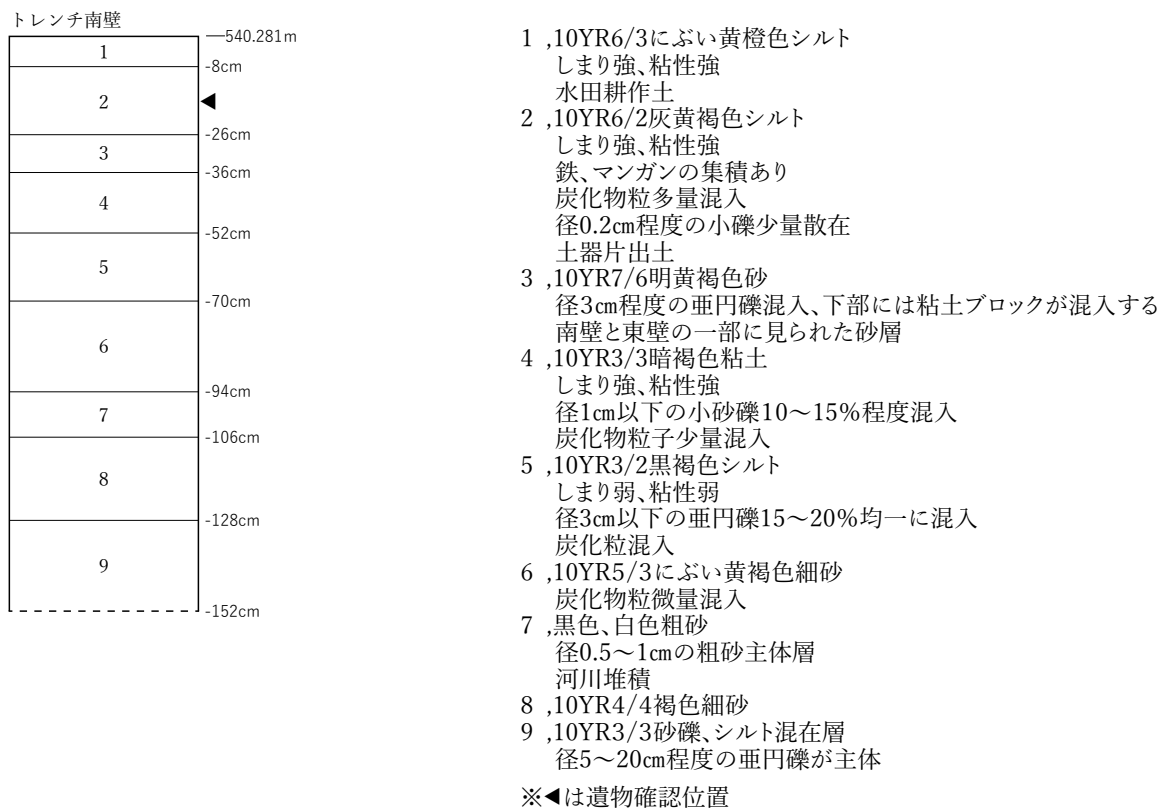
弥のすけはたけ
弥之助畑遺跡は、烏川扇状地扇央に所在する平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに発掘調査を実施した記録はない。

今回は浸透柵に調査区を設定し、試掘調査を実施した。その結果、第2層から平安時代の土師器片が出土したが、遺構は存在しなかった。

上記の結果から、今回の工事での本発掘調査は不要と判断した。



第39図 弥之助畑遺跡試掘トレンチ配置図



第40図 弥之助畑遺跡試掘土層概念図

第2章 試掘調査



1 調査地全景（南から）



2 調査地全景（北から）



3 トレンチ完掘（東から）

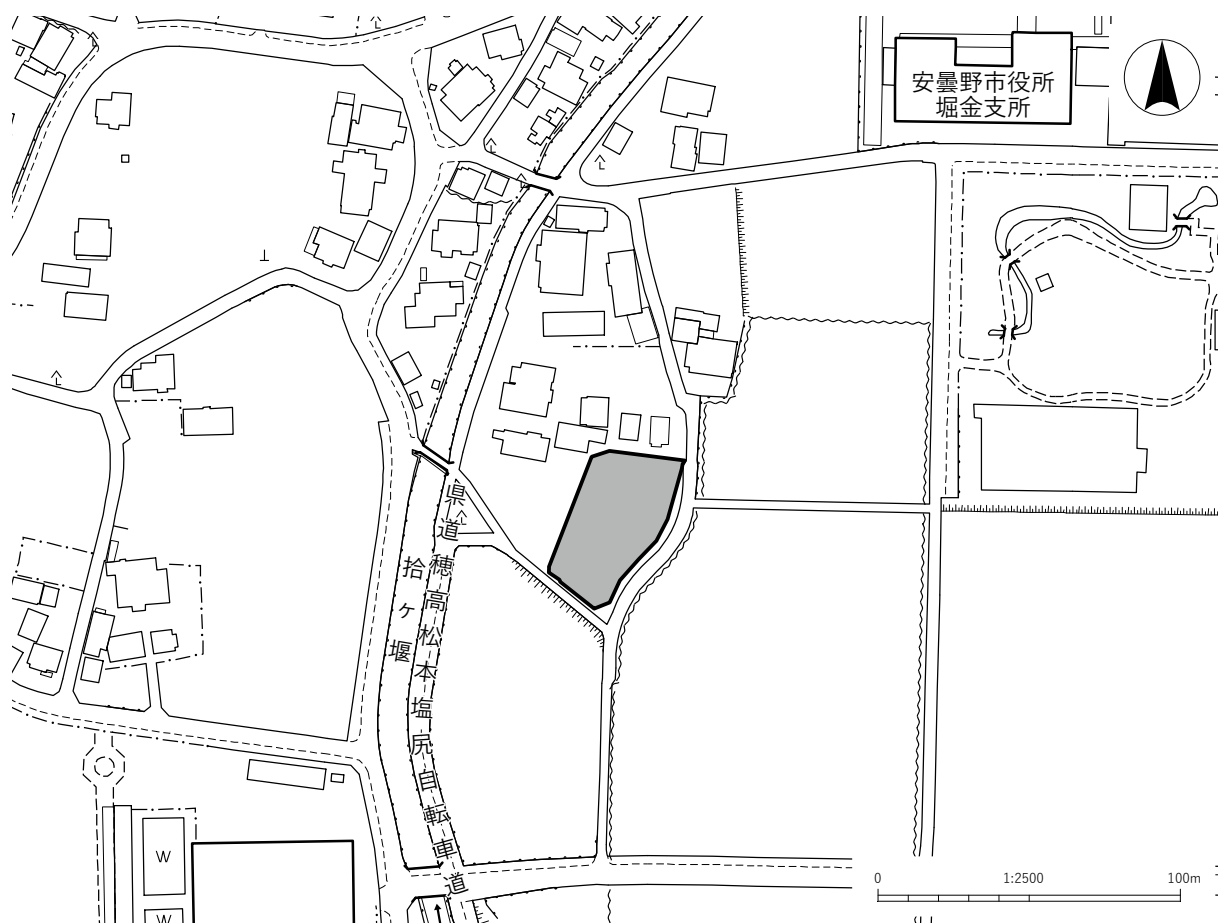


4 トレンチ南壁



5 トレンチ第2層出土遺物

12 堀金小学校付近遺跡（第1表■115）



第41図 堀金小学校付近遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市堀金烏川 2842 番 1 の内外 3 筆	調査面積	7㎡
調査期間	令和 4 年 (2022) 11 月 14 日	調査契機	宅地造成
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、白居直之、田多井智恵、望月裕子、寺島俊郎		

(1) 概要

堀金小学校付近遺跡は、梓川左岸の段丘に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに1次の発掘調査を実施しており、平安時代の遺構、遺物を確認している（堀金村教委 2005）。

今回は浸透柵に調査区を設定し、試掘調査を実施した。その結果、Bトレンチで平安時代のピット2基と土坑1基を検出した。それぞれ土器片が出土したものの、遺構の性格等は不明である。また、A、Bトレンチの第2層、第3層、第4層及びCトレンチの第2層において平安時代の土器片が出土した。

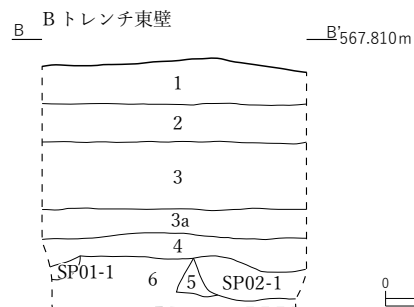
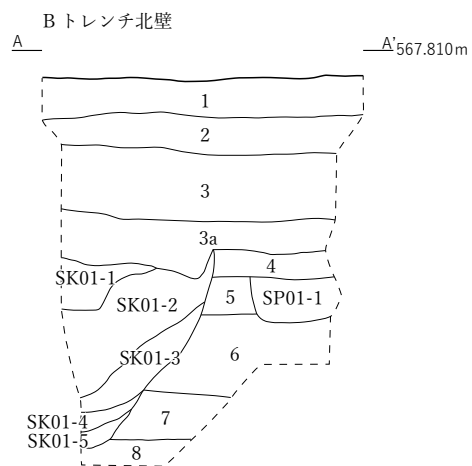
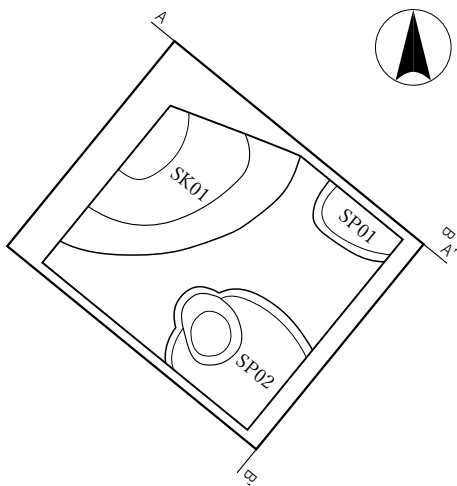
上記の結果から、今回の工事での本発掘調査は不要と判断した。

第2章 試掘調査

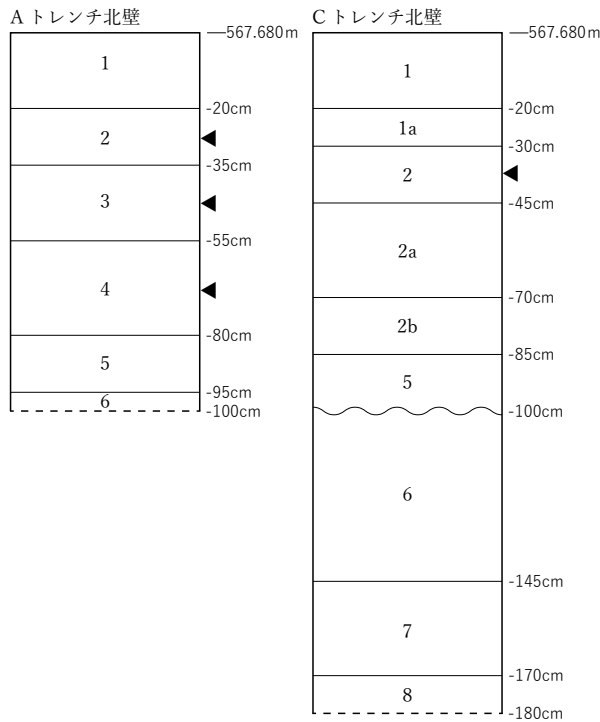


第42図 堀金小学校付近遺跡試掘トレンチ配置図

B トレンチ



第43図 堀金小学校付近遺跡試掘調査概要図



A・B・C トレンチ 基本層序

- 1 ,10YR3/2 黒褐色粘土
現代の耕作土
- 1a,10YR7/6 明黄褐色砂礫
径 1 ~ 4 cm の亜円礫 30% 混入
第 1 層の造成土
- 2 ,10YR5/2 灰黄褐色シルト
しまり強、粘性強
小礫 2% 混入
土器片混入
旧耕作土の整地層
- 2a,10YR4/4 褐色シルト
しまり弱、粘性弱
径 1 ~ 2 cm 程度の
亜円礫 25% 混入
鉄、マンガンの集積層
第 2 層の造成土
- 2b,10YR3/3 暗褐色シルト
しまり弱、粘性弱
上部は径 10 cm 程度の
亜円礫混入
下部は径 2 ~ 3 cm 程度の
亜円礫 50% 混入
第 2 層の造成土
- 3 ,10YR4/2 灰黄褐色シルト
しまり強、粘性強
鉄、マンガンの集積層
径 3 cm 程度の亜円礫 10% 混入
土器片混入
旧耕作土
- 3a,10YR4/1 褐灰色シルト
しまり強、粘性強
第 3 層との境界に集積層あり
礫を混入しない
旧耕作土
- 4 ,10YR2/3 黒褐色シルト
しまり強、粘性中
炭化物粒混入
土器片混入
- 5 ,10YR3/3 暗褐色シルト
しまり弱、粘性中
第 6 層砂層ブロック 40 ~ 50% 混入
第 6 層との分層線は波状
- 6 ,10YR7/6 明黄褐色砂
均一な細砂層
- 7 ,10YR2/2 黒褐色シルト
しまり中、粘性強
砂礫が混入しない均一なシルト層
- 8 ,砂礫層
粗砂 ~ 径 10 cm 程度の亜円礫層

B トレンチ SK01

- 1 ,10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
しまり中、粘性強
炭化物少量混入
- 2 ,10YR2/2 黒褐色シルト
しまり中、粘性強
径 3 ~ 5 cm の亜円礫 40% 混入
- 3 ,10YR3/3 暗褐色シルト
しまり中、粘性中
第 6 層明黄褐色砂層ブロック
20% 混入
礫の混入なし
土器片混入
- 4 ,10YR7/6 明黄褐色砂
第 6 層と同一
- 5 ,10YR3/3 暗褐色シルト
しまり中、粘性強

B トレンチ SP01

- 1 ,10YR 3 /2 黒褐色シルト
しまり強、粘性強
炭化物粒、
第 6 層明黄褐色砂層の、
径 5 cm 程度の小ブロック混入
土器片混入

B トレンチ SP02

- 1 ,10YR 3 /3 暗褐色シルト
しまり強、粘性強
炭化物粒、
第 6 層明黄褐色砂層の
小ブロック混入
土器片混入

※◀は遺物確認位置

第44図 堀金小学校付近遺跡試掘土層概念図

第2章 試掘調査



1 調査地全景（上が北西）



2 調査地全景（南東から）



3 調査地近景（南西から）



4 調査地近景（北東から）



5 A トレンチ完掘（北西から）



6 A トレンチ北東壁



7 B トレンチ完掘（北西から）



8 B トレンチ北東壁



9 B トレンチ北東壁



10 B トレンチ遺構平面（上が北東）



11 B トレンチ遺構掘り下げ（上が北東）



12 C トレンチ完掘（南から）



13 C トレンチ北壁



14 A トレンチ第3層出土遺物



15 A トレンチ第4層出土遺物



16 A トレンチ出土遺物



17 B トレンチ SP01 出土遺物



18 B トレンチ SP02 出土遺物



19 B トレンチ SK01 出土遺物

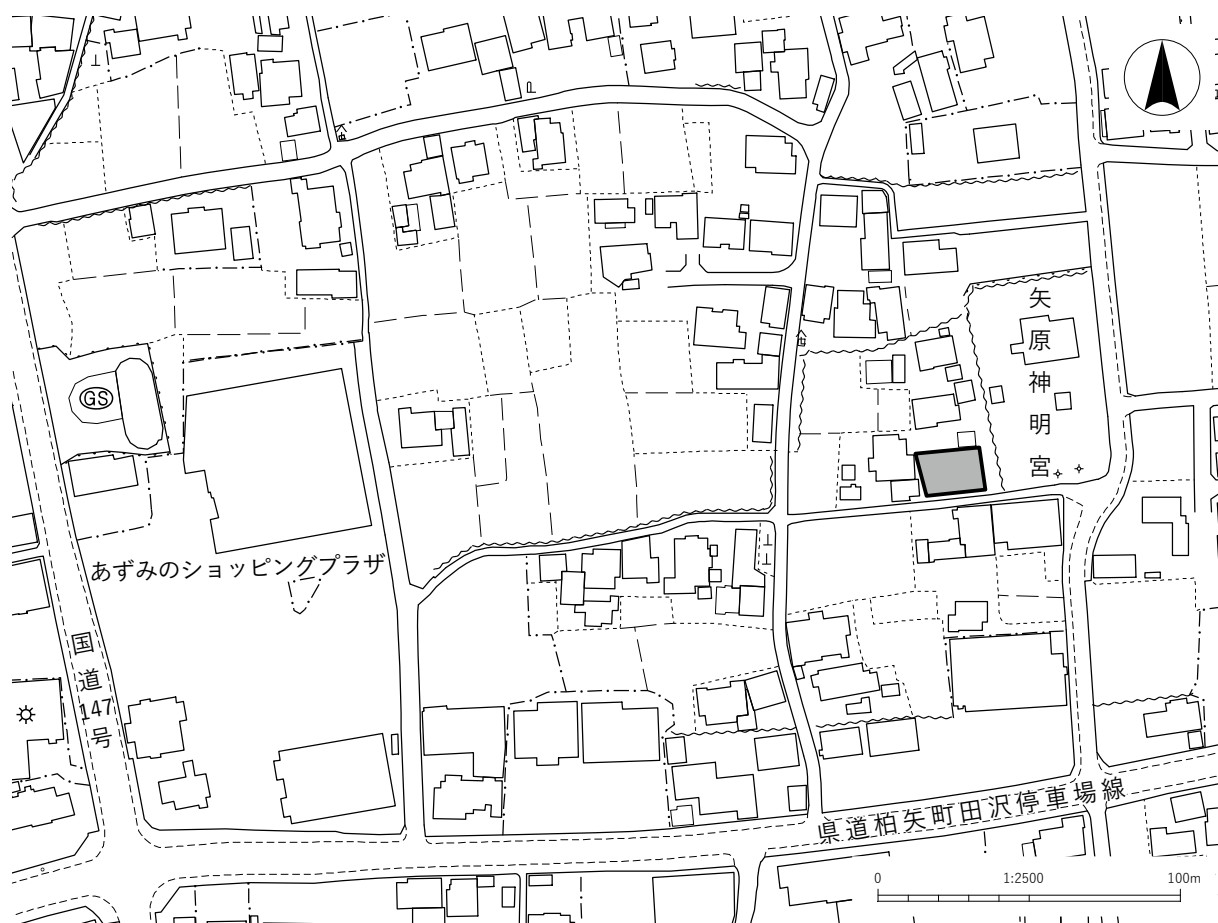


20 B トレンチ出土遺物



21 C トレンチ出土遺物

13 矢原宮地遺跡（第1表■125）



第45図 矢原宮地遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市穂高 823 番 4 外 1 筆	調査面積	9㎡
調査期間	令和 4 年 (2022) 11 月 22 日	調査契機	個人住宅
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、山下泰永、臼居直之、田多井智恵、望月裕子		

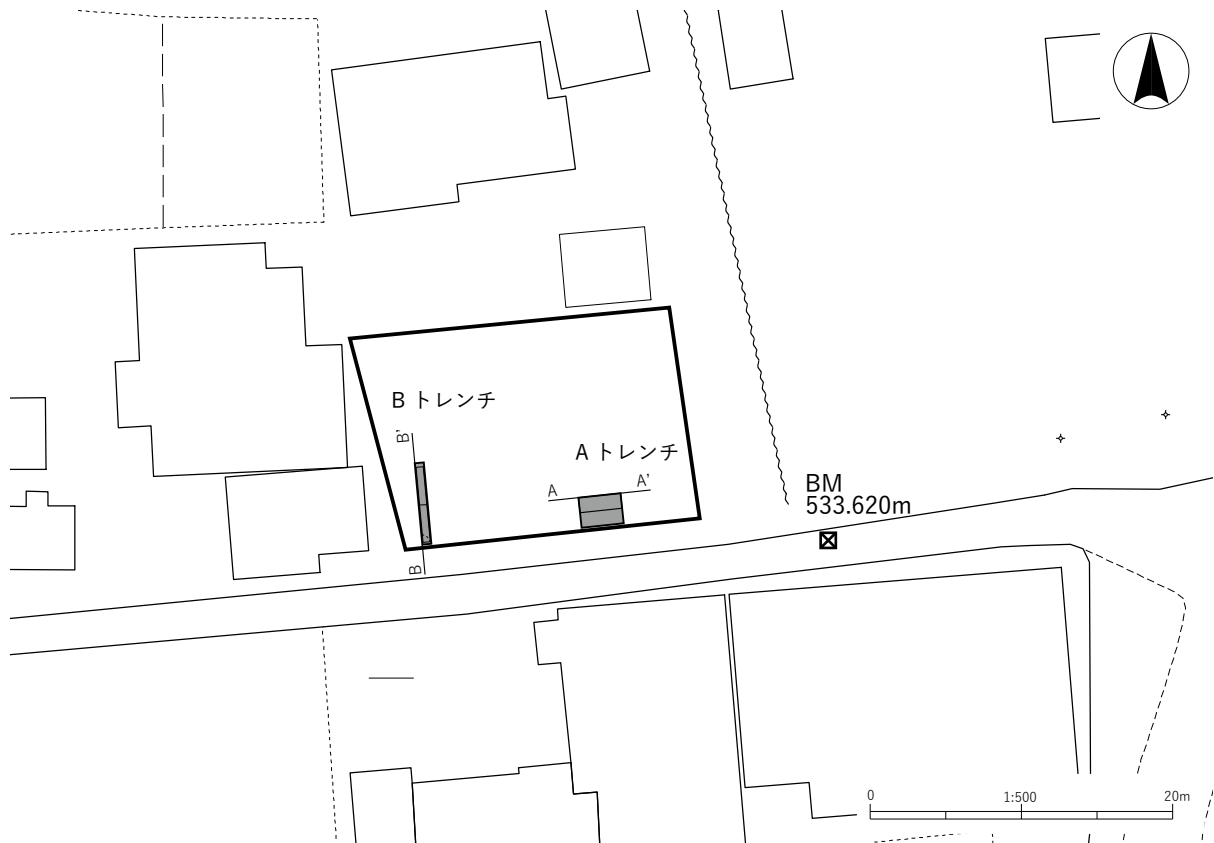
(1) 概要

矢原宮地遺跡は、烏川扇状地扇央に所在する縄文～平安時代の集落跡である。この遺跡では、1996年に穂高町教育委員会等が発掘調査を実施し、古墳～平安時代の遺構、遺物を確認している。

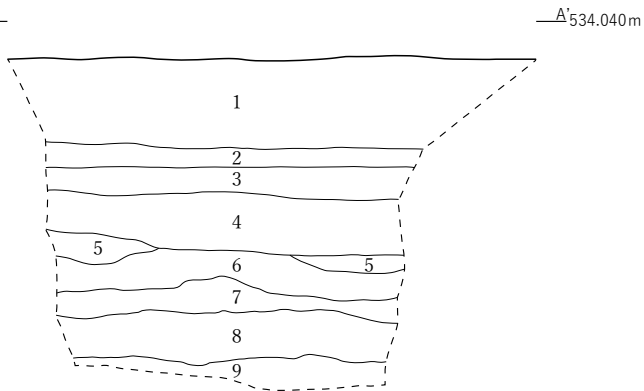
今回は浸透柵及び給排水管路に調査区を設定し、試掘調査を実施した。その結果、Bトレンチの地表面化約 80cm 以深において平安時代の竪穴住居跡 1 棟とピット 2 基を検出した。2 基のピットの内、北側の 1 基 (SI01-SP01) は竪穴住居床面を掘り込んでおり、柱穴とみられた。また、それぞれ土器片を包含していた。そのほか、A、B トレンチの第 2 層、第 3 層、第 4 層において平安時代の土器片が出土した。

本調査により浸透柵及び給排水管路計画地点の記録保存は終了した。当該地では住宅基礎工事のため現況地盤から深度 60～70cm の掘削が計画されているが、本調査の結果から遺構面は 80cm 以深であり遺構に達しないという所見を得たため、住宅基礎工事に伴う本発掘調査は不要と判断した。

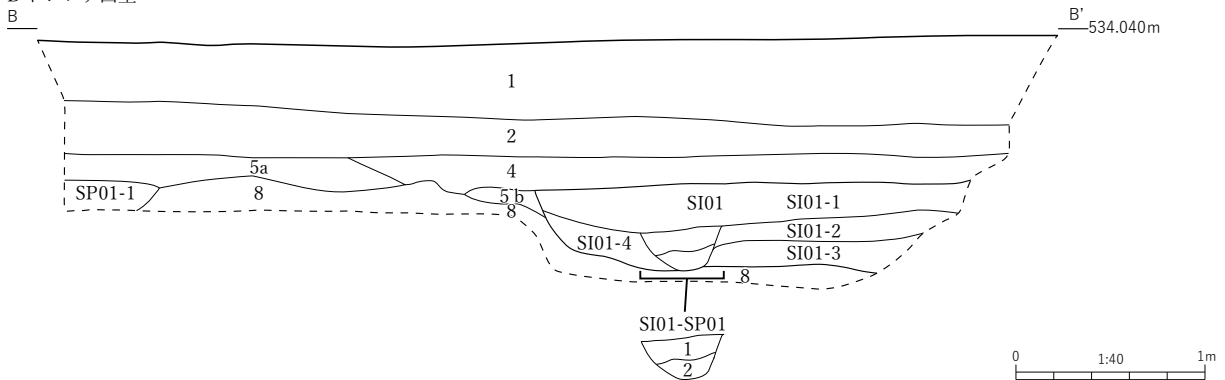
第2章 試掘調査



A トレンチ北壁
A—

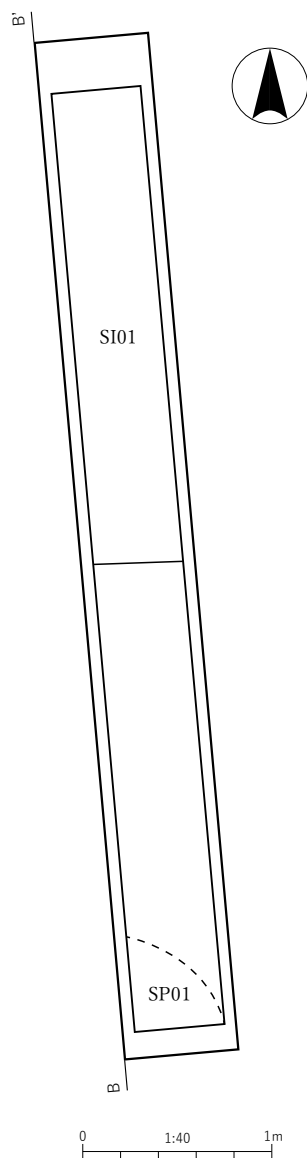


B トレンチ西壁
B—



第47図 矢原宮地遺跡試掘トレンチセクション図

Bトレンチ



A・B トレンチ 基本層序

- 1 ,造成土
砂礫
- 2 ,10YR5/1褐灰色粘土
耕作土
- 3 ,10YR5/4にぶい黄褐色シルト
しまり弱、粘性中
下部に鉄、マンガンの斑紋状の集積
土器片混入
- 4 ,10YR5/2灰黄褐色シルト
しまり強、粘性強
鉄、マンガンの集積あり
炭化物、炭化物粒3%、
径10cm程度の垂円礫2%混入
土器片混入
- 5 ,10YR6/1褐灰色砂
しまり無、粘性無
径2cm程度の垂円礫を含む粗砂が主体
第6層褐灰色シルトブロック10%混入
土器片混入
- 5a,10YR7/8黄橙色砂
径3mm程度の粗砂、
径3cm程度の垂円礫20%混入
- 5b,10YR3/1黒褐色粘土
砂礫層垂円礫
径2cm程度の垂円礫を主体
黒褐色シルトブロック40%混入
- 6 ,10YR4/2褐灰色シルト
しまり強、粘性強
第4層に比して土色が暗い
径10cm程度の垂円礫10%が混入
- 7 ,10YR6/1褐灰色砂
しまり中、粘性強
黒色、白色の粗砂、細砂の混合砂
径2cm程度の垂円礫3%混入
土器片出土
- 8 ,10YR4/3にぶい黄褐色シルト
しまり中、粘性中
鉄の斑紋状集積の部分的な広がりあり
- 9 ,7.5YR2/3極暗褐色粘土
しまり中、粘性強
砂礫混在層
径5～8cm程度の垂円礫が30%混入

Bトレンチ SP01

- 1 ,10YR3/3暗褐色シルト
しまり強、粘性強
礫の混入なし
炭化物粒少量混入
土器片出土

Bトレンチ SI01

- 1 ,10YR4/4褐色シルト
しまり強、粘性強
ハードな土質
炭化物、炭化物粒10%混入
径3cm以下の垂円礫7%混在
遺構の埋土の可能性高い
土器出土
- 2 ,10YR3/3暗褐色シルト
しまり強、粘性強
径2～3cmの垂円礫2%混入
炭化物粒微量混入
土器片出土
- 3 ,10YR4/1褐灰色シルト
しまり強、粘性強
砂礫の混入なし
土器片混入
- 4 ,7.5YR2/3極暗褐色シルト
しまり強、粘性強
砂礫の混入なし

Bトレンチ SI01-SP01

- 1 ,10YR4/1褐灰色シルト
しまり強、粘性強
黄褐色シルトブロック40%、
垂円礫5%混入
- 2 ,10YR3/2黒褐色粘土
しまり中、粘性強
炭化物粒混入

第48図 矢原宮地遺跡試掘調査概要図

第2章 試掘調査



1 調査地全景（南東から）



2 調査地全景（南西から）



3 A トレンチ完掘（南から）



4 A トレンチ北壁



5 B トレンチ完掘（南から）



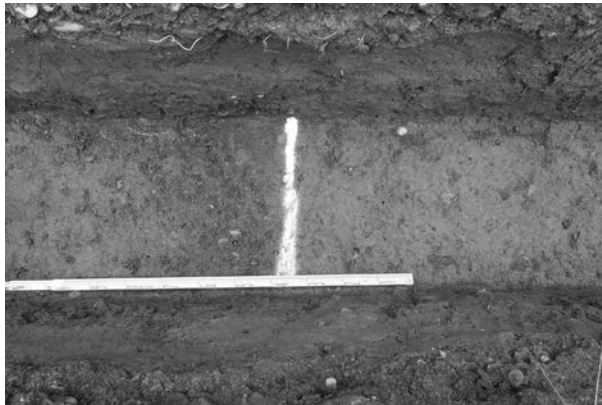
6 B トレンチ完掘（北から）



7 B トレンチ西壁（南側）



8 B トレンチ西壁（北側）



9 B トレンチ遺構平面（上が西）



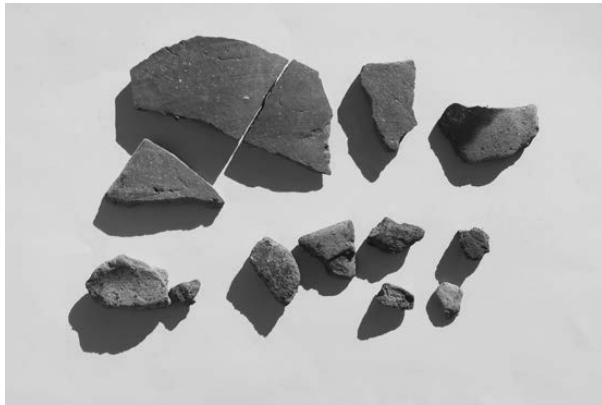
10 A トレンチ出土・表採遺物



11 B トレンチ第2層・SP01 出土遺物

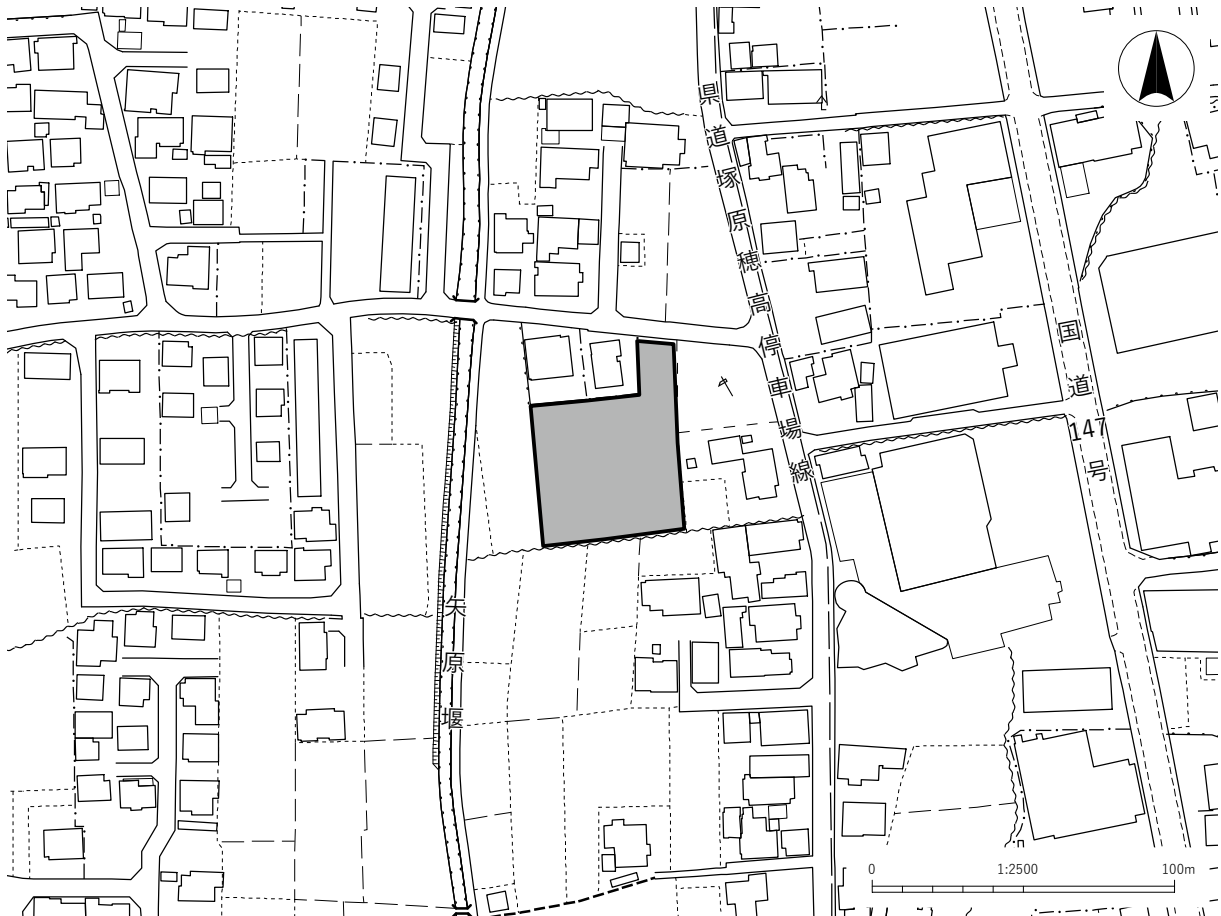


12 B トレンチ SI01 出土遺物



13 B トレンチ第4層出土遺物

14 ハツ口遺跡（第1表■130）



第49図 ハツ口遺跡試掘位置図

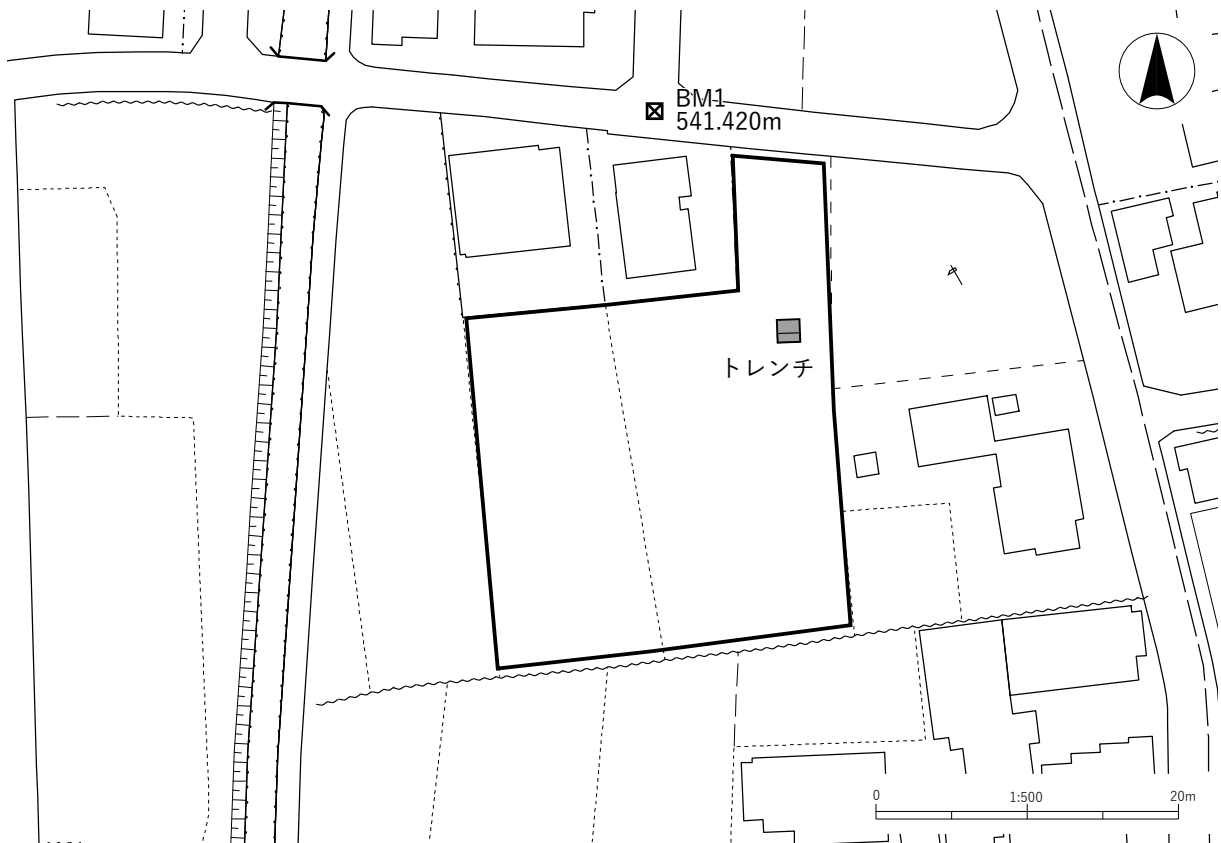
所在地	安曇野市穂高柏原 955 番 1 外 1 筆	調査面積	9㎡
調査期間	令和4年（2022）11月29日	調査契機	宅地造成
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、臼居直之、田多井智恵、望月裕子		

(1) 概要

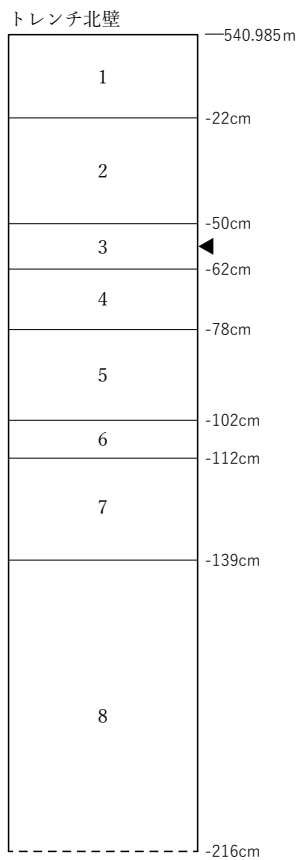
ハツ口^{やつくち}遺跡は、烏川扇状地扇央に所在する奈良時代～中世の集落跡である。この遺跡では、これまでに2次の発掘調査を実施し、当該期の遺構、遺物を確認している（安曇野市教委 2010）。

今回は浸透桝計画地点に調査区を設定し、試掘調査を実施した。その結果、第2層、第3層及び第4層から遺物が出土したが、遺構は存在しなかった。

上記の結果から、今回の工事での本発掘調査は不要と判断した。



第50図 ハツ口遺跡試掘トレンチ配置図



- 1 ,10YR2/1 黒色粘土
水田耕作土
- 2 ,10YR6/1 褐灰シルト
しまり強、粘性強
鉄、マンガンの斑紋状の集積あり
径1cm程度の亜円礫3%混入
耕作土床土
土器碎片混入
- 3 ,10YR3/4 暗褐色シルト
しまり強、粘性強
上部は鉄、マンガンのハードな集積層
炭化物、炭化物粒10%混入
径2cm程度の亜円礫2%混入
土器片混入
- 4 ,10YR3/3 暗褐色シルト
しまり強、粘性強
灰黄褐色シルトブロック3%混入
円礫2%混入
土器碎片混入
- 5 ,10YR4/4 褐色砂質シルト
しまり中、粘性強
径2mm程度の粗砂7%混入
- 6 ,10YR3/4 暗褐色砂質シルト
しまり中、粘性弱
径1mm程度の炭化物粒3%混入
- 7 ,10YR4/4 褐色砂質シルト
しまり中、粘性弱
- 8 ,10YR4/6 褐色砂礫
上層(20~30cm)径2~8cm程度の亜円礫を主体とする砂礫層
下層にしたがって径10cm程度の亜円礫がふえる

※◀は遺物確認位置

第51図 ハツ口遺跡試掘土層概念図

第2章 試掘調査



1 調査地全景（南から）



2 調査地全景（北から）



3 トレンチ完掘（南から）

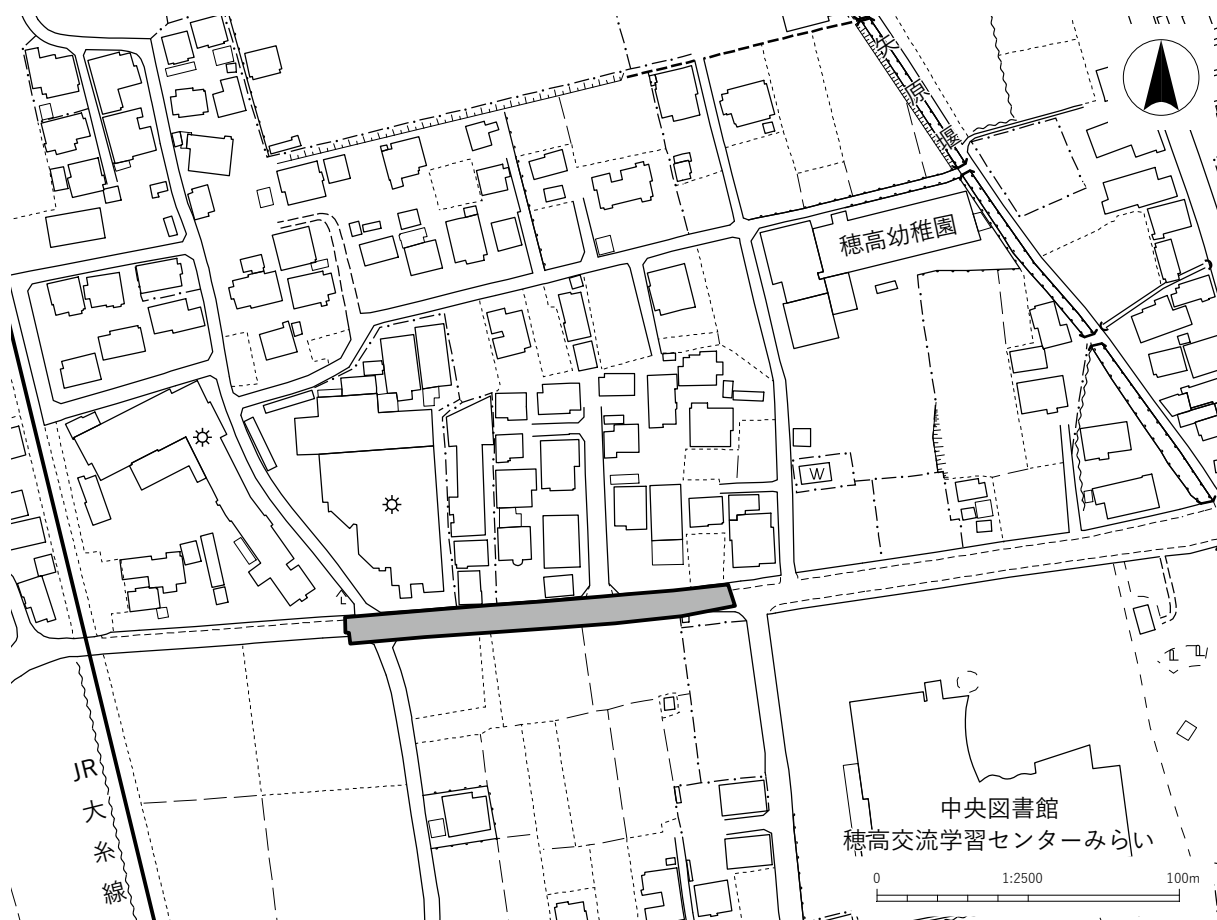


4 トレンチ北壁



5 トレンチ第3層出土遺物

15 藤塚遺跡（第1表■155）



第52図 藤塚遺跡試掘位置図

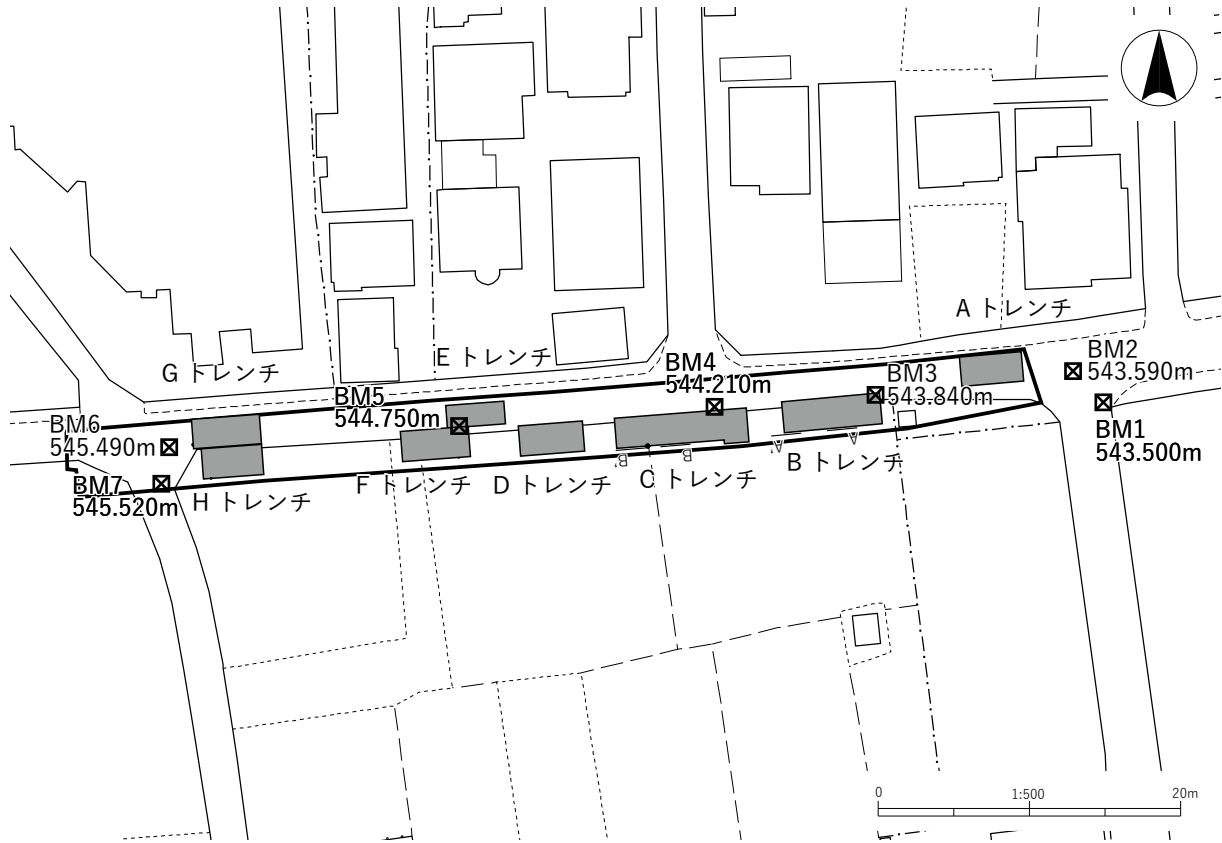
所在地	安曇野市穂高 6780 番 8 付近	調査面積	321㎡
調査期間	令和4年(2022)12月14日～令和5年(2023)1月11日	調査契機	道路
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、白居直之、田多井智恵		

(1) 概要

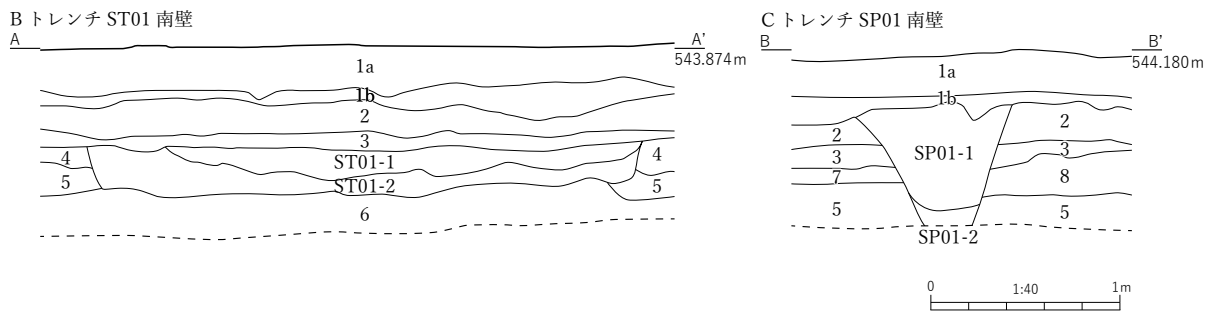
藤塚遺跡は、烏川扇状地扇中央に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに2次の発掘調査を実施しており、古墳時代及び奈良、平安時代の集落跡を確認している（安曇野市教委 2009）。

今回は道路改良工事区間に調査区を設定し、調査を実施した。その結果、道路北側（A、E及びGトレンチ）は既設埋設物の覆土及び造成土であり、埋蔵文化財は存在しなかった。一方、南側（B、C、D、F及びHトレンチ）では造成土及び旧耕作土（深度約25～50cm）の下位にシルト層が残存しており、Bトレンチ南壁にて竪穴建物跡の可能性のある遺構、Cトレンチにてピットを検出した。いずれの遺構においても遺物は出土せず、時期は不明である。

本調査により掘削計画地点の記録保存は終了した。



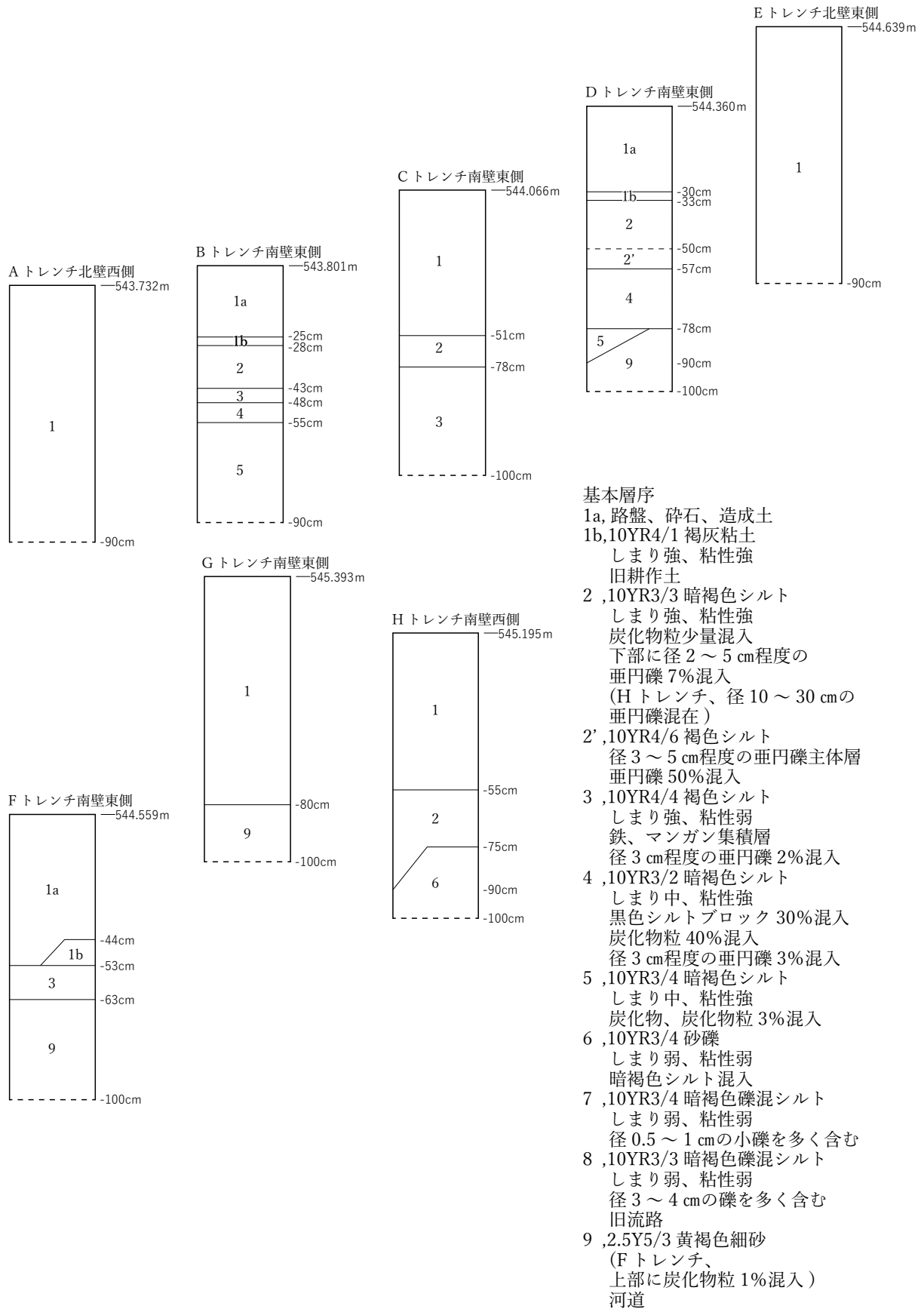
第53図 藤塚遺跡試掘トレンチ配置図



- Bトレンチ ST01**
- 1 ,10YR3/4暗褐色シルト
しまり中、粘性強
褐色シルトブロック混入
炭化物粒 20%、
径 2 cm以下の垂円礫 2%混在
 - 2 ,10YR3/2黒褐色シルト
しまり中、粘性強
炭化物粒 40%、
径 2～5 cm程度の垂円礫 2%混在
摩耗した土器小片混入
ST01 は第5層シルト層と
第6層砂礫層を掘り込んでいる

- Cトレンチ SP01**
- 1 ,10YR3/4 暗褐色シルト
しまり中、粘性中
径 0.5～2 cmの礫を若干含む
 - 2 ,10YR2/2 黒褐色シルト
しまり中、粘性中
覆土第1層より大きめの
径 1～3 cmの礫を少量含む

第54図 藤塚遺跡試掘B・Cトレンチセクション図



第55図 藤塚遺跡試掘土層概念図

第2章 試掘調査



1 A トレンチ全景 (東から)



2 A トレンチ南壁



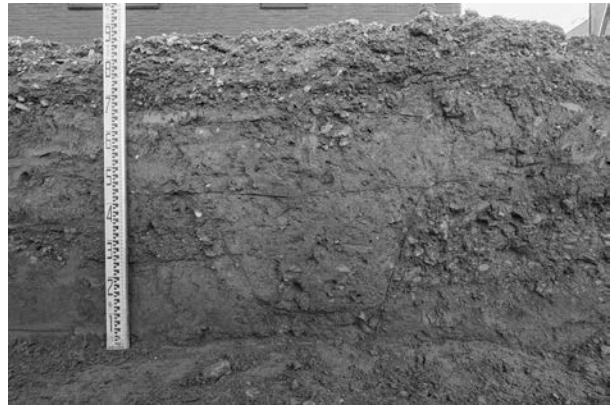
3 B トレンチ全景 (東から)



4 B トレンチ南壁遺構 (東側)



5 C トレンチ全景 (西から)



6 C トレンチ南壁遺構



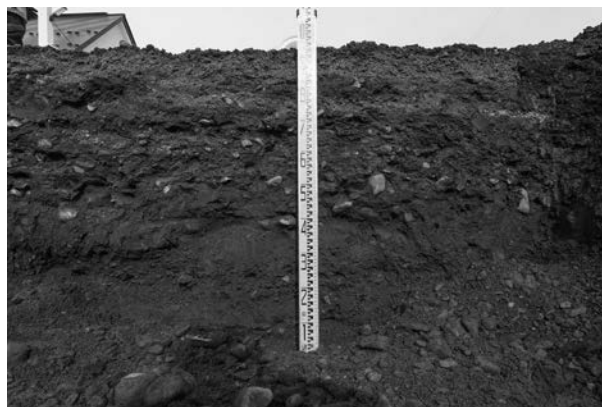
7 D トレンチ全景 (東から)



8 D トレンチ南壁



9 Eトレンチ全景 (西から)



10 Eトレンチ北壁



11 Fトレンチ全景 (東から)



12 Fトレンチ南壁



13 Gトレンチ全景 (南から)



14 Gトレンチ西壁



15 Hトレンチ全景 (東から)



16 Hトレンチ南壁

16 中在地遺跡（第1表■173）



第56図 中在地遺跡試掘位置図

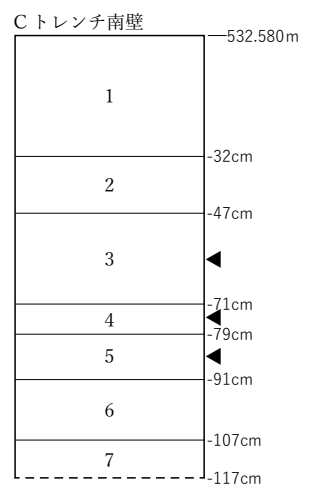
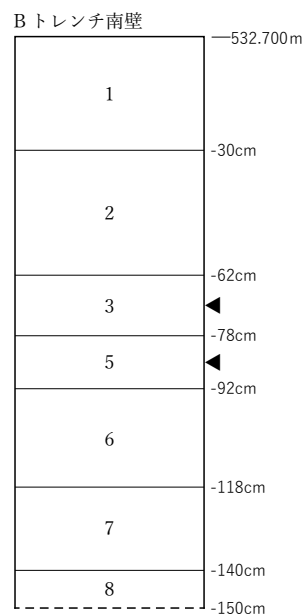
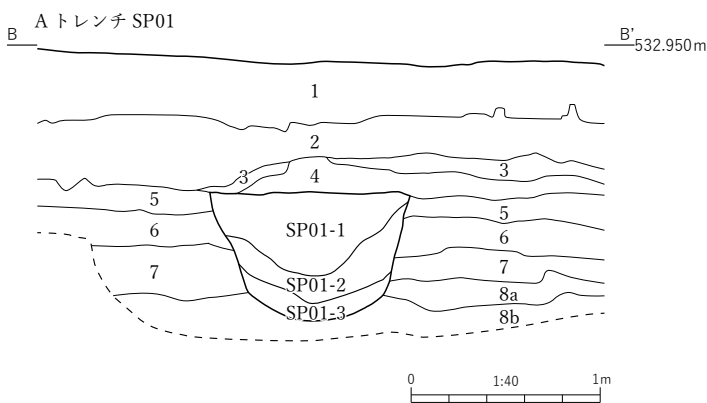
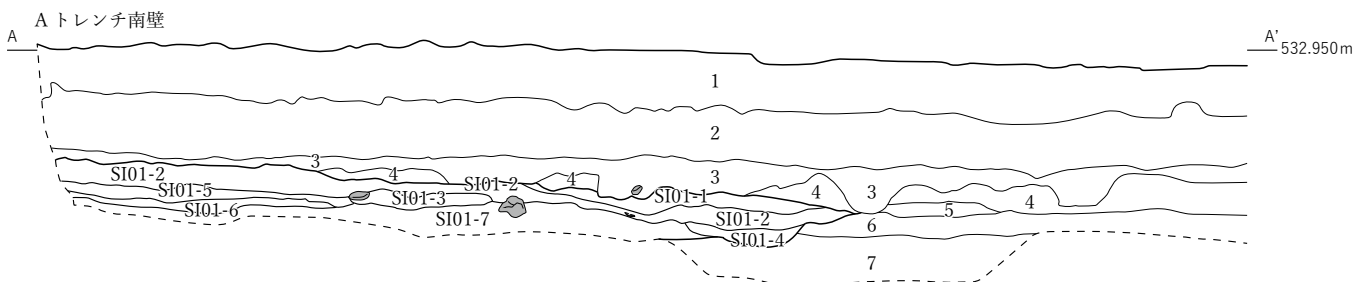
所在地	安曇野市穂高 753 番 1 外 2 筆	調査面積	76㎡
調査期間	令和 5 年（2023）2 月 15 日～2 月 17 日	調査契機	宅地造成
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、白居直之、田多井智恵、望月裕子、寺島俊郎		

(1) 概要

中在地遺跡は、なかざいち烏川扇状地扇央に所在する縄文～平安時代の集落跡である。この遺跡では、1991年～1993年に穂高町教育委員会が店舗建設に際し発掘調査を実施し、古墳～平安時代の遺構、遺物を確認している。

今回は給排水管路に調査区を設定し、試掘調査を実施した。その結果、竪穴建物跡3棟、ピット2基を検出し、竪穴建物跡ではそれぞれ焼土及び焼石を検出した。そのうちSI02でカマド跡を検出し、SI01から奈良時代、SI02、SI03から平安時代の遺物が出土した。このことから、少なくとも2つの時代に存在した集落跡であることを確認できた。一方ピットはいずれも遺物を包含しておらず、時期の確認には至らなかった。

本調査により給排水管路の保護措置は終了した。今後掘削計画に応じて適宜保護措置を講じる。



※◀は遺物確認位置

第58図 中在地遺跡試掘A・B・Cトレンチセクション図

第2章 試掘調査

A トレンチ 基本層序

- 1, 造成土
碎石、黄褐色粘土
- 2, 10YR2/1黒色粘土
しまり強、粘性強
炭化物粒2%混入
円礫1%混入
ビニール紐を混入する耕作土
- 3, 10YR2/3黒褐色粘土
しまり中、粘性強
東に従い 10YR5/1 褐灰色粘土に
変化する(還元作用)
褐色(10YR4/2)シルトブロック混入
径1cmの亜円礫1%混入
炭化粒2%混入
下面の凹凸が激しく耕作によって
深くなった影響が窺える
旧耕作土
- 4, 10YR3/3暗褐色粘土
しまり強、粘性強
鉄、マンガンの集積層
褐色シルトブロック10~20%混入
炭化物粒2%混入
径1~2cm程度の礫2%混入
土器片混入
- 5, 10YR2/2黒褐色粘土
しまり強、粘性強
鉄、マンガンの集積 10~15%混入
径1cm以下の亜円礫 10%混入
上部は径2cm程度の亜円礫混入
最大径2cm程度の炭化物、
炭化物粒5~15%混入
炭化ブロックになる所がある
土器片混入
- 6, 10YR3/2黒褐色粘土
しまり中、粘性強
褐灰色シルトブロック混入
径1~4cm程度の亜円礫2~4%混入
炭化物粒2%混入
- 7, 10YR3/1黒褐色シルトと細砂層
しまり弱、粘性強
径1~4cm程度の亜円礫3~5%混入
- 8a, 10YR2/3黒褐色シルトと細、粗砂混合層
径2cm以下の亜円礫15%混入
シルトと細粗砂混在
- 8b, 10YR2/3黒褐色シルトと砂礫層
径1~10cm程度の円礫、粗砂主体
黒褐色シルト混入

A トレンチ SI01

- 1, 10YR3/2黒褐色粘土
しまり弱、粘性強
焼土と炭化物ブロック混入層
径4cm程度の焼土ブロックと、
径2cm程度の炭化物が縞状に堆積
- 2, 10YR3/4暗褐色シルト
しまり強、粘性強
鉄、マンガンの集積層
板状の集積が2~3層あり
炭化物粒20%混入
土器片混入
- 3, 10YR3/4暗褐色粘土
しまり強、粘性強
焼土混入層
焼土粒、炭化物粒が縞状に堆積
SI01 第2層シルトブロック混在
下部に鉄マンガンの集積あり
- 4, 10YR3/3暗褐色シルト
しまり強、粘性強
黒褐色(10YR2/2)シルトブロック
30%混入
炭化粒3%混入
円礫を含まない
土器片混入
- 5, 10YR4/1褐色砂礫層
しまり弱、粘性弱
径2cm程度の円礫を主体とする
粗砂の混じった砂礫層
- 6, 10YR3/4暗褐色シルト
しまり強、粘性強
鉄、マンガンの堅い集積層
所々に板状の集積面がある
炭化物粒3%混入
土器片混入
- 7, 10YR3/2黒褐色シルト
しまり強、粘性強
径1cm程度の亜円礫1%混入
礫は極めて少ない
土器片混入

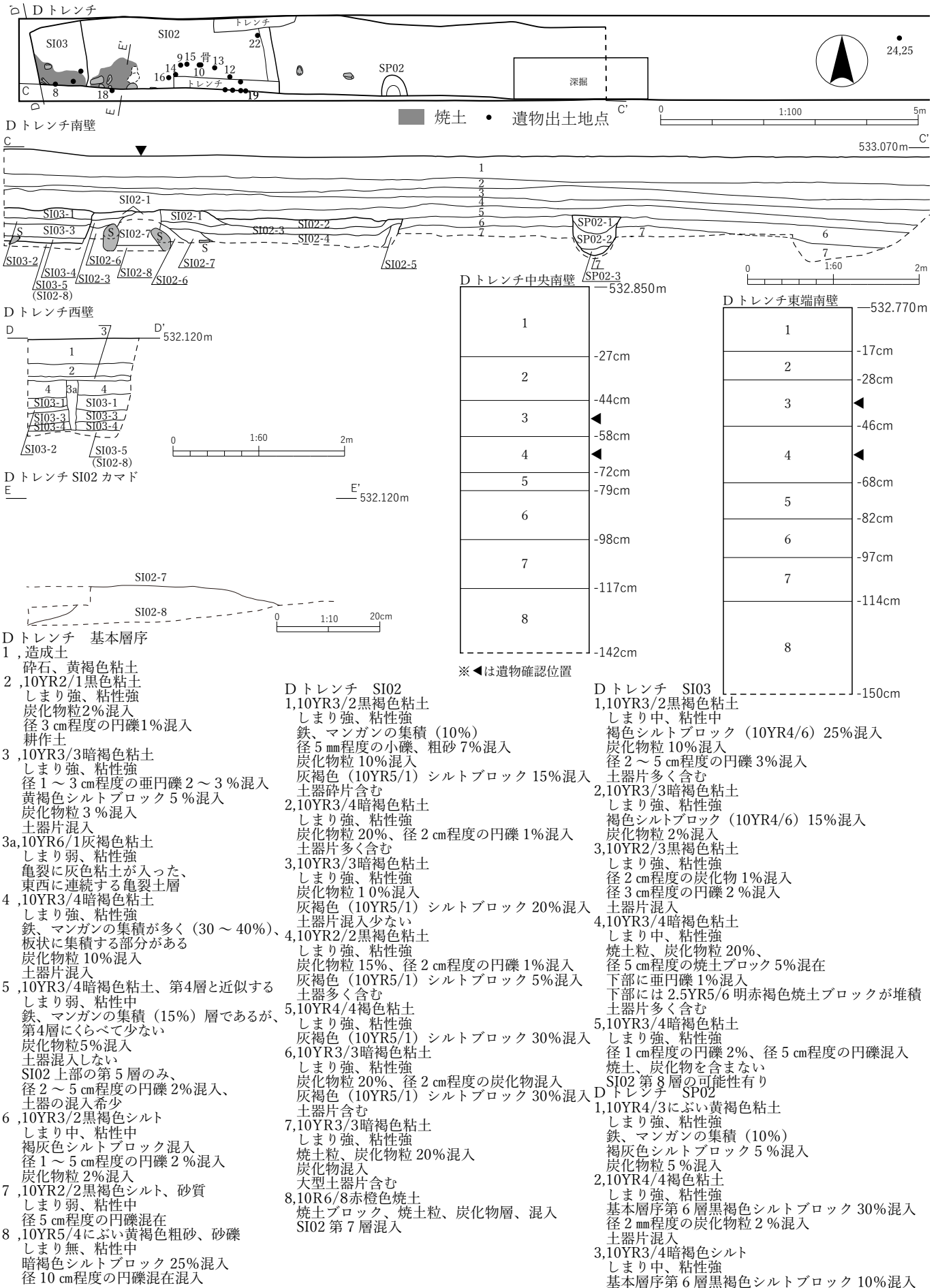
A トレンチ SP01

- 1, 10YR3/4暗褐色シルト
しまり中、粘性強
径1~5cm程度の円礫2%混入
褐灰色(10YR4/1)シルトブロック
20%混入
- 2, 10YR3/3暗褐色シルト
しまり強、粘性強
黒褐色(10YR2/2)シルトブロック
30%混入
炭化粒3%混入
円礫を含まない
土器片混入
- 3, 10YR2/3黒褐色シルト
しまり中、粘性強
径2cm以下の円礫2%混入
炭化粒3%混入

B・C トレンチ

- 1, 造成土
碎石、黄褐色粘土
- 2, 10YR2/1黒色粘土
しまり強、粘性強
炭化物粒2%混入
径3cm程度の円礫1%混入
ビニール紐、ガラス片などを
混入する耕作土
- 3, 10YR2/3黒褐色粘土
しまり強、粘性強
径1cmの亜円礫1%混入
炭化物粒3%混入
下部に褐色(10YR4/2)
シルトブロック混入
土器小破片混入
- 4, 10YR3/3暗褐色粘土
しまり強、粘性強
鉄、マンガンの集積層
褐色シルトブロック20%混入
径1~2cm程度の礫2%混入
土器片混入
- 5, 10YR2/2黒褐色粘土
しまり中、粘性強
最大径2cm程度の炭化物、
炭化物粒10~15%混入
炭化ブロックになる所がある
上部には径2cm程度の亜円礫、
土器が混入
鉄、マンガンの集積15%あり
- 6, 10YR3/2黒褐色粘土
しまり強、粘性強
褐灰色シルトブロック混入
径1~4cm程度の亜円礫2~4%、
炭化物粒2%混入
- 7, 10YR3/1黒褐色シルト
しまり弱、粘性強
径1~4cm程度の亜円礫5%混入
- 8, 10YR2/3黒褐色シルトと礫層
砂質
径1~10cm程度の礫30~40%混入
粘性あるシルトと礫の混在層

第59図 中在地遺跡試掘A・B・C トレンチ土層注記



第60図 中在地遺跡試掘Dトレンチ調査概要図

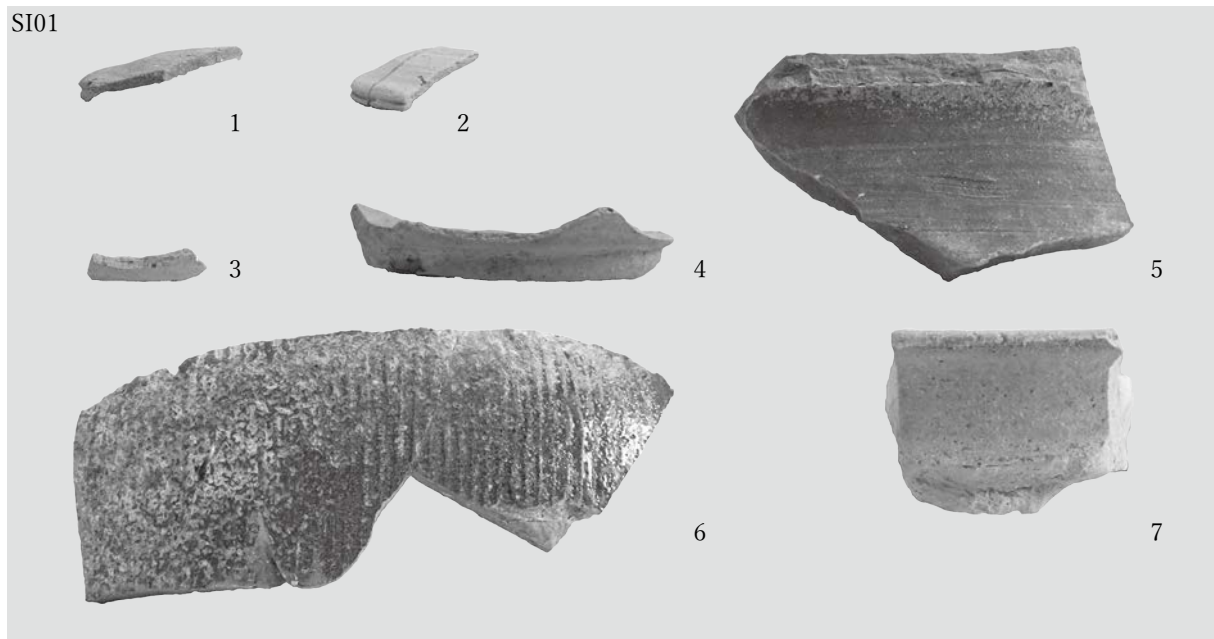
(2) 遺物

	年月日	文書番号	内容
1	令和5年2月21日	4文第2864号	「埋蔵物発見届」を市教委教育長から安曇野警察署長あて、「埋蔵文化財保管証」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。
2	令和5年3月1日	4教文第20-143号	「文化財の認定及び県帰属について（通知）」が県教委教育長から発出される。
3	令和6年3月1日	5文第3166号	「出土文化財譲与申請書」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。
4	令和6年3月6日	5教文第24-22号	「出土文化財の譲与について（通知）」が県教委教育長から発出され、譲与が承認される。

試掘で出土した25点を資料化した。

1～7はAトレンチで検出した竪穴住居跡(SI01)覆土からの出土遺物である。1～2は須恵器坏蓋Bで、1は内外面とも灰褐色、2は内外面とも赤褐色を呈する。いずれも天井部が盛り上がり、端部が内側に折れ、側面に条線を施している。3は須恵器坏Aの底部で、内外面とも灰褐色を呈する。底部切り離しは回転糸切である。4は須恵器坏Bの底部で、内外面とも灰褐色を呈し、脚部の接地面に溝状の加工を施している。底部切り離しは回転糸切である。これらの様相から、4は古代第5期（以下、「●期」とする。）に比定できる。

貯蔵具では須恵器甕が2点、須恵器広口壺が1点出土した。5は須恵器甕の口縁部、6は体部であり、いずれも内外面とも灰褐色を呈する。6の外表面はタタキを施し、自然釉を呈する。7は灰釉陶器の広口壺の口縁部で、内外面とも灰褐色を呈し、釉薬は漬け掛けである。これらの様相から10期～11期に比定できるが、SI01は5期の遺構と考えられ、7は時期が矛盾することから、覆土に混入したものと思われる。



第61図 中在地遺跡試掘SI01出土遺物

8～22はDトレンチで検出した竪穴住居跡（SI02）覆土からの出土遺物である。8～12は土師器
 坏Aの口縁部～底部、13～14は体部下半～底部であり、内外面ともに赤褐色を呈する。底部の切り
 離し処理が観察できる8～9、13～14は、いずれも回転糸切である。15～17は土師器碗である。15
 は口縁部～底部であり、外面は赤褐色を呈し、内面にミガキ、黒色処理を施している。18～19は灰
 釉陶器碗である。18は口縁部～体部、19は体部下半～底部である。いずれも内外面とも灰褐色を呈し、
 釉薬は漬け掛けである。



第62図 中在地遺跡試掘SI02・SI03出土遺物

第2章 試掘調査

23はDトレンチで検出した竪穴住居跡（SI03）覆土からの出土遺物である。土師器坏Aの体部下
半～底部であり、内外面ともに赤褐色を呈する。底部切り離しは回転糸切である。

煮炊具は土師器小型甕1点、土師器甕2点、土師器羽釜2点が出土し、このうち20、21はカマド
から出土した。20は土師器小型甕である。口縁部～底部まで大半が残存しており、内外面とも赤褐色
を呈する。体部下半にケズリ処理を施し、底部切り離しは回転糸切である。21も土師器小型甕と考
えられるが、口縁部～体部のみであり器高が不明であることから甕とした。色調は内外面ともに赤褐色
を呈する。20、21はいずれも口頸部は折れるように外反する。22も土師器甕であるが、20、21と異
なりナデ加工を施す。色調は内外面ともに赤褐色を呈する。24、25は土師器羽釜であり、いずれも内
外面とも赤褐色を呈する。24は口縁部～体部であり、ハケメ加工を施すが、鏝は失われており接着痕
を残す。25は24と厚み、色味が類似しているほか、口縁部から鏝までの高さが同じであることから、
同一個体の可能性が高い。

SI02及びSI03からの出土遺物はいずれも10～11期に比定できる遺物であることから、当該時期の
遺構であると考えられる。したがって、当該調査地には少なくとも5期、10～11期と2つの時期の
集落が存在したと考えられる。



第63図 中在地遺跡試掘Dトレンチ出土遺物

第2表 中在地遺跡試掘出土遺物観察表

No.	調査位置	遺構等	層位等	種別	器種 口径 (cm)	残存部位	技法の特徴		
							外面	内面	底部
1	A トレンチ	SI01	第2層	須恵器	坏蓋 B	蓋部	ロクロナデ	ロクロナデ	-
2	A トレンチ	SI01	第2層	須恵器	坏蓋 B	蓋部	ロクロナデ	ロクロナデ	-
3	A トレンチ	SI01	第2層	須恵器	坏 A	体部下半～底部	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切
4	A トレンチ	SI01	第7層	須恵器	坏 B	体部下半～底部	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切 + ヘラケズリ
5	A トレンチ	SI01	第7層	須恵器	甕	口縁部～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	不明
6	A トレンチ	SI01	第2層	須恵器	甕	体部	タタキ + 自然釉	ナデ	不明
7	A トレンチ	SI01	第2層	灰釉	広口壺	口縁部～体部	ロクロナデ + 灰釉	ロクロナデ	不明
8	D トレンチ	SI02	第4層	土師器	坏 A 口径 10.6	口縁部～底部	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切
9	D トレンチ	SI02	第4層	土師器	坏 A	口縁部～底部	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切
10	D トレンチ	SI02	第4層	土師器	坏 A	口縁部～底部	ロクロナデ	ロクロナデ	不明
11	D トレンチ	SI02	第4層	土師器	坏 A	口縁部～底部	ロクロナデ	ロクロナデ	不明
12	D トレンチ	SI02	第4層	土師器	坏 A	口縁部～底部	ロクロナデ	ロクロナデ	不明
13	D トレンチ	SI02	第4層	土師器	坏 A	体部下半～底部	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切
14	D トレンチ	SI02	第4層	土師器	坏 A	体部下半～底部	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切
15	D トレンチ	SI02	第4層	土師器	椀 口径 13.5	口縁部～底部	ロクロナデ	ロクロナデ + ミガキ + 黒色処理	回転糸切
16	D トレンチ	SI02	第4層	土師器	椀	体部下半～底部	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切
17	D トレンチ	SI02	第4層	土師器	椀	体部下半～底部	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切
18	D トレンチ	SI02	第4層	灰釉	椀	口縁部～体部	ロクロナデ + 灰釉	ロクロナデ	不明
19	D トレンチ	SI02	第4層	灰釉	椀	体部下半～底部	ロクロナデ + 灰釉	ロクロナデ	回転糸切
20	D トレンチ	SI02	カマド	土師器	小型甕	口縁部～底部	ロクロナデ + ケズリ	ロクロナデ	回転糸切
21	D トレンチ	SI02	カマド	土師器	甕	口縁部～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	不明
22	D トレンチ	SI02	第4層	土師器	甕	体部下半～底部	ナデ	ナデ	ナデ
23	D トレンチ	SI03	覆土	土師器	坏 A	体部下半～底部	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切
24	D トレンチ	—	第4層	土師器	羽釜	口縁部～体部	ナデ + ハケメ	ナデ	不明
25	D トレンチ	—	第4層	土師器	羽釜	口縁部～体部	ナデ	ナデ	不明

第2章 試掘調査



1 調査地全景 (南から)



2 調査地全景 (上が西)



3 調査地近景 (南から)



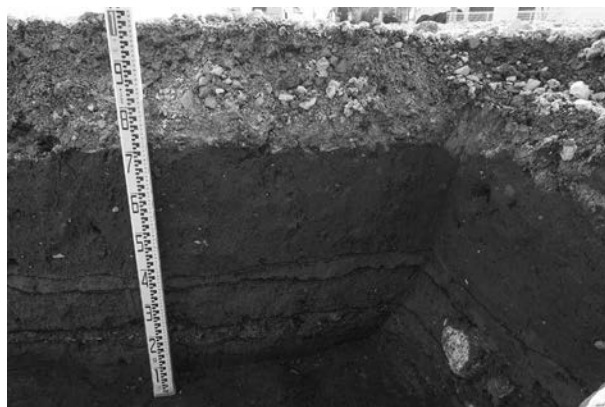
4 調査地近景 (北から)



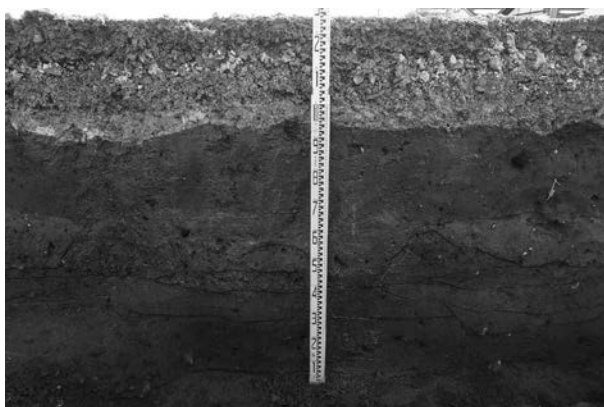
5 Aトレンチ全景 (東から)



6 A トレンチ南壁 (東端)



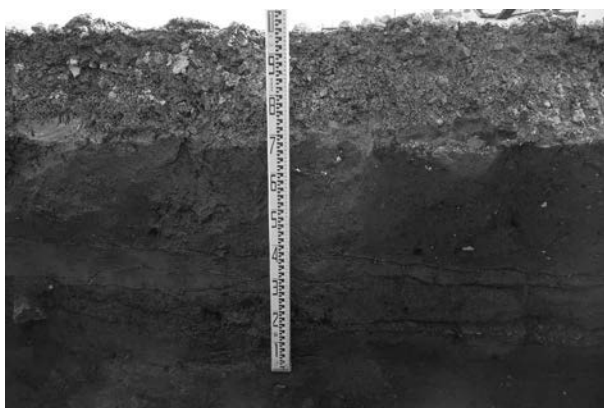
7 A トレンチ南壁 (西端)



8 A トレンチ南壁 SI01 (東)



9 A トレンチ南壁 SI01 (中央)



10 A トレンチ南壁 SI01 (西)



11 A トレンチ南壁 SP01



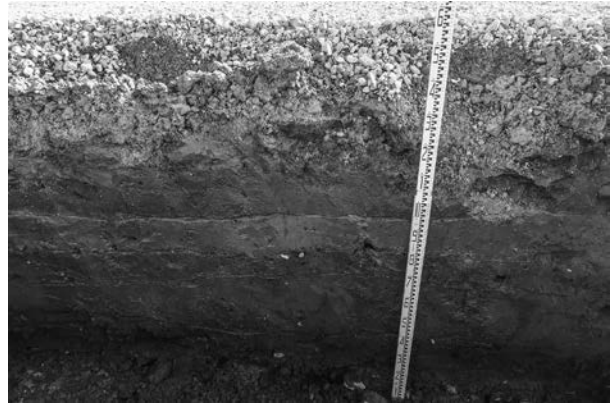
12 B トレンチ全景 (西から)



13 B トレンチ南壁



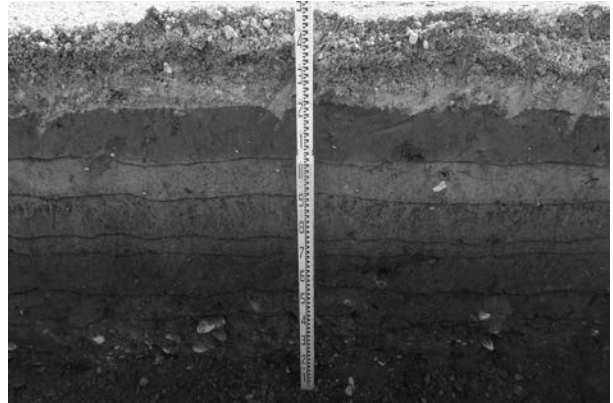
14 C トレンチ全景 (東から)



15 C トレンチ南壁



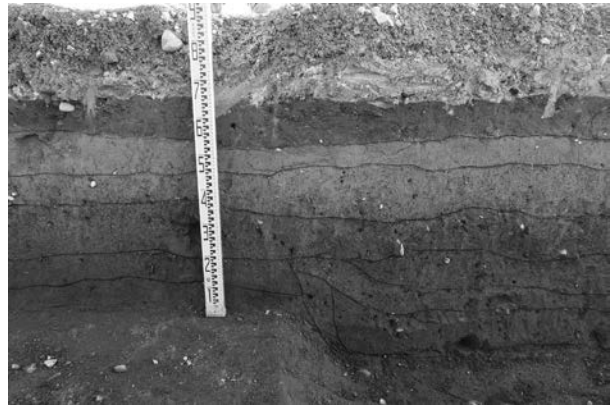
16 D トレンチ全景 (東から)



17 D トレンチ南壁



18 D トレンチ西壁



19 D トレンチ南壁 SI02 (東)



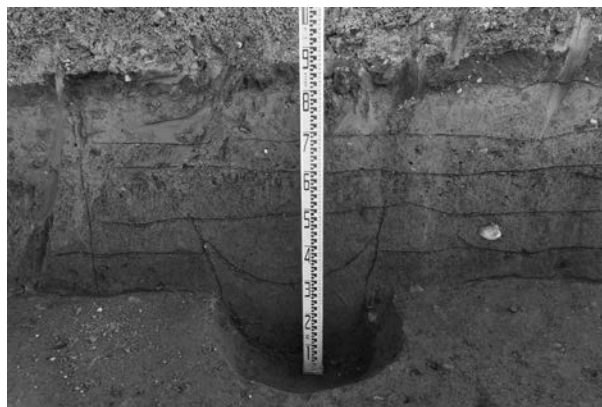
20 D トレンチ南壁 SI02 (カマド)



21 D トレンチカマド完掘



22 D トレンチ SI02 カマド遺物出土状況



23 D トレンチ南壁 SP02



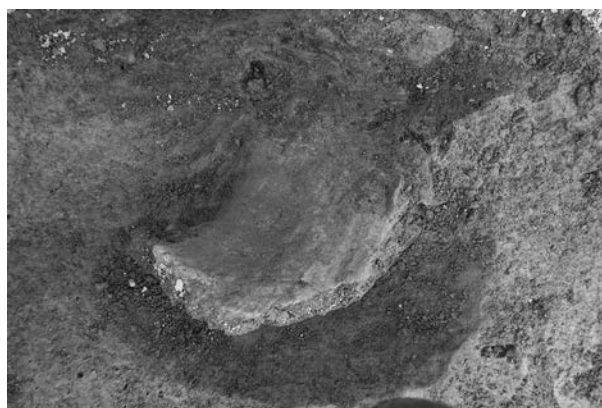
24 D トレンチ遺構 (上が北)



25 D トレンチ SI02 遺物出土状況

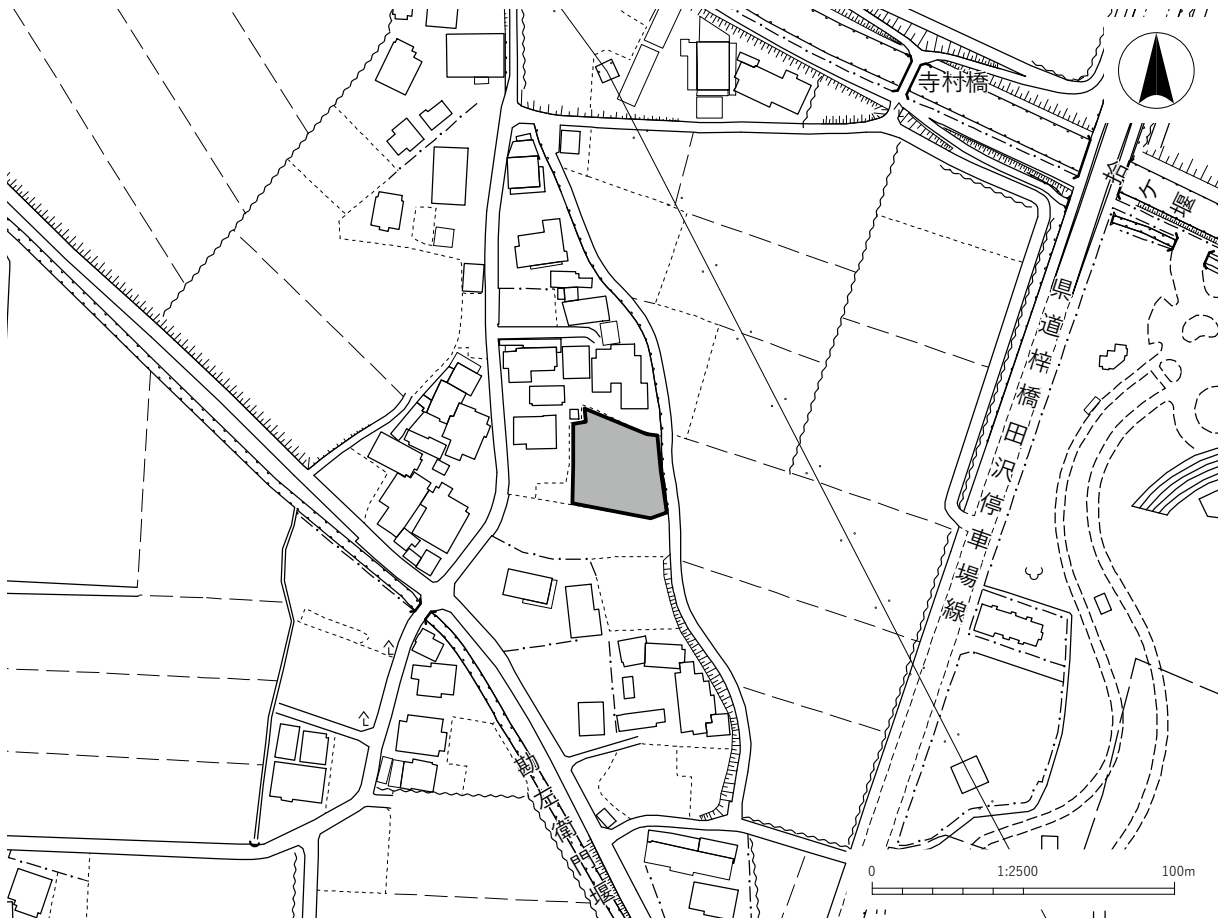


26 D トレンチ SI02 遺物出土状況



27 D トレンチ遺物出土状況

17 日光寺跡（第1表■174）



第64図 日光寺跡試掘位置図

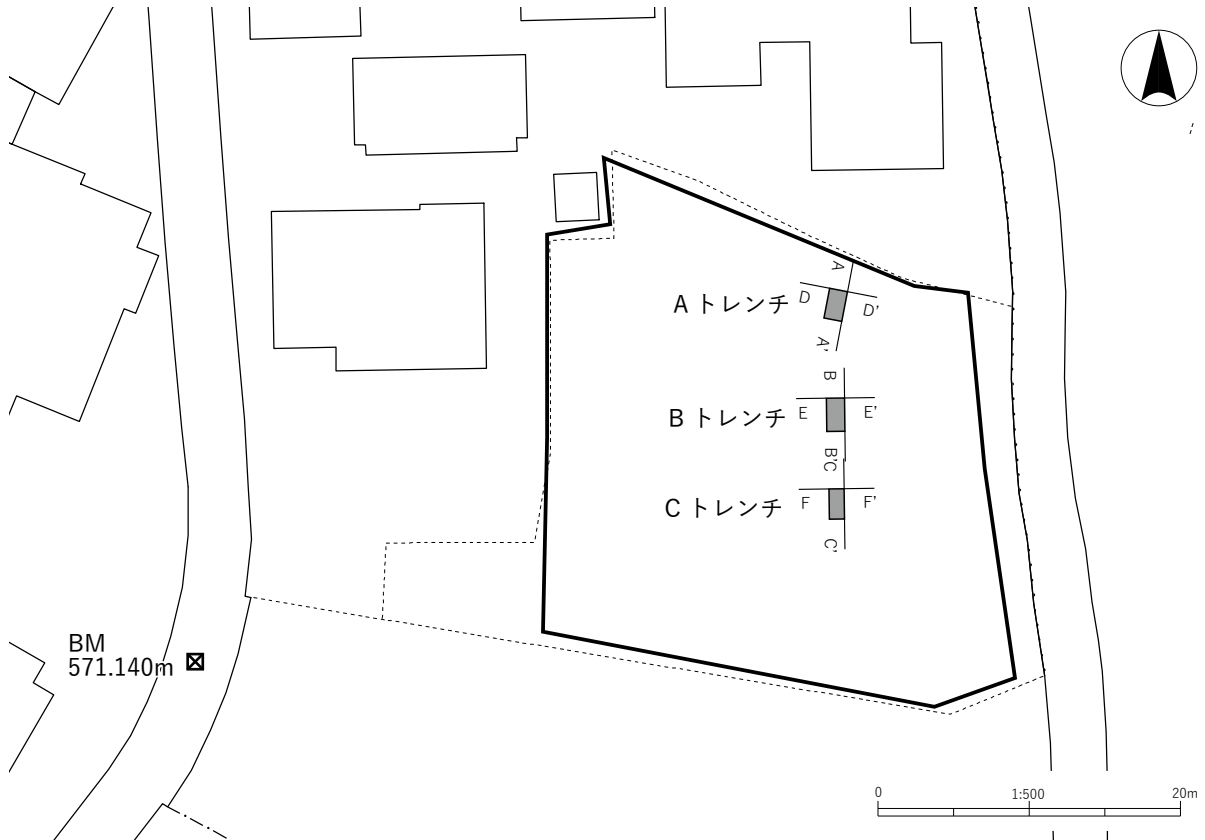
所在地	安曇野市豊科 1357 番 1 外 2 筆	調査面積	7㎡
調査期間	令和 5 年（2023）2 月 20 日	調査契機	宅地造成
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、臼居直之、田多井智恵、望月裕子、寺島俊郎		

(1) 概要

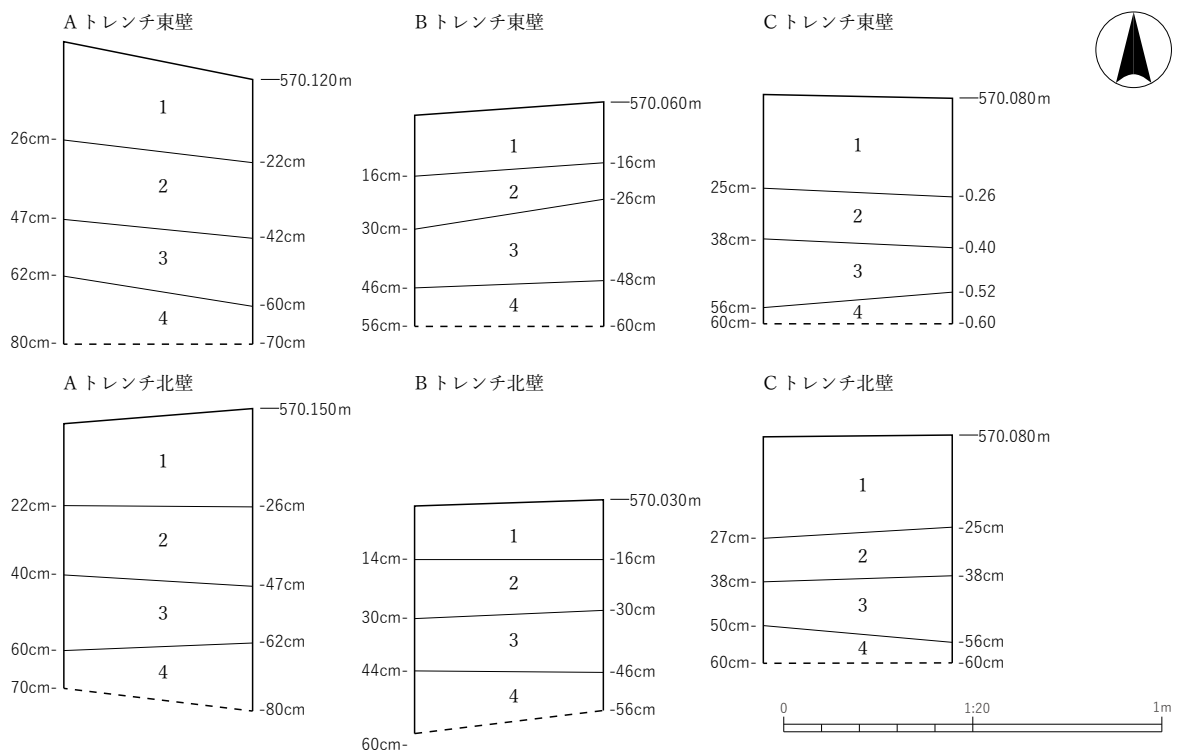
日光寺跡は、犀川左岸の段丘上に所在する中世の社寺跡である。この遺跡では、これまでに発掘調査を実施した記録はない。

今回は造成工事により切土される範囲に調査区を設定し、試掘調査を実施した。その結果、各トレンチ第2層において炭化物粒を少量検出したものの、いずれのトレンチにおいても遺構、遺物は存在しなかった。

上記の結果から、今回の工事での本発掘調査は不要と判断した。



第65図 日光寺跡試掘トレンチ配置図



- 1, 水田耕作土
10YR2/1 黒色粘土
しまり強、粘性強
炭化物粒2%混入
- 2, 10YR3/2 黒褐色粘土
しまり強、粘性強
径1cm程度の垂円礫2%混入
炭化物、炭化物粒5%混入
下部に鉄、マンガンの斑紋状の集積若干あり
- 3, 10YR3/3 暗褐色粘土
しまり強、粘性強
シルト質
径2~3cm程度の垂円礫3%混入
鉄、マンガンの集積層
- 4, 10YR4/4 褐色シルト
しまり弱、粘性弱
礫層
径2~6cm程度の垂円礫40%混入

第66図 日光寺跡試掘土層概念図

第2章 試掘調査



1 調査地全景（東から）



2 調査地近景（南から）



3 A トレンチ完掘（南から）



4 A トレンチ東壁



5 B トレンチ完掘（東から）



6 B トレンチ東壁



7 C トレンチ完掘（南から）



8 C トレンチ東壁

18 追堀遺跡（第1表■182）



第67図 追堀遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市穂高柏原 1649 番 7	調査面積	8㎡
調査期間	令和 5 年（2023）3 月 1 日	調査契機	個人住宅
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、白居直之、田多井智恵、望月裕子		

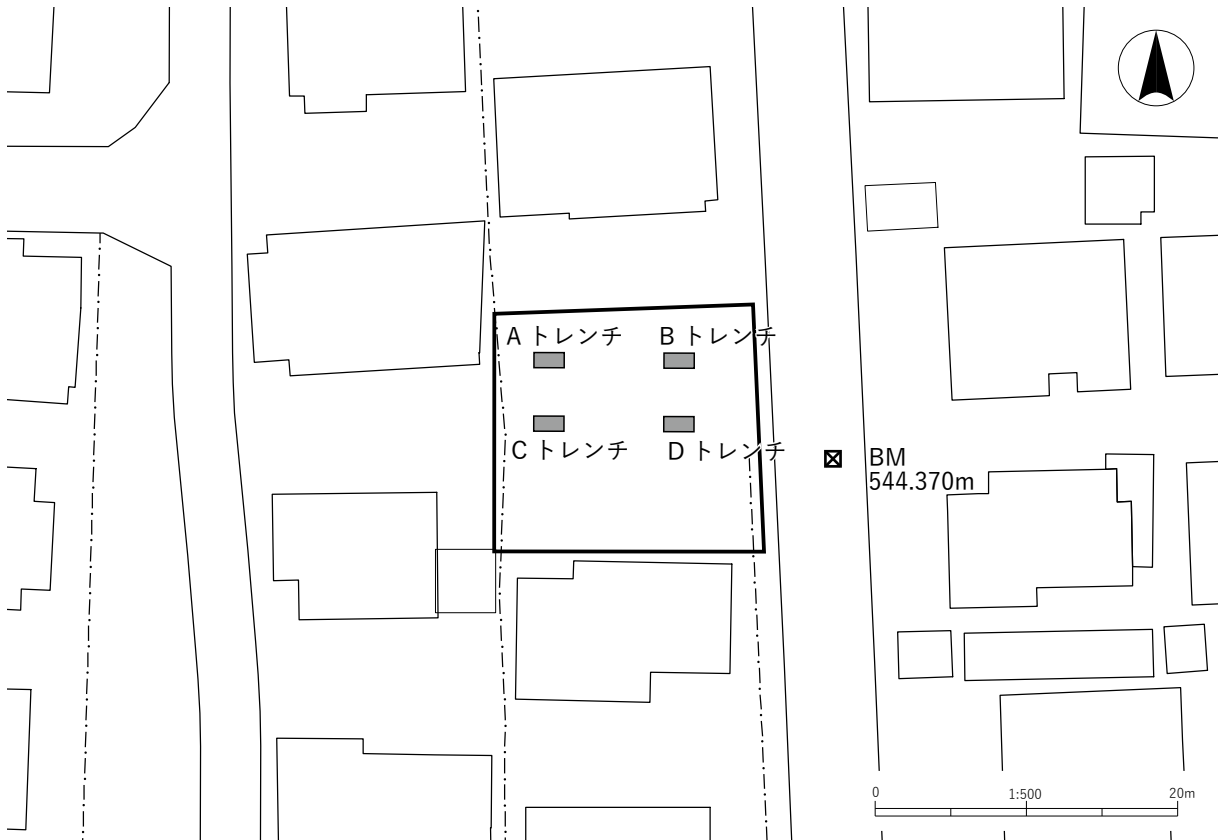
(1) 概要

追堀遺跡は、烏川扇状地の扇央に所在する平安時代の集落跡である。この遺跡では、平成 29 年（2017）度に小規模な発掘調査を実施したほか、試掘及び工事立会を継続しており、平安時代の遺構分布が明らかになりつつある（安曇野市教委 2019b）。

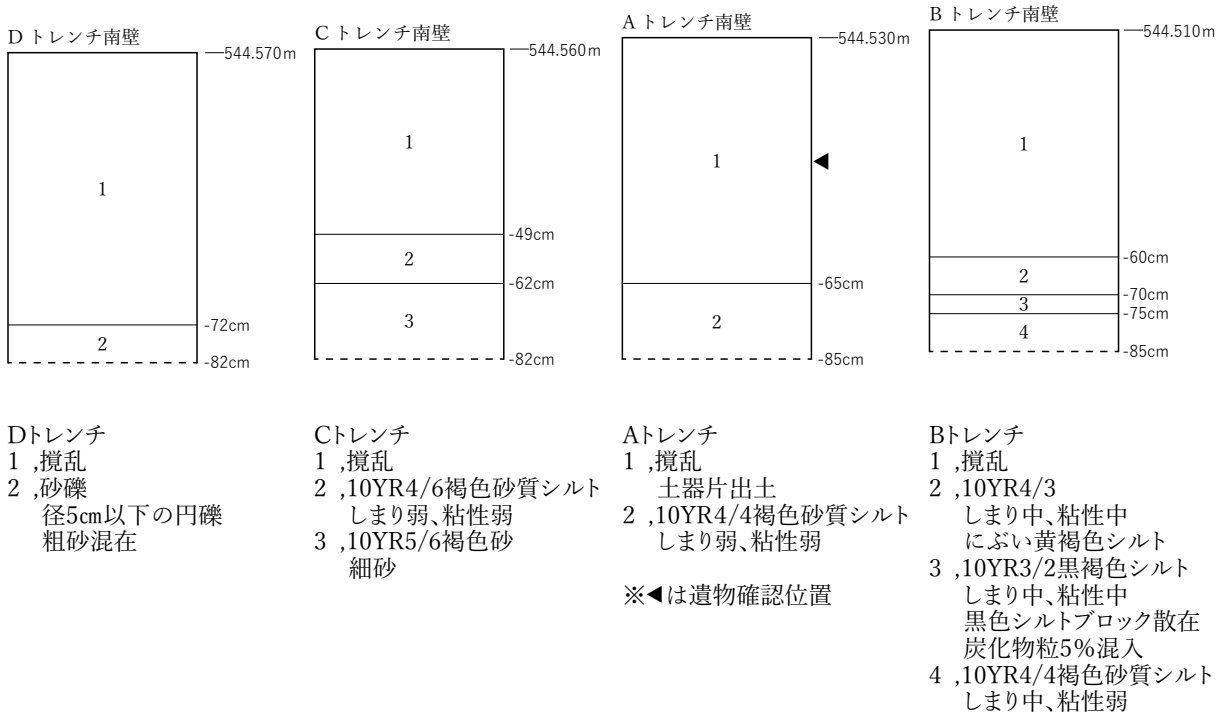
今回は表層改良計画範囲に調査区を計 4 か所設定し、試掘調査を実施した。その結果、A トレンチ第 1 層（攪乱層）及び表土より古代の土師器を採集したが、遺構は検出しなかった。

上記の結果から、今回の工事での本発掘調査は不要と判断した。

第2章 試掘調査



第68図 追堀遺跡試掘トレンチ配置図



第69図 追堀遺跡試掘土層概念図



1 調査地全景（上が北）



2 調査地全景（南東から）



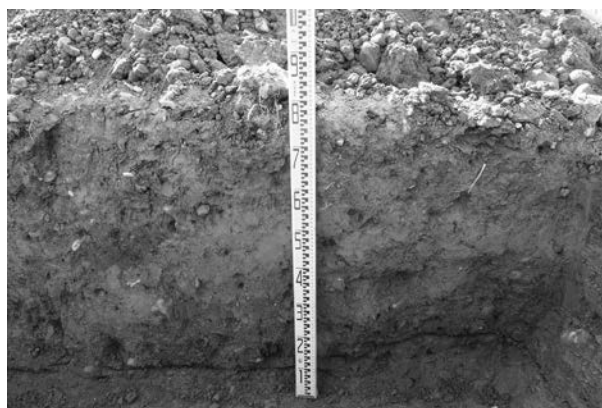
3 調査地近景（東から）



4 調査地近景（西から）



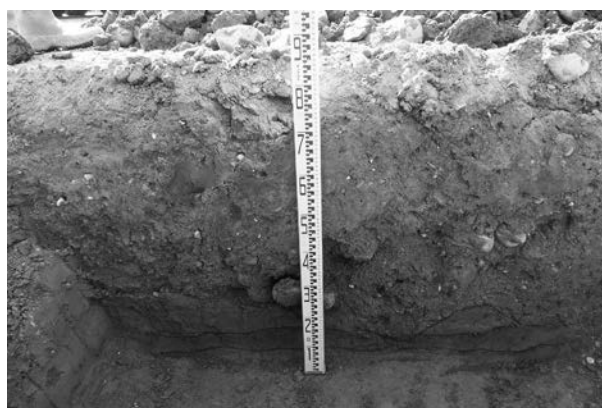
5 A トレンチ完掘（東から）



6 A トレンチ南壁



7 B トレンチ完掘（東から）

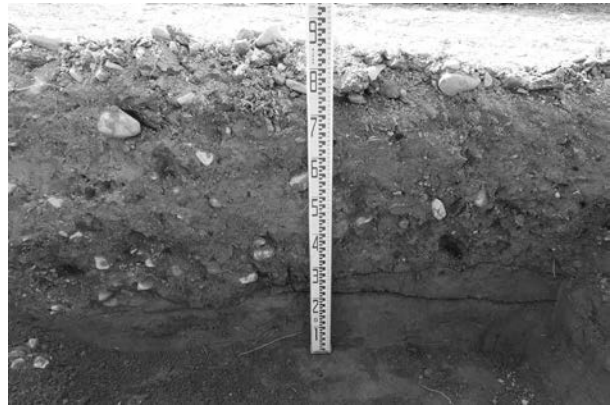


8 B トレンチ南壁

第2章 試掘調査



9 C トレンチ完掘 (東から)



10 C トレンチ南壁



11 D トレンチ完掘 (東から)



12 D トレンチ南壁



13 A トレンチ出土遺物



14 表採遺物

19 明科遺跡群本町遺跡（第1表■185）



第70図 本町遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市中川手 3929 番 5 先	調査面積	3m ²
調査期間	令和 5 年 (2023) 3 月 9 日	調査契機	道路
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、白居直之、田多井智恵、望月裕子		

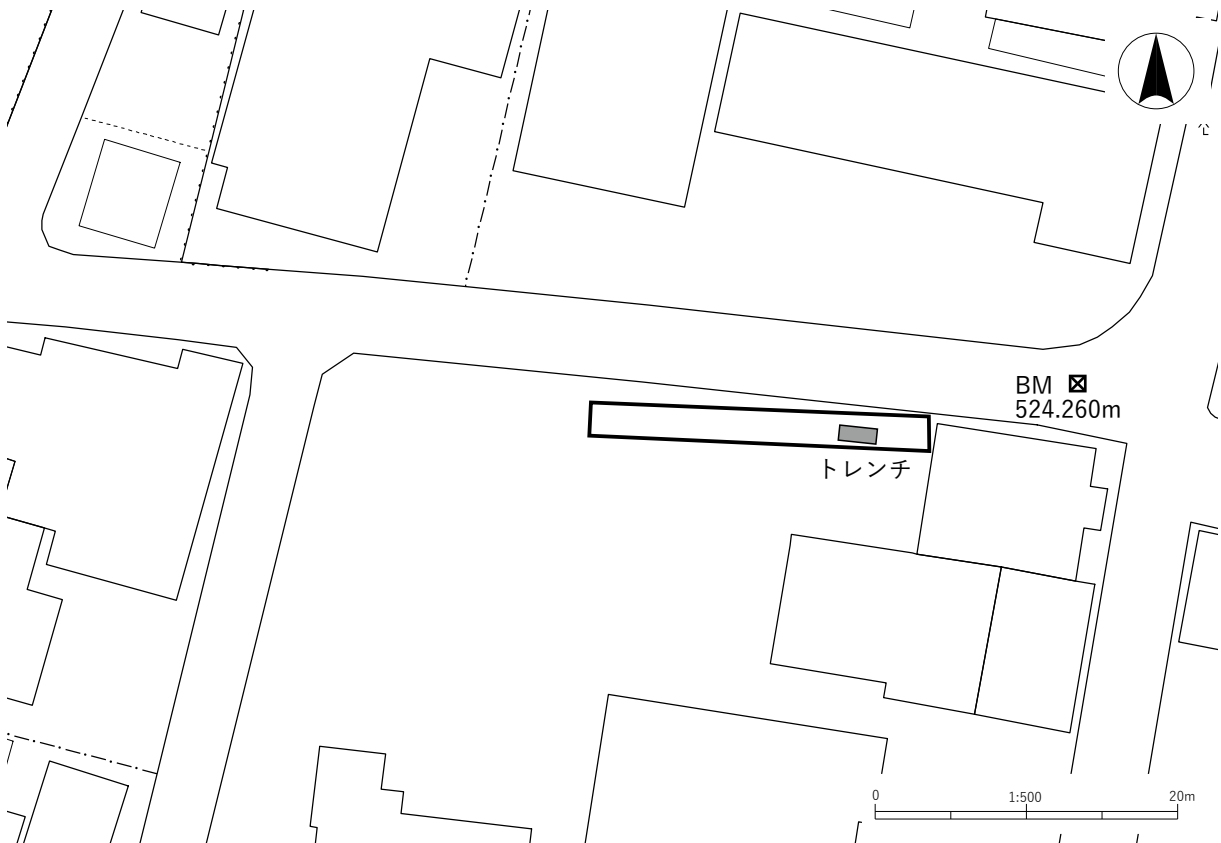
(1) 概要

明科遺跡群本町遺跡（以下、「本町遺跡」とする。）は、犀川右岸の段丘上に所在する弥生～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに発掘調査を実施した記録はないが、西側に隣接する明科遺跡群龍門淵遺跡では、昭和 56 年（1981）の土取りの際に、弥生土器、古墳～平安時代の土器が出土している（明科町史編纂会編 1984）。なお本工事の計画範囲は両遺跡に跨るため、文化財保護法第 94 条に基づく通知には併記されているが、試掘調査は本町遺跡の範囲内で行ったため、本報告書では本町遺跡のみの調査実績として取り扱うものとする。

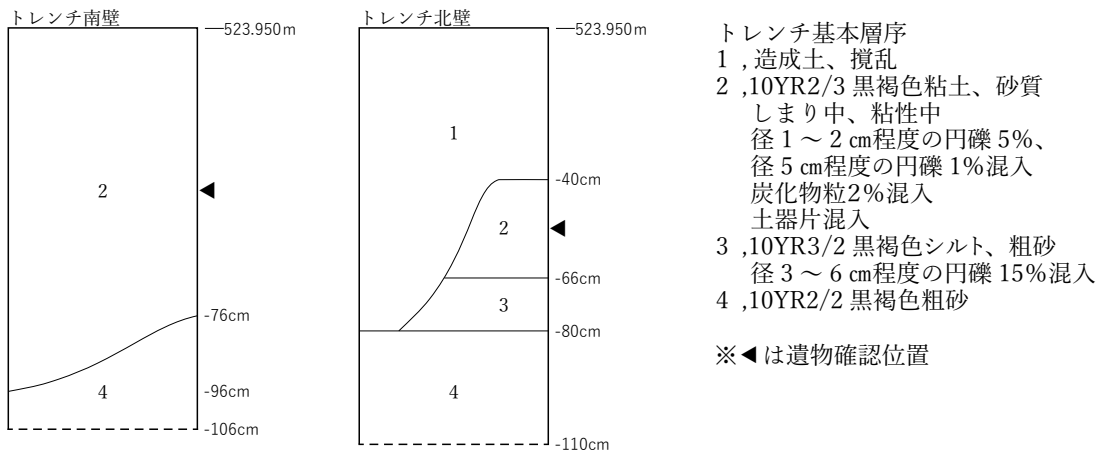
今回は道路拡張予定地に調査区を設定し、試掘調査を実施した。その結果、トレンチ第 2 層（近代以降の攪乱と見られる）から古墳時代の土師器が出土したが、遺構は検出されなかった。

上記の結果から、今回の工事での本発掘調査は不要と判断した。

第2章 試掘調査



第71図 本町遺跡試掘トレンチ配置図



第72図 本町遺跡試掘土層概念図



1 調査地遠景（北東から）



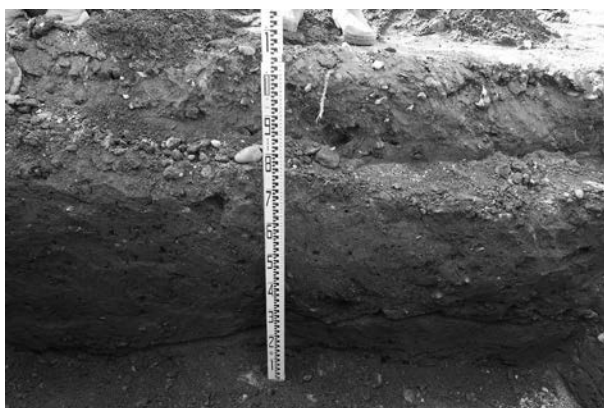
2 調査地遠景（西から）



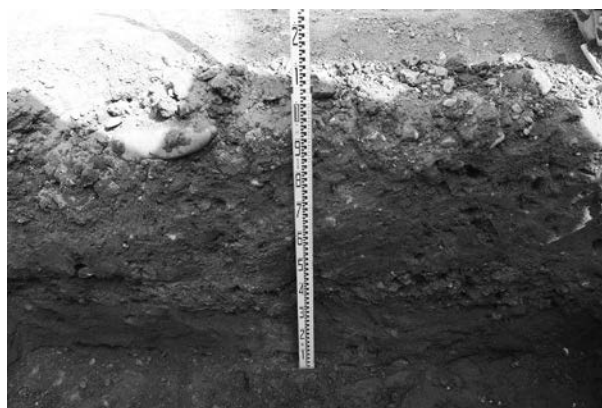
3 調査地近景（西から）



4 トレンチ完掘（西から）



5 トレンチ南壁



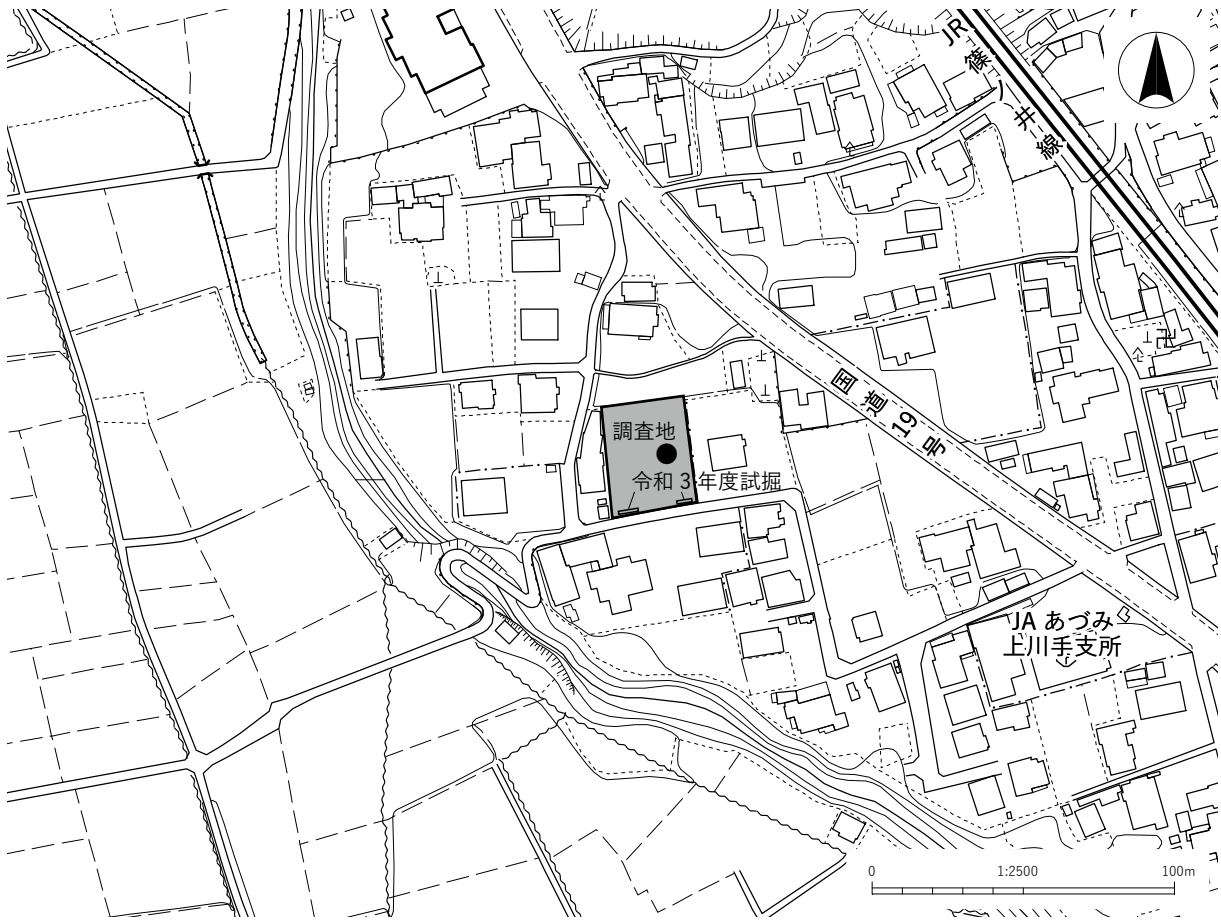
6 トレンチ北壁



7 第2層出土遺物

第3章 工事立会

1 小瀬幅遺跡（第1表●38）



第73図 小瀬幅遺跡工事立会位置図

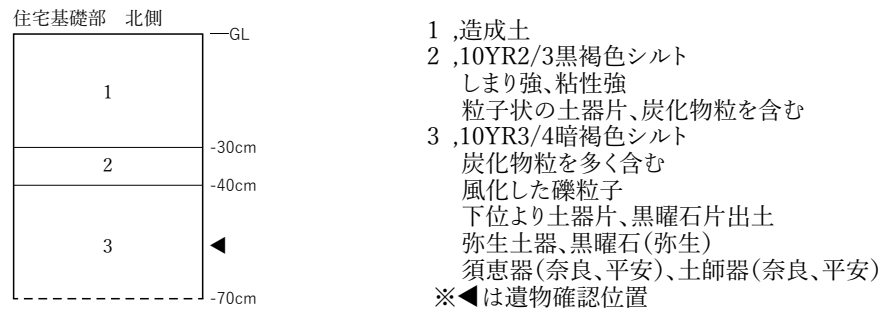
所在地	安曇野市豊科田沢 4821 番 1	調査契機	個人住宅
調査期間	令和4年（2022）7月21日	調査担当者	斉藤雄太

(1) 概要

小瀬幅遺跡は、犀川右岸段丘上に所在する弥生時代及び平安時代の遺物の散布地である。この遺跡では、これまでに1次の発掘調査を実施し、当該時期の遺構、遺物を確認している（安曇野市教委2019）。またこの場所では、造成工事に先立って令和3年（2021）5月25日に試掘調査を実施し、時期不明の土坑及びピットを確認したほか、弥生土器、須恵器、土師器の小破片が少量出土した。また、掘削底面で竪穴建物跡の可能性の高い遺構の輪郭を確認している（安曇野市教委2023）。

工事立会では個人住宅建築に伴う基礎掘削に際し土層を観察し、第74図のと通りの所見を得た。第1層は造成土、第2層は土器粒子及び炭化物粒を含むシルト層、第3層は風化した礫を含むシルト層で、下位から弥生土器、黒曜石（弥生）、須恵器（奈良、平安）、土師器（奈良、平安）が出土した。なお遺構は検出しなかった。

上記の結果から、本件施工地周辺には埋蔵文化財が良好に残存している可能性が高いため、今後の土木工事では注意が必要である。



第74図 小瀬幅遺跡工事立会土層概念図



1 工事立会掘削（北西から）



2 掘削北壁



3 第3層出土遺物

引用・参考文献（五十音順）

- 明科町史編纂会 1984 『明科町史 上巻』 明科町史編纂会
- 明科町教育委員会 1997 『塩田若宮遺跡—明科町立明北小学校体育館建て替え工事に伴う緊急発掘調査報告書—』
明科町の埋蔵文化財第10集 明科町教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2009 『三枚橋・藤塚遺跡—穂高交流学習センター建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』
安曇野市の埋蔵文化財第2集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2010 『平成20年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書 八ツ口遺跡・三枚橋遺跡』
安曇野市の埋蔵文化財第3集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2011 『平成21年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書 塩田若宮遺跡（第2次）』
安曇野市の埋蔵文化財第4集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2017 『明科遺跡群明科廃寺4—個人住宅建設に伴う第4次発掘調査報告書—』
安曇野市の埋蔵文化財第12集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2019 『平成29年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書』
安曇野市の埋蔵文化財第17集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2021 『明科遺跡群明科廃寺第5次発掘調査の概要』 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2023 『令和3年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書』
安曇野市の埋蔵文化財第28集 安曇野市教育委員会
- 小平和夫 1990 「古代の土器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4—松本市内その1—総論編』
長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書4 長野県埋蔵文化財センター pp.97-158
- 長野県埋蔵文化財センター 1989 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書10—松本市内 その7・豊科町内—
南中遺跡 北中遺跡 北方遺跡 上手木戸遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書10
長野県埋蔵文化財センター
- 堀金村教育委員会 2005 『長野県南安曇郡堀金村 堀金小学校付近遺跡—小学校の下に埋もれていた平安時代のムラ
—』堀金村の埋蔵文化財第2集 堀金村教育委員会
- 松本市教育委員会 2017 『長野県松本市 三間沢川左岸遺跡—発掘調査報告書—』
松本市文化財調査報告 No.226 松本市教育委員会

調査報告書抄録

ふりがな	れいわ4ねんどあづみのしまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	令和4年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	安曇野市の埋蔵文化財							
シリーズ番号	第29集							
編著者名	斉藤雄太、山下泰永、堀久士							
編集機関	安曇野市教育委員会							
所在地	〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地 TEL 0263-71-2000							
発行年月日	西暦2024年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
ほたかこうこうきたいせき 穂高高校北遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたか 穂高6863番3	20220	2-41	36° 20′ 14″	137° 53′ 08″	20220412 ～ 20220412	3	その他開 発（駐車 場）
ふじつかいせき 藤塚遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたか 穂高2433番1外24筆	20220	2-38	36° 20′ 02″	137° 53′ 26″	20220414 ～ 20220414	15	店舗
おっぼりいせき 追堀遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたかかしわばら 穂高 柏原1689番1外2 筆	20220	2-45	36° 19′ 47″	137° 53′ 21″	20220616 ～ 20220616	7	集合住宅
やつちいせき 八ツ口遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたかかしわばら 穂高 柏原960番4外4筆	20220	2-56	36° 19′ 41″	137° 53′ 27″	20220726 ～ 20220726	17	宅地造成
あかしないせきぐん 明科遺跡群 あかしなはいじ 明科廃寺	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 あかしなながわて 明科中川手3774番7外 1筆	20220	5-409	36° 21′ 12″	137° 55′ 42″	20220907 ～ 20220907	9	保存目的
わできどいせき 上手木戸遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 とよしなみなみほたか 豊科 南穂高138番1	20220	1-4	36° 18′ 06″	137° 55′ 13″	20220916 ～ 20220916	2	その他開 発（駐車 場）
あかしないせきぐん 明科遺跡群 あかしなはいじ 明科廃寺	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 あかしなながわて 明科中川手3774番3外 1筆	20220	5-409	36° 21′ 12″	137° 55′ 42″	20220916 ～ 20220916	16	保存目的
わできどいせき 上手木戸遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 とよしなみなみほたか 豊科 南穂高96番6外 2筆	20220	1-4	36° 18′ 06″	137° 55′ 13″	20221007 ～ 20221011	1	宅地造成
なかざいちいせき 中在地遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたか 穂高528番	20220	2-58	36° 19′ 22″	137° 53′ 49″	20221020 ～ 20221020	8	個人住宅
うしおいせきぐん 潮遺跡群 しおだわかみやいせき 塩田若宮遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 あかしながわて 明科 東川手872番1	20220	5-512	36° 21′ 57″	137° 55′ 58″	20221024 ～ 20221024	8	その他開 発（園庭 改修）

やのすけばたけいせき 弥之助畑遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたかかしわばら 穂高 柏原1562番1外1 筆	20220	2-61	36° 19' 29"	137° 53' 21"	20221109 ～ 20221109	4	宅地造成
ほりがねしょうがっこう 堀金小学校 ふきんいせき 付近遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほりがねからすがわ 堀金 烏川 2842番1の 内外3筆	20220	4-24	36° 17' 35"	137° 52' 29"	20221114 ～ 20221114	7	宅地造成
やばらみやじいせき 矢原宮地遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたか 穂高 823番4外1筆	20220	2-49	36° 19' 30"	137° 53' 47"	20221122 ～ 20221122	9	個人住宅
やつくちいせき 八ツ口遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたかかしわばら 穂高 柏原955番1外1 筆	20220	2-56	36° 19' 40"	137° 53' 26"	20221129 ～ 20221129	9	宅地造成
ふじつかいせき 藤塚遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたか 穂高 6780番8付近	20220	2-38	36° 19' 59"	137° 53' 13"	20221214 ～ 20230111	321	道路
なかざいちいせき 中在地遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたか 穂高 753番1外2筆	20220	2-58	36° 19' 23"	137° 53' 49"	20230215 ～ 20230217	76	宅地造成
にっこうじあと 日光寺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 とよしな 豊科 1357番1外2筆	20220	1-40	36° 16' 33"	137° 55' 04"	20230220 ～ 20230220	7	宅地造成
おっぼりいせき 追堀遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたかかしわばら 穂高 柏原 1649番7	20220	2-45	36° 19' 42"	137° 53' 17"	20230301 ～ 20230301	8	個人住宅
あかしないせきぐん 明科遺跡群 ほんまちいせき 本町遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 あかしななかがわて 明科中川手 3929番5先	20220	5-414 5-412	36° 21' 22"	137° 55' 38"	20230309 ～ 20230309	3	道路

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
穂高高校北遺跡	集落跡	平安時代	なし	なし	調査範囲・深度では埋蔵文化財が存在しない。
藤塚遺跡	集落跡	古墳時代 平安時代	なし	なし	調査範囲・深度では埋蔵文化財が存在しない。
追堀遺跡	集落跡	平安時代	なし	なし	調査範囲・深度では埋蔵文化財が存在しない。
八ツ口遺跡	集落跡	奈良時代 ～中世	なし	土師器、須恵器	深度 30～40cm から奈良・平安時代土器片が出土。
明科遺跡群 明科廃寺	社寺跡	古墳時代 ～平安時代	ピット、溝	土師器、須恵器、古代の瓦	深度 0.5～1.0m で古代の遺物包含層を確認。
上手木戸遺跡	集落跡	中世	なし	なし	調査範囲・深度では埋蔵文化財が存在しない。
明科遺跡群 明科廃寺	社寺跡	古墳時代～ 平安時代	なし	土師器、須恵器、古代の瓦、縄文土器	深度 0.6m 付近で古代の遺物包含層を確認。

上手木戸遺跡	集落跡	中世	なし	なし	調査範囲・深度では埋蔵文化財が存在しない。
中在地遺跡	集落跡	縄文時代 古墳時代 ～平安時代	土坑（時期不明）	土師器、須恵器	深度 60cm 付近に時期不明土坑を確認。奈良・平安時代土器片が出土。
潮遺跡群 塩田若宮遺跡	集落跡	縄文時代 古墳時代 ～平安時代	なし	なし	調査範囲・深度では埋蔵文化財が存在しない。
弥之助畑遺跡	集落跡	平安時代	なし	土師器	表土下から平安時代土師器片 1 点が出土。
堀金小学校付近遺跡	集落跡	古墳時代 ～平安時代	ピット、土坑	土師器、須恵器	深度 1m 付近にピット、深度 40～70cm で平安時代土師器小片が出土。
矢原宮地遺跡	集落跡	縄文時代 古墳時代 ～平安時代	竪穴住居跡、ピット	土師器、須恵器	深度 80cm 以深に平安時代の竪穴住居跡、ピットを確認。土器小片が出土。
八ツ口遺跡	集落跡	奈良時代 ～中世	なし	土師器	深度 0.6m 付近に土師器小片包含層を確認。
藤塚遺跡	集落跡	古墳時代 平安時代	竪穴建物跡（時期不明）、ピット（時期不明）	なし	南東で竪穴建物の可能性のある遺構とピットを確認。土器小片が少量出土。
中在地遺跡	集落跡	縄文時代 古墳時代 ～平安時代	竪穴建物跡、ピット（時期不明）	土師器、須恵器	深度 0.7m 付近に奈良・平安時代竪穴建物跡の掘り込みを確認。
日光寺跡	社寺跡	中世	なし	なし	調査範囲・深度では埋蔵文化財が存在しない。
追堀遺跡	集落跡	平安時代	なし	土師器	攪乱層・表土より古代の土器が出土。
明科遺跡群 本町遺跡	集落跡	弥生時代 ～平安時代	なし	土師器	攪乱層から古墳時代の土器が出土。
要約	<p>令和 4 年度に長野県安曇野市内で実施した埋蔵文化財保護措置及びこれに伴う試掘、工事立会の結果を掲載した。発掘調査等の総数は全 195 件で、このうち 194 件を安曇野市教育委員会が主体となって実施した。なお、この内訳は発掘調査 0 件、試掘 19 件、工事立会 106 件、慎重工事 69 件である。</p> <p>試掘調査の成果は、全 19 件を掲載した。明科遺跡群明科廃寺では、地表下 0.5～1.0m に古代の遺物包含層が残存しており、土師器・須恵器と共に古代の瓦が多量に出土した。中在地遺跡では竪穴住居跡を 3 棟確認した。奈良時代及び平安時代の遺物が多数出土していることから、少なくとも 2 つの時代に存在した集落跡であることを確認できた。</p> <p>この他、遺物が出土した工事立会の成果を 1 件掲載した。小瀬幅遺跡では、個人住宅の基礎掘削に際し掘削断面から弥生土器、黒曜石片のほか奈良、平安時代の土師器・須恵器が出土した。</p>				

安曇野市の埋蔵文化財第 29 集
令和 4 年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書

発行 令和 6 年（2024）3 月 31 日
安曇野市教育委員会
〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地
電話0263-71-2000
編集 安曇野市教育委員会
印刷 有限会社アルプス印刷

